

IBM Content Manager for iSeries



システム管理ガイド

バージョン 5 リリース 3

IBM Content Manager for iSeries



システム管理ガイド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、155 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Content Manager for iSeries (プロダクト番号 5722-VII) のバージョン 5、リリース 3 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。本書は SC88-4004-00 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC27-1136-01
IBM Content Manager for iSeries
System Administration Guide
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1997, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

本書について	v
本書の対象読者	v
本書の構成	v
バージョン 5.3 の新機能	vi
本書の使用方法	vi
前提条件および関連情報	vi
Web で入手可能なサポート	vii
iSeries ナビゲーター	vii
WWW で入手可能な情報	vii
第 1 章 Content Manager for iSeries の紹介	1
Content Manager for iSeries の使用	2
プロファイルのメンテナンス	3
データベース・ユーティリティ	3
第 2 章 ライブラリー・サービス	5
概念	5
項目	5
キー・フィールド	6
索引クラス	6
索引クラスの計画	6
索引クラスに関連するパフォーマンスの考慮事項	6
キー・フィールドおよび索引クラスの定義	8
キー・フィールドの処理	9
キー・フィールドの作成	11
キー・フィールドの変更	12
キー・フィールドのコピー	13
キー・フィールドの削除	13
キー・フィールドの表示	14
索引クラスの処理	15
システム定義の索引クラス	15
索引クラスの作成	17
索引クラスの変更	26
索引クラスのコピー	27
索引クラスの削除	28
索引クラスの表示	29
第 3 章 ワークフローでの処理	31
プロファイル定義の管理	32
ワーク・バスケットの処理	32
ワーク・バスケットの作成	33
ワーク・バスケットの変更	37
ワーク・バスケットのコピー	38
ワーク・バスケットの削除	39
ワーク・バスケットの表示	39
第 4 章 ユーザーのアクセスおよびセキュリティ	41
特権セットの処理	43

特権セットの作成	45
特権セットの変更	51
特権セットのコピー	52
特権セットの削除	52
特権セットの表示	53
グループの処理	53
グループの作成	55
グループの変更	56
グループのコピー	56
グループの削除	57
グループの表示	58
グループ・エントリーの処理	58
グループ・エントリーの追加	60
グループ・エントリーの削除	60
アクセス・リストの処理	61
アクセス・リストの作成	63
アクセス・リストの変更	64
アクセス・リストのコピー	64
アクセス・リストの削除	65
アクセス・リストの表示	66
アクセス・リスト・エントリーの処理	66
アクセス・リスト・エントリーの追加	68
アクセス・リスト・エントリーの変更	69
アクセス・リスト・エントリーのコピー	70
アクセス・リスト・エントリーの削除	70
アクセス・リスト・エントリーの表示	71
ユーザー・プロファイルの処理	72
ユーザー・プロファイルの作成	73
ユーザー・プロファイルの変更	74
ユーザー ID のコピー	75
ユーザー・プロファイルの削除	75
ユーザー・プロファイルの表示	76
第 5 章 ストレージ管理	77
DASD の管理	77
DASD への文書の保管	77
光ディスクからの文書のバッチ検索	78
光ディスクの管理	79
光ディスク・ストレージ・システム	79
光ディスク・ストレージ方式の設計	80
コレクションによる文書の保管	80
システム割り当てによる保管	80
索引クラス NOINDEX についての考慮事項	81
光ディスク記憶方式の実施	81
コレクションによる保管	81
システム割り当てによる保管	82
光ディスクからの文書の検索	83
複数の光ディスク・ドライブ上の文書のバッチ検索	83
LAN 接続の光ディスクからの文書の直接表示	84
表示のための DASD への文書のコピー	85

サーバーの定義	85
サーバーの処理	86
サーバー項目の作成	87
サーバー項目の変更	89
サーバー項目のコピー	89
サーバー項目の削除	90
サーバー項目の表示	90
オブジェクト・ディレクトリーの定義	91
オブジェクト・ディレクトリーの処理	92
オブジェクト・ディレクトリーの作成	94
オブジェクト・ディレクトリーの変更	96
オブジェクト・ディレクトリーのコピー	96
オブジェクト・ディレクトリーの削除	97
オブジェクト・ディレクトリーの表示	97
光ディスク・システムの定義	97
光ディスク・システムの処理	98
光ディスク・システムの作成	100
光ディスク・システムの変更	107
光ディスク・システムのコピー	108
光ディスク・システムの削除	109
光ディスク・システムの表示	109
記憶クラスの定義	110
記憶クラス・プロファイルの処理	112
記憶クラスの作成	113
記憶クラスの変更	117
記憶クラス・プロファイルのコピー	118
記憶クラスの削除	118
記憶クラスの表示	119
使用ボリュームの表示	120
コレクションの定義	120
コレクションの処理	120
コレクションの作成	122
コレクションの変更	124
コレクションのコピー	124
コレクションの削除	125
コレクションの表示	125
ストレージ管理ジョブの処理	126

オブジェクト削除の処理	128
インポート処理	129
対話式検索処理	132
光ディスク記憶要求の配布	133
光ディスク検索処理	135
光ディスク記憶処理	137

第 6 章 データベース・ユーティリティ

ー	139
項目のロックの解除	139
作業バスケット・ロックの解除	140
ワーク・マネージメント・プロファイルのロックの解除	141
保留状態の項目の保留解除	141
光ディスク・プラッターの移動	141

付録 A. 言語固有のデフォルト値の変更 147

付録 B. 1 次および 2 次言語環境に関する Content Manager for iSeries ライブラリーの設定	149
1 次言語環境	149
2 次言語環境	150

付録 C. インポート・ファイル (EKD0990) のフォーマット	153
オブジェクト情報データベース・ファイルで使用するフィールド	153

特記事項	155
商標	157

用語集	159
-----	-----

索引	167
----	-----

本書について

本書では、Content Manager for iSeries 製品のセットアップ、使用、および保守の方法について学習します。また、この製品を用いて作業をするときに使用する Content Manager for iSeries のメニューやパネル、また、ユーザーがこの作業を処理する上で役立てるために実行するタスクについても学習します。

本書の対象読者

本書は、企業の中で、Content Manager for iSeries の計画、構成、定義、管理、保守などを行うシステム管理者向けに作成されています。本書をご使用になる前に、「*IBM Content Manager for iSeries: 計画とインストール*」をお読みください。

読者は、Application System/400[®] (AS/400) についての実際的な知識があり、iSeries の資料の全セットを持っている必要があります。

本書の構成

本書を始めから順に読んでいただくと、Content Manager for iSeries が提供する機能を理解できます。本書は次の章で構成されています。

- 1 ページの『第 1 章 Content Manager for iSeries の紹介』では、Content Manager for iSeries の概要を示し、この製品の使用方法と始動方法を説明します。
- 5 ページの『第 2 章 ライブラリー・サービス』では、基本的な概念と用語を示し、Content Manager for iSeries を使用する例をあげ、いくつかのキーの概念について詳しく説明した上で、Content Manager for iSeries のメニューおよびパネルを使用して、学習したことを実行します。
- 31 ページの『第 3 章 ワークフローでの処理』は、ワーク・マネージメントの概念、用語、およびコンポーネントを要約し、ワーク・マネージメントを使用する方法と理由を説明し、さらに関連する Content Manager for iSeries メニューとパネルを使用して、ワーク・マネージメントを始動する方法を示します。
- 41 ページの『第 4 章 ユーザーのアクセスおよびセキュリティ』では、セキュリティ検査の概念とタイプについて説明し、さらに特権のセットとユーザー・プロファイルの定義と処理の方法を示します。
- 77 ページの『第 5 章 ストレージ管理』では、基本的なストレージ管理の用語を示します。ここでは、文書を DASD に保管する方法、光ディスク・システムとサーバーの定義と処理、オブジェクト・ディレクトリーを処理する方法、および関連する Content Manager for iSeries メニューおよびパネルを用いて記憶クラスを定義する方法について説明します。
- 139 ページの『第 6 章 データベース・ユーティリティー』では、メニューとパネルを用いて、項目、作業バスケット、およびワーク・マネージメントのプロファイルのロックを解放し、1 つの光ディスク・システムから別のシステムにプラッターを移動する方法を示します。

バージョン 5.3 の新機能

本書「IBM® Content Manager for iSeries™ システム管理ガイド」には新しい技術情報が収録されています。変更がある箇所でも、場合によって変更バーが示されていないことがあります。特筆すべき変更点は以下のとおりです。

10 文字のユーザー ID を保管できるように、機能が拡張されました。これまでのリリースでは、ユーザー ID の最初の 8 文字しか使用されませんでした。**重要:** 多くのファイルが 10 文字ユーザー ID をサポートするように変更されています。外部参照をサポートし、EKD0314 ファイルの読み取り/書き込みを行う場合は、カスタム・プログラムを再コンパイルし、そのファイル形式でユーザー ID フィールドの拡張をサポートする必要があります。

本書の使用方法

本書では、アプリケーションやシステム・プロファイルの定義、セキュリティー検査の実行、ストレージ管理の運用などのシステム管理タスクを実行する方法を説明します。本書全体をお読みください。特に、Content Manager for iSeries プロファイルを作成するにあたっては、31 ページの『第 3 章 ワークフローでの処理』、41 ページの『第 4 章 ユーザーのアクセスおよびセキュリティー』、および 77 ページの『第 5 章 ストレージ管理』で、計画の情報を検討し、よく理解しておく必要があります。

本書の追加・変更箇所には、I マークが付いています。

前提条件および関連情報

iSeries の技術情報を検索する場合は、まず iSeries Information Center をご利用ください。iSeries Information Center にアクセスするには、次の 2 とおりの方法があります。

- Web サイト: <http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>
- お買い上げの Content Manager for iSeries に同梱されている CD-ROM からアクセス「iSeries Information Center」(SK88-8055-03)。

IBM iSeries Information Center には、CL コマンド、システム・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)、論理区画、クラスタリング、Java™、TCP/IP、Web サービス提供、保護ネットワークなどの重要なトピックとアドバイスが収められています。また、関連する IBM Redbooks™ へのリンク、および Technical Studio や IBM ホーム・ページなどその他の IBM Web サイトへのインターネット・リンクも含まれています。

製品 Web サイトから Content Manager for iSeries 資料にアクセスする場合は、<http://www-6.ibm.com/jp/software/data/developer/library/manual/cm/index.html> を参照してください。資料を表 1 にリストします。

表 1. IBM Content Manager for iSeries 5.3 の資料

名称	資料番号
IBM Content Manager for iSeries 計画とイン ストール	SC88-4001

表 1. IBM Content Manager for iSeries 5.3 の資料 (続き)

名称	資料番号
IBM Content Manager for iSeries Windows クライアント・スタートアップ・ガイド	GC88-4003
IBM Content Manager for iSeries システム管理ガイド	SC88-4004
IBM Content Manager for iSeries メッセージとコード	SC88-4005
IBM Content Manager for iSeries 拡張ワークフロー・ガイド	SC88-4006
IBM Content Manager for iSeries アプリケーション・プログラミングのガイドとリファレンス	SC88-4007

Web で入手可能なサポート

製品サポートは、IBM サポート (<http://www-6.ibm.com/jp/software/data/support/>) からご利用いただけます。

iSeries ナビゲーター

IBM iSeries ナビゲーターは、iSeries サーバーの管理に適した強力なグラフィカル・インターフェースです。iSeries ナビゲーターは、システム・ナビゲーション、構成、計画を行う機能、およびユーザーのタスクを支援するオンライン・ヘルプを備えています。iSeries ナビゲーターは、サーバーの運用および管理をより容易かつ生産的にし、OS/400® オペレーティング・システムの新しい拡張機能を利用するための、唯一のユーザー・インターフェースとなっています。また、複数のサーバーを中央サーバーで集中管理するためのマネージメント・セントラルも装備されています。

iSeries ナビゲーターについて詳しくは、Information Center を参照してください。

WWW で入手可能な情報

WWW では、iSeries のより詳しい情報をご覧になることができます。iSeries の一般的な情報については、以下の Web サイトから入手することができます。

<http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/iserries/>

iSeries の高度な機能をテーマにしたワークショップへアクセスするには、以下のアドレスにある Technical Studio を利用してください。

<http://www.iseries.ibm.com/tstudio>

第 1 章 Content Manager for iSeries の紹介

IBM Content Manager for iSeries は、マルチメディア・オブジェクトの管理に必要な機能をすべて備えたソリューションです。これには、ライブラリーおよび情報処理の両方の機能が組み込まれています。これを使用して、オーディオ、ビデオ、テキスト、およびイメージ・オブジェクトを保管したり、処理したりすることができます。企業が日常処理する情報の制御を自動化し、その制御により、生産性およびセキュリティを向上させ、保管コストを低減し、顧客へのサービスを向上させることができます。Content Manager for iSeries は、ユーザーがマルチメディア・オブジェクトをオンラインで収集、保管、検索などができるようにし、さらにオブジェクト、フォルダー、およびルーティング機能を提供します。

Content Manager for iSeries システムは、Microsoft®Windows® のクライアントで構成されます。これらのクライアントは、オブジェクトが保管され索引付けされている iSeries サーバーに接続します。Content Manager for iSeries を使用すれば、その企業全体のユーザーが、自分自身と企業のオブジェクトに関するオブジェクト処理やライブラリー管理にアクセスすることができます。このソリューションは、単一ユーザー・システムから企業の複数の部門へ、また、1 つのロケーションから複数のロケーションへと、容易に拡張していくことができます。ライブラリー情報を単一の iSeries サーバーに集中させる一方で、その企業にあるオブジェクトを集中化したり、複数の iSeries サーバーに分散させたりすることができます。

Content Manager for iSeries は、クライアント/サーバー・アーキテクチャーを介して、完全なオブジェクト管理システムを提供します。IBM Content Manager for iSeries Windows クライアントは、システムへの文書の取り込み、文書の表示および処理、またそれらの文書の保管および検索を可能にするインターフェースを提供します。

Windows クライアントの場合は、文書および情報の基本的な流れは非常に単純です。文書をシステムに保管するときは、文書をディレクトリーからインポートするか、またはそのページをスキャンして収集します。次に、後で文書を識別したり、検索したりするのに役立つ情報を用いて、その文書に索引を付けることができます。このように保管と索引付けが終わると、他のユーザーに文書を電子的に転送でき、このユーザーは次の処理が実行できます。

- 文書を電子フォルダーに編成する
- 関連する文書およびフォルダーのグループを検索する
- さらに処理を行う他のユーザーに文書を送る
- 文書に注釈を加える
- 文書を印刷する

Content Manager for iSeries サーバー・コンポーネントは、ライブラリー情報とオブジェクト用のリポジトリーを提供します。Content Manager for iSeries システムの定義、構成、および管理を行うためのシステム管理機能も提供しますが、このことについては、本書で説明します。

Content Manager for iSeries の使用

Content Manager for iSeries を使用するには、iSeries のコマンド行で GO CM と入力します。Content Manager for iSeries のメインメニューが表示されます。メインメニューのオプションを使用して、Content Manager for iSeries を管理するのに必要なすべての機能が実行できます。

```
CM                                CONTENT MANAGER FOR ISERIES

次の1つを選択してください。
  1. プロファイル保守
  2. ジョブの処理
  3. データベース・ユーティリティー

90. サインオフ

選択項目またはコマンド
===> _____

F3= 終了   F4= プロンプト   F9= コマンドの複写   F12= 取り消し
F13= ユーザー・サポート   F16= 初期メニューのセット
```

図1. 「Content Manager for iSeries」のメインメニュー

パネルの定義

プロファイル保守

3 ページの図2 に示されている「プロファイル保守」メニューが表示されます。これを用いて、さまざまな Content Manager for iSeries のプロファイルを処理できます。

ジョブの処理

127 ページの図108 に示されている「ジョブの処理」メニューが表示されます。これを用いて、ストレージ管理ジョブを処理できます。

データベース・ユーティリティー

4 ページの図3 に示されている「データベース・ユーティリティー」メニューを表示します。このオプションを用いて、項目、作業バスケット、およびワーク・マネージメント・プロファイルのロックを解放し、ある光ディスク・システムから別のシステムにプラッターを移動します。

サインオフ

Content Manager for iSeries を終了し、iSeries サーバーをサインオフします。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

プロファイルのメンテナンス

「プロファイル保守」メニューをオープンするときは、「Content Manager for iSeries」のメインメニューから **1** を選択します。

CMPRF	プロファイル保守
次の1つを選択してください。	
<ol style="list-style-type: none">1. 特権セットの処理2. ユーザー・プロファイルの処理3. グループの処理4. アクセス・リストの処理5. キー・フィールドの処理6. 索引クラスの処理7. ワークバスケットの処理8. コレクションの処理9. サーバーの処理10. オブジェクト・ディレクトリーの処理11. 記憶クラスの処理12. 光ディスク・システムの処理13. ワークフロー・プロファイルの削除	
選択項目またはコマンド ====> _____	
F3= 終了 F4= プロンプト F9= [F9] の複写 F12= 取り消し F13= ユーザー・サポート F16= 初期メニューのセット	

図2. 「プロファイル保守」メニュー

表2 に、このメニューに関連するタスクに関する詳細が記載されている章が示されています。

表2. プロファイル保守に関連するトピック

トピック	章
<ul style="list-style-type: none">• ユーザー・プロファイル• 特権セット• グループ• アクセス・リスト	41 ページの『第 4 章 ユーザーのアクセスおよびセキュリティ』
<ul style="list-style-type: none">• キー・フィールド• 索引クラス	5 ページの『第 2 章 ライブラリー・サービス』
<ul style="list-style-type: none">• ワーク・バスケット	31 ページの『第 3 章 ワークフローでの処理』
<ul style="list-style-type: none">• コレクション• サーバー• オブジェクト・ディレクトリー• 記憶クラス• 光ディスク・システム	77 ページの『第 5 章 ストレージ管理』

データベース・ユーティリティー

「データベース・ユーティリティー」メニューをオープンするときは、「Content Manager for iSeries」メインメニューから **3** を選択します。追加の情報については、139 ページの『第 6 章 データベース・ユーティリティー』を参照してください。

CMDBU

データベース・ユーティリティー

次の1つを選択してください。

1. 項目ロックの解除
2. 作業パッケージ・ロックの解除
3. ワークフロー・プロファイル・ロックの解除
4. 保留中項目の解除
5. 光ディスクの移動

選択項目またはコマンド

===> _____

F3= 終了 F4= プロンプト F9= [F9] の複写 F12= 取り消し
F13= ユーザー・サポート F16= 初期メニューのセット

図3. 「データベース・ユーティリティー」メニュー

第 2 章 ライブラリー・サービス

ライブラリー・サービスは、文書の索引付けとその後の検索を行います。文書は、単独で保管できるほか、フォルダーを使って管理することもできます。ライブラリーは、文書、フォルダー、およびその属性の集合体です。

概念

Content Manager for iSeries のライブラリー・サービスは、以下のものから構成されています。

- 項目
- キー・フィールド
- 索引クラス

項目

項目とは、文書またはフォルダーです。各項目にはシステム定義およびユーザー定義の属性が関連付けされています。システム定義の属性は各項目について 1 回だけ保管されます。システム属性の例としては、項目の作成日/時刻および項目の記述があります。ユーザー定義の属性値 (キー・フィールド) は、項目の各インスタンスについて 1 回ずつ索引クラスに保管されます。エンド・ユーザーが項目を作成します。

文書

文書は、システムとユーザーの間で 1 単位として保管、検索、交換を行うことができる項目です。文書は、スキャンまたはインポートによって Content Manager for iSeries に入力されたオブジェクトです。

フォルダー

フォルダーは、関連する文書と他のフォルダーをまとめてグループにする方法を提供する項目です。項目をフォルダーにグループ化すると、検索が容易になります。フォルダーにはゼロを含む任意の数の項目を含めることができますが、サブフォルダーとしてそのフォルダー自体を含むことはできません。エンド・ユーザーがフォルダーを作成します。フォルダーを索引クラスに入れることも、別のフォルダーに入れること (あるいはその両方) も可能です。

関係

項目には、次のような関係があります。

- Content Manager for iSeries クライアントを使用するときは、各項目は 1 つの (唯一の) 索引クラスと関連付けられます。
- 各項目を格納できるフォルダーの数に制限はありません (0 個も可)。ただし、1 つの項目を同じフォルダーに 2 回置くことはできません。

キー・フィールド

キー・フィールド は、索引クラスやフォルダーの中にある項目の索引付け、識別、および検索に使用できる標準情報のラベルです。ユーザーは、索引クラス内の各項目のキー・フィールドに対して、値を割り当てることができます。

システム管理者は、次のことを行うことができます。

- キー・フィールドを定義する
- 各キー・フィールドに名前と記述を与える
- 保管するデータのタイプ (文字または数値)、およびキー・フィールド値の最大長を指定する

関係

各キー・フィールドを関連付ける索引クラスの数に制限はありません (0 個も可)。

索引クラス

索引クラス は、保管や検索の目的で、類似の属性をもつ項目、文書、およびフォルダーをグループ化する手段です。索引クラスは、セキュリティーのために項目をグループ化する方法も提供します。索引クラス内の各項目には異なるキー・フィールド値を入れることができます。

システム管理者は、次のことを行うことができます。

- 索引クラスを 1 ～ 8 つのキー・フィールドのグループになるように定義する
- 各索引クラスに名前と記述を与える
- キー・フィールドを索引クラスに関連付けして、キー・フィールドがその索引クラスの必須の情報であるか任意の情報であることを指定する。項目を索引クラスに追加するときは必ず、ユーザーはその項目の値をいずれかの必須の索引クラス・キー・フィールドの中で指定する必要があります。

関係

各索引クラスは、1 ～ 8 つのキー・フィールドのグループにすることができます。

索引クラスの計画

索引クラスは、Content Manager for iSeries で文書とフォルダーを容易に管理できるようにするための文書保管機能および検索機能を提供します。

文書とフォルダーが索引付けされ、索引クラスに保管された後、ユーザーは単一の文書または文書のグループ、あるいは 1 つまたは複数のフォルダーを検索して、作業を行うことができます。ユーザーは、基準を指定し、索引クラスを検索して、処理する項目を識別します。検索基準 は、索引クラスに対して定義されたキー・フィールドの値です。ユーザーが検索を行うと、検索基準として指定された値と一致するキー・フィールド値を持つすべての項目がリストに表示されます。

索引クラスに関連するパフォーマンスの考慮事項

ユーザーは、処理すべき索引クラス項目を検索する必要があるため、索引クラスの定義や使用の際には、パフォーマンスの面から、以下の要因について考慮する必要があります。

- 索引クラスに入れる項目の数
- 検索基準としてのワイルドカードの使用
- 複数の索引クラス間での検索

基本検索か、拡張検索か

拡張検索を使用すると、ほとんどの照会には柔軟に対処しますが、索引クラス項目を検索するために使用した場合は、パフォーマンスが低下する恐れがあります。索引クラスを検索するときに柔軟性が必要な場合は、拡張検索を使用します。しかし、一般に拡張検索にくらべて基本検索の方が項目を速く検索できるので、ほとんどの場合は、基本検索を使用することをお勧めします。検索のパフォーマンスを最適化するためには、基本検索だけを使用する場合でも、この項の他の要素についても考慮してください。

索引クラス内の項目の数

項目数を少なくして検索をすると、一般に検索は速く行われます。項目の数を制限する 1 つの方法は、項目を複数の索引クラスに分けて保管する方法です。たとえば、特定の州のすべての職員に関連する文書を保管する必要があるとします。その場合、Last Name (姓)、First Name (名)、Social Security Number (社会保障番号)、および County (市) のキー・フィールドを付けて、Maryland (メリーランド) という索引クラスを定義することができます。しかし、検索を実行する前に、職員の市が常に分かっているという場合は、その州の各市について索引クラスを定義しておくことができます。したがって、市の索引クラスを検索すれば、州全体の索引クラスを検索するよりも効率がよくなります。

キー・フィールドの順序

基本検索を行うときに、検索基準でユーザーが指定する最初のキー・フィールド値によって、検索のパフォーマンスに著しい影響が出る場合があります。検索される文書の範囲は、ユーザーが指定した最初のキー・フィールド値に該当する文書に限定されます。最初に指定した値と一致するキー・フィールド値をもつ文書が多ければ、文書の検索の時間は長くなります。したがって、州の職員に関する文書を保守する必要があるときに、以下のようなキー・フィールド定義をして Maryland の索引クラスを定義することができます。

```
Key 1 : COUNTY
Key 2 : LAST NAME
Key 3 : FIRST NAME
Key 4 : SS #
```

次に、ユーザーは索引クラスを検索して、次のような基準を指定することができます。

```
Key 1 : MONTGOMERY
Key 2 : DOE
Key 3 :
Key 4 :
```

この例では、リストを得るために、Content Manager for iSeries は Montgomery 市のすべての職員レコードを検索して、Doe という姓をもつ職員のレコードだけを戻します。同じ姓をもつ、その州内の人数よりも、その市の職員の数のの方が多いので、この方法は、索引クラスのキー・フィールドを定義する上で、あまり効率がよくありません。そこで、次のように定義すると、検索のパフォーマンスが改善されます。

Key 1 : LAST NAME
Key 2 : FIRST NAME
Key 3 : SS #
Key 4 : COUNTY

もう 1 つの例として、社会保障番号が分かっている、それが常に検索基準として指定されている場合は、次のようなキー・フィールド定義を使用して、検索される項目の数をさらに限定することができます。このケースでは、社会保障番号は一意なので、検索時間が著しく改善されます。

Key 1 : SS #
Key 2 : LAST NAME
Key 3 : FIRST NAME
Key 4 : COUNTY

ワイルドカードの検索基準

キー・フィールドの値の中で、あるいは値そのものとしてワイルドカードを使用すると、検索の応答時間が増加します。ワイルドカード文字を使うと、一致の可能性が高くなるので、検索範囲が拡大し、検索しなければならない項目が増えるためです。基本検索では、ワイルドカード文字として使用できるのはアスタリスクだけであるのに対して、拡張検索では、ワイルドカード機能が追加されます。

複数の索引クラス間での検索

複数の索引クラスにわたって項目を検索することができます。しかし、この種の検索は、パフォーマンスに影響することがあるので、注意してください。

キー・フィールドおよび索引クラスの定義

キー・フィールドおよび索引クラスは、オブジェクトが索引付けされ、その後の検索によって検索される方法を決定する、基本構成体です。文書およびフォルダーを索引付けするとき、項目を保管する場所および処理する方法を定義するための値をそれらに割り当てます。項目に索引を付けるには、索引クラスを選択してから、該当するキー・フィールドにその値を入力します。

索引クラスは、文書およびフォルダーのグループを識別するために使用されるカテゴリです。索引クラスは、文書およびフォルダーの保管、検索、表示、および処理の方法に従って作成されます。どの索引クラスも、定義されたキー・フィールドのセットを含んでおり、それらは項目を固有に識別するのに役立つ情報のカテゴリです。

文書またはフォルダーに割り当てる索引付け情報はたいへん重要です。この情報は、項目の保管、検索、表示、および処理方法に影響します。

キー・フィールドと索引クラスを定義するために、9 ページの図 4 で示されている「プロファイル保守」メニューから、5 と 6 を使用してください。

次の1つを選択してください。

1. 特権セットの処理
2. ユーザー・プロファイルの処理
3. グループの処理
4. アクセス・リストの処理
5. キー・フィールドの処理
6. 索引クラスの処理
7. ワークバスケットの処理
8. コレクションの処理
9. サーバーの処理
10. オブジェクト・ディレクトリーの処理
11. 記憶クラスの処理
12. 光ディスク・システムの処理
13. ワークフロー・プロファイルの削除

選択項目またはコマンド

==>

F3= 終了 F4= プロンプト F9= [F9] の複写 F12= 取り消し
F13= ユーザー・サポート F16= 初期メニューのセット

図4. 「プロファイル保守」メニュー

キー・フィールドの処理

キー・フィールドは、それぞれのオブジェクトを表すために定義されるすべての属性です。それらは、オブジェクトに関連付けられる種々の情報を表します。たとえば、ジョブのアプリケーションには、社会保障番号、姓、および名前などのキー・フィールドを入れておくことができます。

「プロファイル保守」メニューから **5** を選択すると、10 ページの図5 に示されたパネルが表示されます。

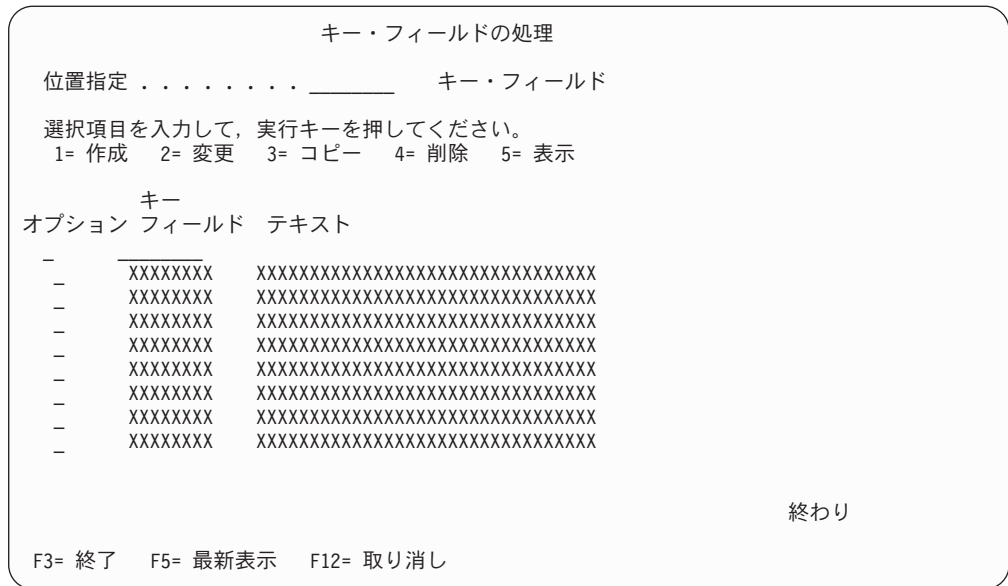


図5. 「キー・フィールドの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のキー・フィールドの名前を入力し、実行キーを押します。入力したキー・フィールドが入ったパネルが再び表示されます。1つの文字、ストリングの一部、または存在しないキー・フィールドを入力すると、入力した文字やストリングに最も近いキー・フィールドがパネルに表示されます。

1=作成

新しいキー・フィールドを作成する場合にこのオプションを選択してください。11ページの図6に示されたパネルが表示されます。

2=変更

変更したいキー・フィールドの横に **2** を入力してください。13ページの図7に示されているパネルが表示され、そこで、キー・フィールドの記述と定義を変更することができます。キー・フィールド定義を変更する場合には、次のことを注意してください。

- キー・フィールド名は変更できない。
- タイプは変更できない。
- 長さは増やせるが、減らすことはできない。

3=コピー

コピーしたいキー・フィールドの横に **3** を入力してください。これによって、既存のキー・フィールド定義を新しいキー・フィールド定義にコピーすることができます。13ページの図8に示されているパネルが表示され、そこで、既存のキー・フィールド定義を変更して、新しいキー・フィールドを作成することができます。

4=削除

削除したいキー・フィールドの横に **4** を入力してください。14ページの図9に示すパネルが表示さ

れ、要求を確認するか、取り消すことができます。索引クラスがキー・フィールドを参照している場合は、削除することはできません。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

キー・フィールドの定義および記述を表示したいキー・フィールドの横に **5** を入力してください。14 ページの図 10 に示されたパネルが表示されます。

キー・フィールド

キー・フィールドの名前を表示します。

テキスト

各キー・フィールドについての記述を表示します。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起こると、「キー・フィールドの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

キー・フィールドの作成

「キー・フィールドの処理」パネルから **1** を選択すると、図 6 に示されたパネルが表示されます。このパネルでは、新しいキー・フィールドを作成することができます。このキー・フィールドを使用する索引クラス内の項目をユーザーが処理するときに、キー・フィールドの名前および長さによって出力フィールドがどのように表示されるかが決定されることを覚えておいてください。したがって、作成されたキー・フィールドの外観および意味をよく検討する必要があります。

キー・フィールドの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

キー・フィールド	_____	名前
テキスト	_____	
タイプ	-	1= 文字 2= 数値
長さ	__	1-40

F3= 終了 F12= 取り消し

図 6. 「キー・フィールドの作成」パネル

パネルの定義

キー・フィールド	作成したいキー・フィールドの名前です。
テキスト	キー・フィールドの記述です。これは、索引クラス内で項目の索引付けおよび検索の間にユーザーに表示される、キー・フィールドのテキストです。
タイプ	<p>数値または文字などキー・フィールドのタイプ。キー・フィールドのタイプを定義した後でも、索引クラスがそれを参照していなければ、変更することができます。次の選択項目のいずれかを入力します。</p> <p>1=文字 キー・フィールドが文字であることを指示します。</p> <p>2=数値 キー・フィールドが数字であることを指示します。</p>
長さ	フィールド内の値を構成できる最大文字数です。許される最大文字数は 40 です。キー・フィールドの長さを指定した後で、長くすることはできますが、短くできるのは、索引クラスがそれを参照していない場合だけです。
機能キーの定義 実行キー	キー・フィールド定義を保管します。

キー・フィールドの変更

「キー・フィールドの処理」パネルから **2** を選択すると、13 ページの図 7 に示されたパネルが表示されます。これによって、既存のキー・フィールド定義を変更することができます。キー・フィールドを変更する場合には、次のことを行ってください。

- キー・フィールドの名前自体は変更できません。
- 索引クラスがキー・フィールドのタイプを参照していなければ、それを変更することができます。
- キー・フィールドの長さを長くすることはできますが、短くできるのは、索引クラスがそれを参照していない場合だけです。

この画面のフィールドの説明については、11 ページの『キー・フィールドの作成』を参照してください。

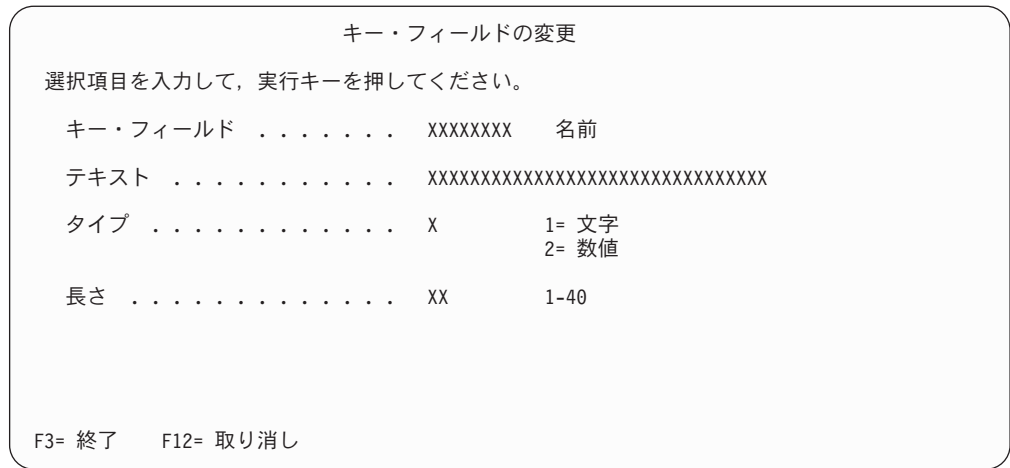


図7. 「キー・フィールドの変更」パネル

キー・フィールドのコピー

「キー・フィールドの処理」パネルから **3** を選択すると、図8に示されたパネルが表示されます。このパネルによって、既存のキー・フィールドをコピーして、新しいキー・フィールドを作成することができます。

この画面のフィールドの説明については、11ページの『キー・フィールドの作成』を参照してください。

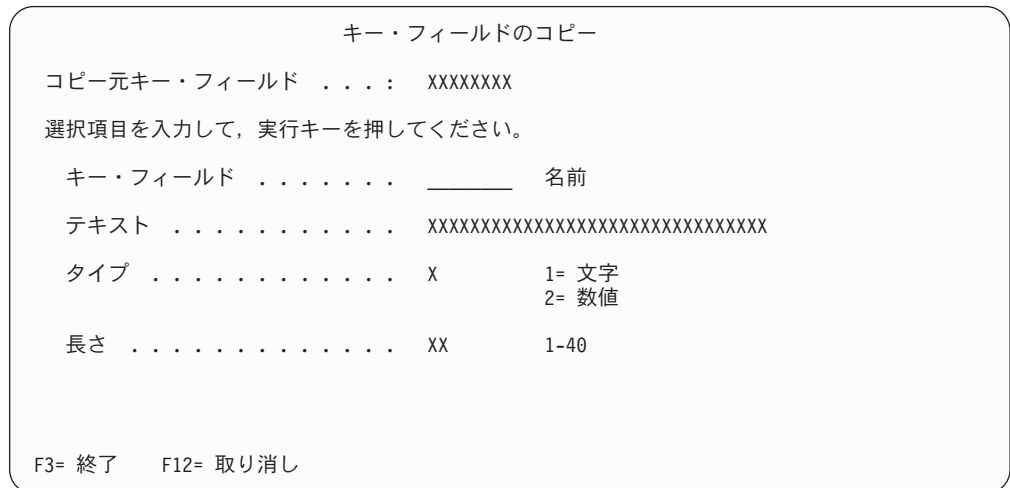


図8. 「キー・フィールドのコピー」メニュー

キー・フィールドの削除

「キー・フィールドの処理」パネルから **4** を選択すると、14ページの図9に示されたパネルが表示されます。キー・フィールドの削除を確認するために実行キーを押すか、あるいは F12 (取消) を押して要求を取り消すことができます。

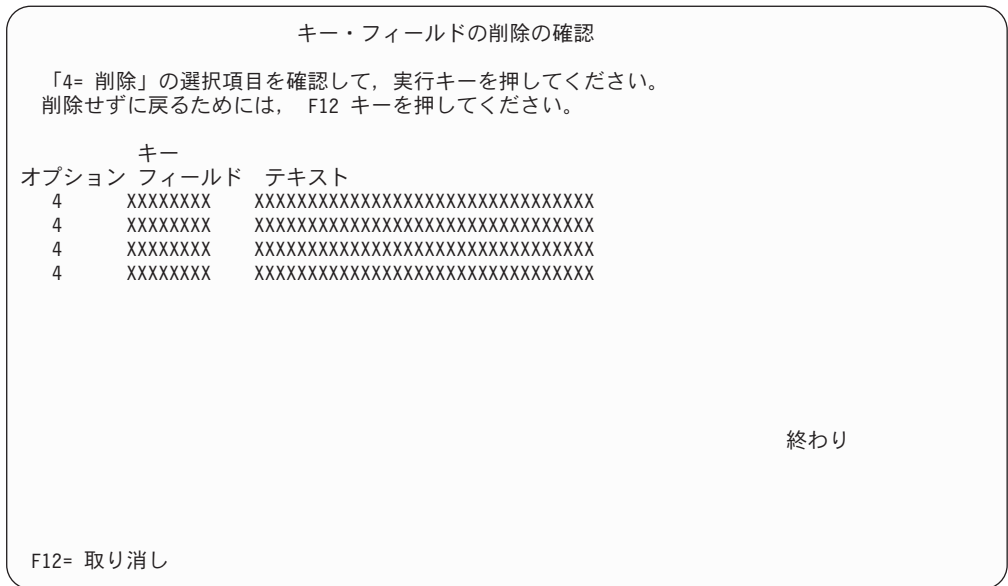


図9. 「キー・フィールドの削除の確認」メニュー

キー・フィールドの表示

「キー・フィールドの処理」パネルから **5** を選択すると、図 10 に示されたパネルが表示されます。このパネルは、要求されたキー・フィールドの最新のプロファイル情報を表示します。

この画面のフィールドの説明については、11 ページの『キー・フィールドの作成』を参照してください。

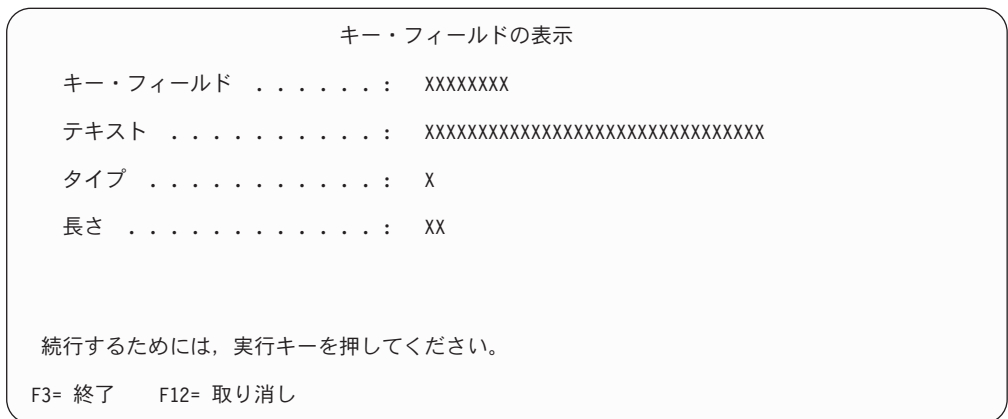


図 10. 「キー・フィールドの表示」パネル

索引クラスの処理

索引クラスは、文書およびフォルダーのグループを識別するために使用されるカテゴリです。索引クラスは、ファイル・キャビネットに似ています。索引クラスは、オフィスや図書館にある本物のファイル・キャビネットを使用するように使用できます。必要な数の索引クラスに項目を保管でき、それらの項目を業務またはビジネス・プロセスに従って編成します。たとえば、保険会社のシステムには CLAIMS 索引クラスが含まれるかもしれません。

各索引クラスには、キー・フィールドのセットが組み込まれています。文書に索引付けをする場合、その文書の情報をそれらのキー・フィールドへ入力します。CLAIMS 索引クラスには、*Last Name* (姓)、*Claim Number* (請求番号) および *Appraisal Amount* (評価額) というラベルが付いた、キー・フィールドが組み込まれます。

索引クラスとキー・フィールドは、Content Manager for iSeries において項目の検索の基礎として使用されます。

システム定義の索引クラス

Content Manager for iSeries には、事前定義の索引クラス、すなわち、NOINDEX、DOCCLASS、FLRCLASS があります。

NOINDEX 索引クラスが使用されるのは、文書やフォルダーなどの新しい項目がシステムに導入されているのに、使用できる索引情報がない、という場合です。

NOINDEX クラスは、以下の情報を新しい項目に関連付けます。

- インポート またはスキャン などの移動元。
- 項目を入力したオペレーターのユーザー ID。
- 項目が導入された時点を示すタイム・スタンプ

DOCCLASS および FLRCLASS を使用すると、IBM ImagePlus ワークフォルダー適用業務プログラム AS/400 用で作成されたデータにアクセスできます。ワークフォルダー適用業務プログラムは Content Manager for iSeries の前のバージョンの製品であり、VisualInfo AS/400 用とはデータ・モデルおよび索引付けの方法が若干異なります。ワークフォルダー適用業務プログラムで作成されたフォルダー (ケース) は、FLRCLASS 索引クラスに暗黙的に割り当てられます。FLRCLASS を用いて検索を行い、ワークフォルダー適用業務プログラムの中で索引付けされたフォルダーを、単一のケース ID を用いて検索し、処理することができます。同様に、DOCCLASS 索引クラスが検索されなくても、フォルダー内の文書は DOCCLASS 索引クラスに暗黙的に割り当てられます。

「プロファイル保守」メニューから **6** を選択すると、16 ページの図 11 に示されたパネルが表示されます。

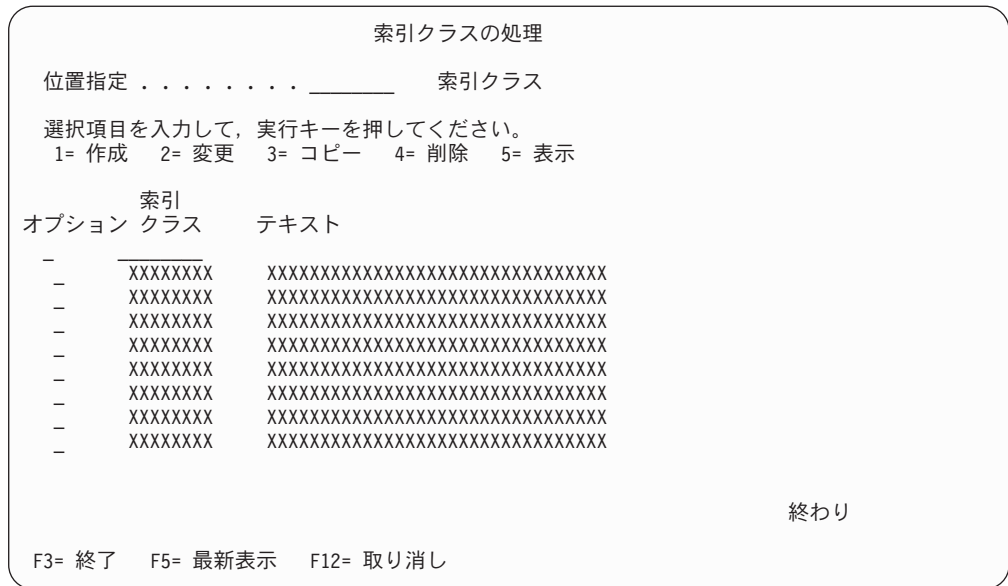


図 11. 「索引クラスの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先の索引クラスの名前を入力し、実行キーを押します。入力した索引クラスが入ったパネルが再び表示されます。1 つの文字、ストリングの一部、または存在しない索引クラスを入力すると、入力したものに最も近い索引クラスがパネルに表示されます。

1=作成

新しい索引クラスを作成する場合にこのオプションを選択してください。17 ページの図 12 に示されたパネルが表示されます。

2=変更

変更したい索引クラスの横に **2** を入力してください。27 ページの図 18 に示されているパネルが表示され、そこで、索引クラスの記述と定義を変更することができます。索引クラスの定義を変更するとき、キー・フィールドを追加することはできますが、除去できるのは、項目がその索引クラスに関連付けられていない場合だけです。

3=コピー

コピーしたい索引クラスの横に **3** を入力してください。これによって、既存の索引クラス定義を新しい索引クラス定義にコピーすることができます。28 ページの図 19 に示されているパネルが表示され、そこでユーザーは、既存の索引クラス定義を変更して、新しい索引クラスを作成することができます。

4=削除

削除したい索引クラスの横に **4** を入力してください。28 ページの図 20 に示されているパネルが表示され、そこで、要求を確認または取り消すことができます。その索引クラスに項目が含まれている場

合、または別の索引クラスがそれを参照している場合は、削除できません。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

索引クラス定義を表示したい索引クラスの横に **5** を入力してください。29 ページの図 21 に示されたパネルが表示されます。

索引クラス

索引クラスの名前を表示します。

テキスト

各索引クラスについての記述を表示します。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起こると、「索引クラスの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

索引クラスの作成

「索引クラスの処理」パネルから **1** を選択すると、図 12 に示されたパネルが表示されます。「索引クラスの作成」パネルを使用することによって、新しい索引クラスを作成することができます。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

索引クラス	_____	名前
テキスト	_____	名前, リストは F4キー
アクセス・リスト	_____	名前, リストは F4キー
キー・フィールド 1	_____	名前, リストは F4キー
必須	_	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 2	_____	名前, リストは F4キー
必須	_	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 3	_____	名前, リストは F4キー
必須	_	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 4	_____	名前, リストは F4キー
必須	_	Y=YES, N=NO

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 12. 「索引クラスの作成」パネル

パネルの定義

索引クラス

索引クラスのための 1 ~ 8 文字の固有の省略名を入力します。

テキスト

索引クラスの記述を入力してください。このフィー

ルドは情報用であり、索引クラスの内容を記述します。覚えやすく、しかもその索引クラスに含まれているフォルダーと文書を表すような名前を使用します。

アクセス・リスト

この索引クラスに関連付けるアクセス・リストの名前を入力してください。そのアクセス・リストにより、この索引クラスの項目にアクセスできるユーザーを制御します。

キー・フィールド

索引クラスに割り当てたいキー・フィールドを入力してください。キー・フィールドは、この索引クラスに関連付けられた項目を記述する属性です。キー・フィールドの名前が分かっている場合、それを入力するか、あるいは F4 を押して、既存のキー・フィールドのリストから選択することができます。キー・フィールドの順序は、索引クラスの検索に影響を与える可能性があります。(索引クラスの定義に関連する考慮事項については、6 ページの『索引クラスの計画』を参照してください。) F6 を押すと、10 ページの図 5 に示されたパネルが表示され、そこで、新しいキー・フィールドを作成することができます。

必須

キー・フィールドがこの索引クラスに必須であることを示すときは、**Y** を入力してください。キー・フィールドが必須の場合には、ユーザーは、項目を索引クラスに索引付けるときにキー・フィールドの値を指定しなければなりません。このキー・フィールドの値をオプションにするには、**N** を入力してください。

機能キーの定義

F6

「キー・フィールドの処理」パネル (10 ページの図 5) が表示され、そこで新しいキー・フィールドを作成することができます。

実行キー

索引クラス定義を保管します。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

キー・フィールド 5 _____	名前, リストは F4キー Y=YES, N=NO
必須 _____	Y=NO
キー・フィールド 6 _____	名前, リストは F4キー
必須 _____	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 7 _____	名前, リストは F4キー
必須 _____	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 8 _____	名前, リストは F4キー
必須 _____	Y=YES, N=NO
担当者オブジェクトを表す	
キー・フィールド _____	

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 13. 「索引クラスの作成」パネル

パネルの定義

キー・フィールド

索引クラスに割り当てたいキー・フィールドを指定してください。キー・フィールドは、この索引クラスに関連付けられた項目を記述する属性です。キー・フィールドの名前が分かっているならば、それを入力するか、あるいは F4 を押して、既存のキー・フィールドのリストから選択することができます。キー・フィールドの順序は、索引クラスの検索に影響を与える可能性があります。(索引クラスの定義に関連する考慮事項については、6 ページの『索引クラスの計画』を参照してください。) F6 を押すと、10 ページの図 5 に示されたパネルが表示され、そこで、新しいキー・フィールドを作成することができます。

必須

キー・フィールドがこの索引クラスに必須であることを示すときは、**Y** を入力してください。キー・フィールドが必須の場合には、ユーザーは、項目を索引クラスに索引付けるときにキー・フィールドの値を指定しなければなりません。

このキー・フィールドの値をオプションにするには、**N** を入力してください。

オブジェクトを表すキー・フィールド

この索引クラスを使用してユーザーが検索する各オブジェクトを表示するときに表題として使用する、キー・フィールドを入力してください。

機能キーの定義

F6 「キー・フィールドの処理」パネル (10 ページの図 5) が表示され、そこで新しいキー・フィールドを作成することができます。

実行キー

索引クラス定義を保管します。

索引クラスの作成		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
省略時のコレクション	*DFT _____	名前, リストは F4キー
代替記憶域 :		
文書コレクション	_____	名前, リストは F4キー
ノート・コレクション	_____	名前, リストは F4キー
活動記録コレクション	_____	名前, リストは F4キー
自動フォルダー	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド	_____	名前, リストは F4キー
索引クラス	_____	名前, リストは F4キー
ワークフロー処理	1	1= 手動 2= 自動
省略時の処理	_____	名前, リストは F4キー
続く ..		
F3= 終了 F4=プロンプト F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し		

図 14. 「索引クラスの作成」パネル

パネルの定義

省略時のコレクション

この索引クラスに関連付けられるオブジェクトの保管の要件を決定するために使用される、デフォルトのコレクションを入力します。分かっているコレクションの名前を入力するか、または F4 を押して既存のコレクションのリストから選択することができます。

代替記憶域

文書、ノート、およびヒストリー・ログの保管場所を指定します。

文書コレクション

この索引クラスに関連するノート・オブジェクトのストレージ要件を決定するために使用されるコレクション名を入力します。分かっているコレクションの名前を入力するか、または F4 を押して既存のコレクションのリストから選択することができます。

ノート・コレクション

この索引クラスに関連するノート・オブジェクトのストレージ要件を決定するために使用されるコレクションを入力します。分かっているコレクションの名前を入力するか、または F4 を押して既存のコレクションのリストから選択することができます。

活動記録コレクション

この索引クラスに関連するヒストリー・オブジェクトのストレージ要件を決定するために使用されるコレクションを入力します。分かっているコレクションの名前を入力するか、または F4 を押して既存のコレクションのリストから選択することができます。

自動フォルダー

選択した索引クラスのフォルダーへオブジェクトをアプリケーションによって自動的に追加させたい場合は、**Y** を入力してください。

ユーザーがオブジェクトを保管するとき、Content Manager for iSeries は、そのオブジェクトのキー・フィールドとそのキー・フィールドの値が入っている既存のフォルダーを検索します。

Content Manager for iSeries が、キー・フィールドとそのキー・フィールドの値の両方が一致するフォルダーを検出すると、Content Manager for iSeries は、オブジェクト・キー・フィールドの値をフォルダー・キー・フィールドに保管します。そのフォルダー・キー・フィールドに現在存在しない、オブジェクト・キー・フィールドの値だけが保管されます。

Content Manager for iSeries が、キー・フィールドおよびそのキー・フィールドの値と一致するフォルダーを検出できなかった場合には、Content Manager for iSeries は次のようにします。

- 指定する索引クラス・タイプを使用して、フォルダーを作成する。
- オブジェクト・キー・フィールドの値をフォルダー・キー・フィールドに入れる。

キー・フィールド

アプリケーションがオブジェクトに索引付けし、そのオブジェクトをフォルダーへ自動的に追加するために使用する、キー・フィールドを指定してください。「自動フォルダー」に **Y** を指定した場合、このフィールドは必須です。わかっているキー・フィールドの名前を入力するか、または F4 を押して既存のキー・フィールドのリストから選択することができます。

注: 選択したキー・フィールドが "オプション" キー・フィールドで、かつ索引付けを行うユーザーがその "オプション" キー・フィールドに情報を入力しなかった場合、フォルダーの自動保管処理は終了しま

す。たとえば、次の 4 つの索引クラス (およびそれらに関連付けられているキー・フィールド) があるとします。

INDEXclassA

NAMEKEY (required)
ADDRESS (optional)
SSN

Autofolder=Y
INDEXCLASS=INDEXclassB
KEYFIELD=NAMEKEY

INDEXclassB

NAMEKEY (required)
SSN
DOCDESC

Autofolder=Y
INDEXCLASS=INDEXclassC
KEYFIELD=DOCDESC

INDEXclassC

NAMEKEY
DOCDESC
CREATEDATE

INDEXCLASS=INDEXclassD
KEYFIELD=NAMEKEY

INDEXclassD

NAMEKEY
CREATEDATE

この例では、次のようになります。

1. ユーザーが、項目を INDEXclassA に索引付けします。
2. INDEXclassA の項目は、INDEXclassB のフォルダーに自動的に保管されます。
3. INDEXclassB のフォルダーは INDEXclassC のフォルダーに自動保管される指定になっていますが、INDEXclassA にはキー・フィールド DOCDESC のデータがない (DOCDESC は INDEXclassA のキー・フィールドではない) ため、自動保管の処理は停止します。

また、この索引クラスの例では、索引付けを行うユーザーが INDEXclassA のオプション・キー・フィールド ADDRESS に情報を入力しなかった場合にも、処理は停止し INDEXclassB のフォルダーへの自動保管は行われません。

索引クラス

オブジェクトがフォルダーへ自動的に追加されるときにそのオブジェクトに関連付けるための索引クラスを指定してください。

「自動フォルダー」に **Y** を指定した場合、このフィールドは必須です。わかっている索引クラスの名前を入力するか、または F4 を押して既存の索引クラスのリストから選択することができます。

ワークフロー処理

この索引クラスのオブジェクトをワークフローのプロセスに自動的に送信するか、手操作により送信するかを指定します。次の選択項目のいずれかを入力します。

1= 手動

アプリケーションがプロセスを指定し、アプリケーション・ユーザーがこの索引クラスで保管した項目をプロセスに追加します。

2= 自動

アプリケーション・ユーザーがこの索引クラスで項目を保管したとき、項目はアプリケーションによってプロセスに追加されます。

省略時の処理

この索引クラスのオブジェクトの送信先となるデフォルトのプロセス名を指定してください。プロセス名が分かっている場合、デフォルトのプロセス名を入力するか、あるいは F4 を押して、既存のプロセスのリストから選択することができます。

機能キーの定義

F6

「キー・フィールドの処理」パネル (10 ページの図 5) が表示され、そこで新しいキー・フィールドを作成することができます。

実行キー

索引クラス定義を保管します。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

省略時の優先順位 00001 1-31999

コレクション・ポイントの
 活動化 N Y=YES, N=NO
 処理 _____ 名前, リストは F4キー
 コレクション・ポイント _____ 名前, リストは F4キー

保管ユーザー出口
 機能 _____
 ダイナミック・リンク・ライブラリー _____

検索ユーザー出口
 機能 _____
 ダイナミック・リンク・ライブラリー _____

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 15. 「索引クラスの作成」パネル

パネルの定義

省略時の優先順位

ワーク・バスケット内でこの索引クラスのオブジェクトをアプリケーションに処理させたい順序を入力してください。1 ~ 31999 の優先順位を指定できます。1 が一番低い優先順位です。

コレクション・ポイントの活動化

このクラスの索引が付いた項目が、このプロファイルに指定されたコレクション・ポイントに到達する前に、コレクション・ポイントが活動化されるようにしたい場合には **Y** と入力してください。それ以外の場合には **N** と入力してください。

このフィールドが **Y** と指定されているときに、このクラスの索引が付いた項目がコレクション・ポイントのイベントと一致しない場合には、システムによりその項目に関連するイベントがコレクション・ポイントに作成され、その項目が該当するイベントと一致するようになります。

処理 索引付き項目をコレクション・ポイントのイベントと突き合わせるときに使用したいプロセスの名前を入力してください。

コレクション・ポイント

索引付き項目をコレクション・ポイントのイベントと突き合わせるときに使用したいコレクション・ポイントの名前を入力してください。

保管ユーザー出口

オブジェクトを保管するためにユーザー出口で実行したい関数の名前を入力してください。このユーザ

ー出口は、クライアントがオブジェクトを保管する前に行う処理（たとえば、データ検査など）を決定します。

検索ユーザー出口

代替の検索関数を実行するためにユーザー出口で実行させたい関数の名前を入力します。このユーザー出口は、ユーザーが検索を開始するときにクライアントが実行する処理を決定します。

ダイナミック・リンク・ライブラリー

入力したそれぞれのユーザー出口ごとにダイナミック・リンク・ライブラリーを入力します。

機能キーの定義

F6

「キー・フィールドの処理」パネル（10 ページの図 5）が表示され、そこで新しいキー・フィールドを作成することができます。

実行キー

索引クラス定義を保管します。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

分類ユーザー出口	
機能	_____
ダイナミック・リンク・ライブラリー	_____
次のワークバスケット・ユーザー出口	
機能	_____
ダイナミック・リンク・ライブラリー	_____
自動ワークフロー・ユーザー出口	
機能	_____
ダイナミック・リンク・ライブラリー	_____
記憶域管理ユーザー出口	
機能	_____
ダイナミック・リンク・ライブラリー	_____

続く ..

F3= 終了 F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 16. 「索引クラスの作成」パネル

パネルの定義

分類ユーザー出口

代替のソート関数を実行するためにユーザー出口で実行させたい関数の名前を入力します。

次のワークバスケット・ユーザー出口

クライアントまたはユーザーがこの索引クラスのフォルダーまたは文書をワーク・バスケットに送るときに実行させたい、関数の名前を入力します。

自動ワークフロー・ユーザー出口

自動ワークフローのユーザー出口で実行したい関数の名前を入力します。この関数は、項目の保管時に

ワークフローで項目を自動的に起動するように定義された索引クラスの項目をユーザーが保管するときに使用します。

記憶域管理ユーザー出口

記憶域管理ユーザー出口で実行したい関数の名前を入力します。ユーザーが項目にこの索引クラスの索引を付けると、この出口が実行されます。

ダイナミック・リンク・ライブラリー

入力したそれぞれのユーザー出口にダイナミック・リンク・ライブラリーを入力します。

機能キーの定義

F6

「キー・フィールドの処理」パネル (10 ページの図 5) が表示され、そこで新しいキー・フィールドを作成することができます。

実行キー

索引クラス定義を保管します。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー・オプション・ユーザー出口
機能
ダイナミック・リンク・ライブラリー

終わり

F3= 終了 F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 17. 「索引クラスの作成」パネル

パネルの定義

ユーザー・オプション・ユーザー出口機能

ユーザー・オプションのユーザー出口で実行したい関数の名前を入力します。

ダイナミック・リンク・ライブラリー

入力したそれぞれのユーザー出口にダイナミック・リンク・ライブラリーを入力します。

機能キーの定義

F6

「キー・フィールドの処理」パネル (10 ページの図 5) が表示され、そこで新しいキー・フィールドを作成することができます。

実行キー

索引クラス定義を保管します。

索引クラスの変更

「索引クラスの処理」パネルから **2** を選択して、27 ページの図 18 に示されたパネルを表示します。このパネルを使用して、既存の索引クラス定義を修正した上で、項目が索引クラスと関連付けられるときに以下のことに注意してください。

- キー・フィールドの追加はできますが、削除はできません。
- キー・フィールドの順序の変更はできません。

17 ページの『索引クラスの作成』で、このパネルのフィールドについて詳しく説明します。

索引クラスの変更

索引クラス : DOCCLASS

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
アクセス・リスト	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
キー・フィールド 1	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 2	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 3	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 4	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 18. 「索引クラスの変更」パネル

索引クラスのコピー

「索引クラスの処理」パネルから **3** を選択して、28 ページの図 19 に示されたパネルを表示します。このパネルを用いて、既存の索引クラスをコピーして、新しい索引クラスを作成することができます。

17 ページの『索引クラスの作成』で、このパネルのフィールドについて詳しく説明します。

索引クラスのコピー

コピー元索引クラス : DOCCLASS

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

索引クラス	_____	名前
テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
アクセス・リスト	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
キー・フィールド 1	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 2	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 3	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 4	XXXXXXXX	名前, リストは F4キー
必須	X	Y=YES, N=NO

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F6=キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 19. 「索引クラスのコピー」パネル

索引クラスの削除

「索引クラスの処理」パネルから **4** を選択して、図 20 に示されたパネルを表示します。索引クラスを削除することを、実行キーを押して確認するか、または F12 を押して取り消します。

索引クラスの削除の確認

「4= 削除」の選択項目を確認して、実行キーを押してください。
削除せずに戻すためには、F12 キーを押してください。

<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	索引	<input checked="" type="checkbox"/>	クラス	<input checked="" type="checkbox"/>	テキストリスト
4	4	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
4	4	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
4	4	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
4	4	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

終わり

F12= 取り消し

図 20. 「索引クラスの削除の確認」パネル

索引クラスの表示

「索引クラスの処理」パネルから **5** を選択して、図 21 に示されたパネルを表示します。このパネルを使用して、要求した索引クラスの現行のプロファイル情報を表示します。

17 ページの『索引クラスの作成』で、このパネルのフィールドについて詳しく説明します。

索引クラスの表示

索引クラス	:	XXXXXXXX
テキスト	:	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
アクセス・リスト	:	XXXXXXXXXX
キー・フィールド 1	:	XXXXXXXX
必須	:	X
キー・フィールド 2	:	XXXXXXXX
必須	:	X
キー・フィールド 3	:	XXXXXXXX
必須	:	X
キー・フィールド 4	:	XXXXXXXX
必須	:	X

続行するためには、実行キーを押してください。

続く ..

F3= 終了 F12= 取り消し

図 21. 「索引クラスの表示」パネル

第 3 章 ワークフローでの処理

Content Manager for iSeries が提供するワークフロー・システムを使用すると、作業を自動操作によって行うことができます。これにより、作業環境下で作業の流れと作業効率を管理することができます。ユーザーは項目を処理するときに、各項目に対して実行するアクションを決める必要があります。拡張ワークフローでは、この処理を自動操作によって実行することができます。実行にあたっては、システム管理者が作業方法を決めることができます。そのために、ワークフローのコンポーネントを相互に連携させる方法を管理するためのプロファイルおよび規則を設定します。ワークフローには、ワーク・バスケット、アクション・リスト、およびプロセスという 3 つの主要なコンポーネントがあります。

- ワーク・バスケットとは、いくつかの作業および作業上の規則を論理的にまとめたものです。ワーク・バスケットは物を入れる「かご」のようなものであり、ここにはユーザーが作業を行う項目を設定します。
- アクション・リストとは、特定のワーク・バスケットでユーザーが実行できるようにしたいアクションをまとめたものです。つまり、ワーク・バスケットの機能(続行や中断など)をまとめたものです。
- プロセスとは、作業を進めるときに従う一連のステップ、イベント、および規則を指します。プロセスの中には、いくつかのワーク・バスケットがリンクされた単純な順次プロセスもあれば、いくつもの経路が設定された複雑なプロセスもあります。ワーク・バスケットの場合だけでなく、プロセスについてもコレクション・ポイント、決定ポイント、およびユーザー出口を設定します。コレクション・ポイントとは、作業の流れの中でイベントが発生するのを待つ地点を指します。イベントが発生すると、次のステップに進みます。決定ポイントとは、次に進む経路を決定する地点を指します。定義された経路のうち、どの経路が条件に最も合うかによって選択される経路が決まります。ユーザー出口とは、ユーザー固有の処理を実行できる場所を指します。

Content Manager for iSeries では、拡張ワークフロー (プロセス定義により設定) の他に、随時ルーティング機能によりプロセスの範囲外の経路で作業を進めることができます。この機能を使用すると、ユーザーは定義済みのプロセスを使用しなくても、項目をワーク・バスケットに直接設定することができます。随時ルーティング機能では、ワークフロー・システムのコンポーネントであるワーク・バスケットとアクション・リストを使用します。

社内で作業を進めるのに必要なワークフローのコンポーネントを定義するにあたっては、社内での作業の流れを事前に分析しておく必要があります。ユーザーが文書を処理するときに実行するアクションを考慮した上で、作業の流れを管理できるようにシステムを設定するときの最も効率的な設定方法を決めてください。ユーザーの作業の中には、ワークフローによって自動操作にすることができるものもあれば、ユーザーが手操作で行う方が速く終わるものもあります。また、自動ワークフローと随時ルーティングを組み合わせる方法が会社のニーズに最も合う場合もあります。

プロファイル定義の管理

アクション・リストとプロセスの作成・管理には、ワーク・マネージメント・ビルダーというグラフィックス対応のエディターを使用します。ワーク・マネージメント・ビルダーは Content Manager for iSeries とは別の機能です。ワーク・マネージメント・ビルダーがないと、自動ワークフローを定義することはできません。上述のワークフロー・コンポーネントの定義については、*IBM Content Manager for iSeries: 拡張ワークフロー・ガイド* を参照してください。

ワーク・バスケットの作成・管理には、サーバー上にある Content Manager for iSeries 用のシステム管理パネルを使用します。

ワーク・バスケットの処理

「プロファイル保守」メニューで **7** を選択すると、図 22 に示すパネルが表示されます。このパネルで、ワーク・バスケットの作成、表示、変更、コピー、および削除を行うことができます。

以降のセクションでは、ワーク・バスケットのプロファイルの処理に使用する各パネルについて説明します。

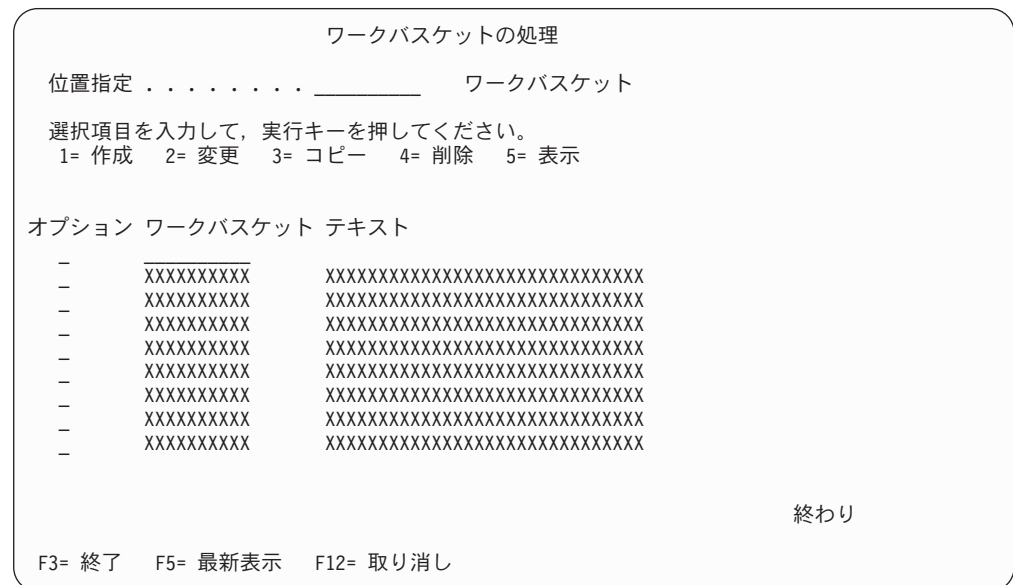


図 22. 「ワークバスケットの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のワーク・バスケットの名前を指定し、実行キーを押します。入力したワーク・バスケットが入ったパネルが再び表示されます。1 つの文字またはストリングの一部しか入力しなかった場合や存在しないワーク・バスケット名を入力した場合は、その文字またはストリングに最も近い名前のワーク・バスケットがパネルに表示されます。

1=作成	34 ページの図 23 に示されたパネルが表示されます。
2=変更	変更したいワーク・バスケットの横に 2 を指定してください。38 ページの図 25 に示されているパネルが表示され、そこでユーザーは、ワーク・バスケットの定義を変更することができます。
3=コピー	コピーしたいワーク・バスケットの横に 3 を指定してください。これで、38 ページの図 26 に示されたパネルが表示されます。
4=削除	削除したいワーク・バスケットの横に 4 を指定してください。これで、39 ページの図 27 に示されたパネルが表示されます。複数の項目の横に 4 を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。
5=表示	全定義を表示したいワーク・バスケットの横に 5 を指定してください。40 ページの図 28 に示されたパネルが表示されます。このパネルでは表示されている情報を見ることはできますが、情報を入力することはできません。
オプション	処理したい項目の横にオプション番号を入力してください。
ワークバスケット	削除のマークが付いていないワーク・バスケットの名前を表示します。
テキスト	ワーク・バスケットの目的を表す、ワーク・バスケットの記述。
機能キーの定義	
実行キー	選択内容を処理します。

ワーク・バスケット・プロファイルのパネルを使用して、ワーク・バスケットの詳細の作成、変更、または表示を行うことができます。ワーク・バスケットのコピーまたは削除を行うこともできます。

ワーク・バスケットの作成

32 ページの図 22 に示された「ワークバスケットの処理」パネルから **1** を選択すると、図 23 に示すパネルが表示されます。

ワークバスケットの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ワークバスケット	_____	名前
テキスト	_____	
アクセス・リスト	_____	名前, リストは F4キー
処置リスト	_____	名前, リストは F4キー
再割り当て可能	Y	Y=YES, N=NO
リスト作業	Y	Y=YES, N=NO
作業順序	1	1= 先入れ先出し (FIFO) 2= 後入れ先出し (LIFO) 3= 優先順位の順
索引付け後に			
除去	N	Y=YES, N=NO
多重定義設定	N	Y=YES, N=NO
限界	_____	0-9999
機能	_____	
ダイナミック・リンク・ライブラリー	_____	

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 23. 「ワークバスケットの作成」パネル

パネルの定義

ワークバスケット

作成するワーク・バスケットの名前として 1 ~ 10 文字の英数字を指定してください。*NEXT という名前は、Content Manager for iSeries の随時ルーティング機能が使用するために予約されているので、ワーク・バスケット名としては指定できません。このフィールドは必須です。

テキスト

ワーク・バスケットの目的を表す、ワーク・バスケットの記述。

アクセス・リスト

このワーク・バスケットに関連付けたいアクセス・リスト名を入力してください。アクセス・リストにより、ワーク・バスケットにアクセスできるユーザーを制御します。

処理リスト

このワーク・バスケットに関連付けたい処理リスト名を入力してください。処理リストには、ワーク・バスケットでユーザーが指定できるオプションを設定します。

再割り当て可能

このワーク・バスケットへの作業の割り当てをユーザーが変更できるようにしたい場合には、**Y** と入力してください。

このワーク・バスケットへの作業の割り当てをユーザーが変更できないようにしたい場合には、**N** と入力してください。

リスト作業

ユーザーが処理する項目を選択できるように、このワーク・バスケットにあるすべての項目を提示するときは、**Y** を入力してください。ユーザーは、項目をランダムな順序で設定することができます。このワーク・バスケットにあるすべての項目を表示した

くない場合は、**N** を入力してください。このようにすると、「作業順序」フィールドの値にもとづいて、項目が自動的にユーザーに提示されます。

作業順序

このワーク・バスケットの項目を先入れ先出し法でユーザーに表示されるように編成するときは、**1** を入力してください。

このワーク・バスケットの項目を後入れ先出し法でユーザーに表示されるように編成するときは、**2** を入力してください。

このワーク・バスケットの項目を優先順位の順でユーザーに表示されるように編成するときは、**3** を入力してください。優先順位は割り当てられた番号によって決まります。

索引付け後に除去

ワーク・バスケット内の項目の索引付けが終わり、ただちにそれらの項目がワーク・バスケットから自動的に削除されるようにする場合には、**Y** と入力してください。

ワーク・バスケット内の項目の索引付けが終わっても、ただちにそれらの項目がワーク・バスケットから自動的に削除されないようにする場合には、**N** と入力してください。

多重定義設定

ワーク・バスケット内の項目数が「限界」フィールドに指定された数に達したときに、過負荷処理が実行されるようにしたい場合には、**Y** と入力してください。過負荷が発生すると、ユーザーにその旨通知されます。また、過負荷ユーザー出口が呼び出されることもあります。

過負荷処理が実行されないようにしたい場合には、**N** と入力してください。

限界 ワーク・バスケットに格納できる最大項目数を指定してください。この値を超えると、過負荷処理が実行されます。0 ~ 9999 の数値を入力してください。

機能 ワーク・バスケット内の項目数が過負荷の限界値に達したときに実行したい関数の名前を入力してください。

ダイナミック・リンク・ライブラリー

過負荷関数のダイナミック・リンク・ライブラリー名を入力してください。

機能キーの定義

実行キー

ワーク・バスケット定義を保管します。

ワークバスケットの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー・ワークバスケット	N	Y=YES, N=NO
ユーザー定義	N	Y=YES, N=NO
タイプ		50-99
機能		
ダイナミック・リンク・ライブラリー		
ユーザー出口を選択した項目		
機能		
ダイナミック・リンク・ライブラリー		
ユーザー出口を完了した項目		
機能		
ダイナミック・リンク・ライブラリー		

終わり

F3= 終了 F12= 取り消し

図 24. 「ワークバスケットの作成」パネル

パネルの定義

ユーザー・ワークバスケット

このフィールドでは、作成するワーク・バスケットをユーザー・ワーク・バスケットとして定義するかどうかを指定します。ユーザー・ワーク・バスケットとして定義したワーク・バスケットには、そのユーザーが所有する作業と、所有者が割り当てられていない作業のみが表示されます。

ただし、ワーク・バスケットのユーザーがシステム管理者権限を持っている場合には、所有権の有無にかかわらず、すべての作業が表示されます。

作成するワーク・バスケットをユーザー・ワーク・バスケットにする場合は、**Y** と入力します。

作成するワーク・バスケットをユーザー・ワーク・バスケットにしない場合は、**N** と入力します。これはデフォルト値です。

ユーザー定義

このフィールドは、ユーザー定義のワーク・バスケットであるかどうかを示します。ユーザー定義のワーク・バスケットである場合は、オープンするワーク・バスケットが選択されると、クライアントはユーザー出口を呼び出します。このワーク・バスケットの作業の処理は、ユーザー出口のユーザー定義コードによりサポートします。

ユーザー定義のワーク・バスケットである場合には、**Y** と入力してください。このフィールドに **Y** と入力した場合には、関連する「**タイプ**」フィール

ド、「機能」フィールド、および「ダイナミック・リンク・ライブラリー」フィールドに値を指定してください。

ユーザー定義のワーク・バスケットでない場合には、**N** と入力してください。

タイプ ワーク・バスケットのタイプとして 50 ～ 99 の数値を入力してください。この値は、ユーザー定義のワーク・バスケット用のユーザー出口への入力となります。

ユーザー定義ワークバスケットのユーザー出口機能) このユーザー定義のワーク・バスケットに対して実行したい機能の名前を入力してください。

ユーザー出口を選択した項目機能

ワーク・バスケットの項目選択時のユーザー出口で実行したい機能の名前を入力してください。このユーザー出口は、ワーク・バスケットの項目を選択して、オープンするときにクライアントによって呼び出されます。

ユーザー出口を完了した項目機能

ワーク・バスケットの項目完了時のユーザー出口で実行したい機能の名前を入力してください。このユーザー出口は、ワーク・バスケットの項目の処理が完了したときにクライアントによって呼び出されません。

ダイナミック・リンク・ライブラリー

指定された各ユーザー出口関数のダイナミック・リンク・ライブラリー名を入力してください。

機能キーの定義

実行キー

ワーク・バスケット定義を保管します。

ワーク・バスケットの変更

「ワークバスケットの処理」パネルで **2** を選択すると、38 ページの図 25 に示すパネルが表示されます。このパネルで、既存のワーク・バスケット定義を変更することができます。

この画面のフィールドの説明については、33 ページの『ワーク・バスケットの作成』を参照してください。

ワークバスケットの変更

ワークバスケット : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
アクセス・リスト	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
処置リスト	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
再割り当て可能	X	Y=YES, N=NO
リスト作業	X	Y=YES, N=NO
作業順序	X	1= 先入れ先出し (FIFO) 2= 後入れ先出し (LIFO) 3= 優先順位の順
索引付け後に		
除去	X	Y=YES, N=NO
多重定義設定	X	Y=YES, N=NO
限界	XXXX	0-9999
機能	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
ダイナミック・リンク・ライブラリー	XXXXXXXX	

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 25. 「ワークバスケットの変更」パネル

ワーク・バスケットのコピー

「ワークバスケットの処理」パネルで **3** を選択すると、図 26 に示されたパネルが表示され、既存のワーク・バスケットをコピーして、新しいワーク・バスケットを作成することができます。

この画面のフィールドの説明については、33 ページの『ワーク・バスケットの作成』を参照してください。

ワークバスケットのコピー

コピー元ワークバスケット : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ワークバスケット	_____	名前
テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
アクセス・リスト	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
処置リスト	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
再割り当て可能	X	Y=YES, N=NO
リスト作業	X	Y=YES, N=NO
作業順序	X	1= 先入れ先出し 2= 後入れ先出し 3= 優先順位
索引付け後に		
除去	X	Y=YES, N=NO
多重定義設定	X	Y=YES, N=NO
限界	XXXX	0-9999
機能	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
ダイナミック・リンク・ライブラリー	XXXXXXXX	

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 26. 「ワークバスケットのコピー」パネル

ワーク・バスケットの削除

「ワークバスケットの処理」パネルで **4** を選択すると、図 27 に示されたパネルが表示され、削除したいワーク・バスケットが示されます。実行キーを押してワーク・バスケットの削除を確認するか、または F12 (取消) を押して要求を取り消すことができます。

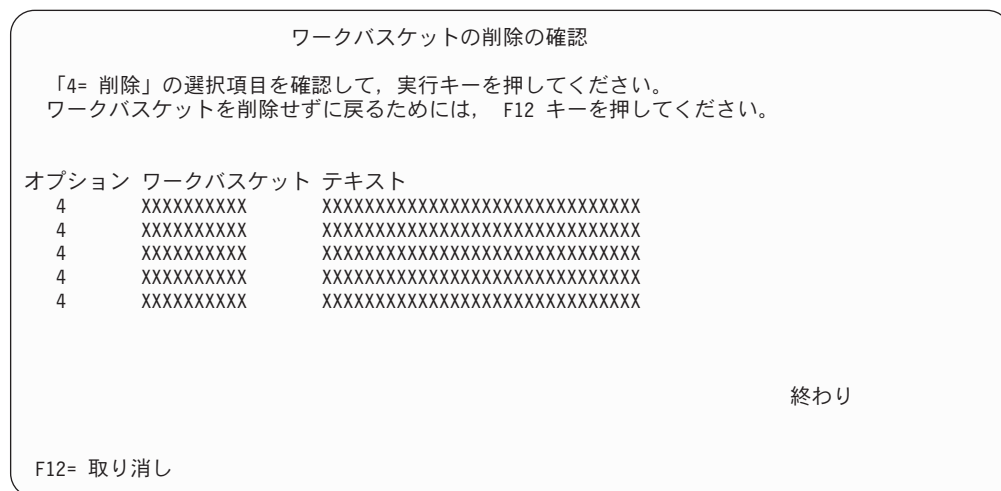


図 27. 「ワークバスケットの削除の確認」パネル

ワーク・バスケットの表示

「ワークバスケットの処理」パネルで **5** を選択すると、40 ページの図 28 に示されたパネルが表示され、要求されたワーク・バスケットの現在のプロファイル情報が表示されます。

この画面のフィールドの説明については、33 ページの『ワーク・バスケットの作成』を参照してください。

ワークバスケットの表示

```
ワークバスケット . . . . . : XXXXXXXX
テキスト . . . . . : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
アクセス・リスト . . . . . : XXXXXXXX
処置リスト . . . . . : XXXXXXXX
再割り当て許可 . . . . . : X
リスト作業 . . . . . : X
作業順序 . . . . . : X
索引付けの
  除去 . . . . . : X
多重定義の設定 . . . . . : X
  限界 . . . . . : XXXX
  機能 . . . . . : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
ダイナミック・リンク・ライブラリー: XXXXXXXX
```

続行するためには、実行キーを押してください。

続く ..

F3= 終了 F12= 取り消し

図 28. 「ワークバスケットの表示」パネル

第 4 章 ユーザーのアクセスおよびセキュリティ

システム管理者には、Content Manager for iSeries と関連するユーザー・アクセスと権限を制御する責任があります。システムの機密をどの程度にするかを選択することができます。

Content Manager for iSeries のセキュリティは、OS/400 オペレーティング・システムのセキュリティと大変よく似ています。一般的な方法は次のとおりです。

- ユーザーに一般特権セットを割り当てる。
- セキュリティの妥当性検査は、サーバー・レベルで行う (ワークステーション・レベルではない)。

ユーザーが、ある機能へのアクセスを試みると、次のプロセスに従って妥当性検査が行われます。

1. ユーザーの一般特権セットが検査されます。
2. (ユーザーが要求した機能の) セキュリティ・ビットが有効であればそのアクセスは許可され、後続の検査は行われません。
3. セキュリティ・ビットが有効でない場合、サーバーはそのユーザーがアクセスを求めているオブジェクト (索引クラス、ワーク・バスケット、またはプロセス) を検査します。サーバーは、オブジェクトの特権セットをユーザーの特権セットと突き合わせて "評価" し、そのユーザーにアクセスを許可するかどうかを判断します。ただし、これは付加的なプロセスです。ユーザーにいったん許可されたアクセスが消失することはないため、前回アクセスを許可されたユーザーには、それ以降も常にアクセスが許可されます。

重要: 一般特権でのアクセス方式を採用するにあたっては、その利点を、それらの特権の評価方式と照らし合わせて検討する必要があります。

- 一般特権によってユーザーのアクセスを許可する方式は最も効率的ですが、制約が少ないため安全性は低くなります。
- 効率よりもセキュリティを重視する場合は、ユーザーの一般特権レベルでアクセス制限を設けて、サーバーがユーザーへのアクセス許可を "必要に応じて" 行えるようにする方式が適しています。

Content Manager for iSeries では、ユーザー・アクセスを制御するために次のコンポーネントを提供しています。

- グループ - 同じような権限を持つユーザーの集まりのことです。OS/400 の権限リストにほぼ相当します。
 - ユーザーを 1 つまたは複数のグループに関連付けることができます。
 - アクセス制御リスト (ACL) には、1 つまたは複数のグループを定義できます。

このセキュリティ・プロセスでは、定義されているグループ内で (一度に 1 グループずつ) ユーザーが検索されます。検索対象ユーザーを含む最初のグループ

が見つかり、そのユーザーに関連付けられている特権セットに基づいて、評価済みの特権セットが生成されます。(該当のユーザーが見つかった場合は、残りのグループの検索は行われません。)

- 特権セット - ユーザーまたはユーザー・グループが実行できる機能を指定します。たとえば、特権セットを使用して、ユーザーが以下のことを実行できるかどうかを制御することができます。
 - 文書およびフォルダーの作成または削除
 - ノートの読み取り、追加、更新
 - フォルダーへの項目の追加またはフォルダーからの項目の削除
 - ワーク・バスケットへの項目の追加または削除
- 特権セットは、Content Manager for iSeries の各ユーザー ID プロファイルに割り当てられます。この特権セットをユーザーの一般特権セットといいます。
- アクセス・リスト - ユーザー (およびユーザー・グループ) と特権セットをまとめたものであり、ワーク・バスケット、索引クラス、およびプロセスへのアクセスを制御するのに使用します。アクセス・リストに使用する特権セットにより、一般特権セット以外の権限をユーザーに付与することができます。アクセス・リストは一般特権に対して権限を**追加**するものであり、権限の除去を行うものではありません。

権限管理の最も簡単な例として、すべてのユーザーがライブラリー内のすべての項目にアクセスできるようにするには、すべてのユーザーに最大限の権限を付与します。アクセス・リストは権限を追加するためのものなので、この例の場合、ワーク・バスケット用、索引クラス用、またはプロセス用のアクセス・リストを設定する必要はありません。

上述の方法以外にも、各種レベルの制限付きアクセスを設定することができます。たとえば、特定のフォルダーおよび文書に一部のユーザーしかアクセスできないようにするには、まずすべてのユーザーの一般特権を定義します。このとき、それらの項目の索引クラスへのアクセス権限を最低レベルで指定します。次に、その索引クラスを処理する許可を与えるユーザーおよびユーザー・グループのアクセス・リストを定義します。アクセス・リストの各エントリーに、その索引クラスの機能を許可する特権セットを関連付けます。そして、このアクセス・リストをその索引クラスに使用します。これにより、アクセス・リストに定義されていないユーザーに対してはその索引クラスの使用が拒否され、アクセス・リストに定義されているユーザーに対しては特権セットに指定された機能の実行が許可されます。

以下に例を示します。たとえば、次のような 2 つの特権セットが定義されているものとします。上段に示す特権セットは、John Doe というユーザーについて定義された一般特権セットを示します。下段に示す特権セットは、「請求」という索引クラスについて定義されたアクセス・リストにおいて、このユーザーに関連付けられている特権セットを示します。

	Scan (スキャン)	Search (検索)	Print (印刷)	Fax (ファックス)	Create (作成)	Delete (削除)	インポート	Export (エクスポート)	その他
ユーザー John Doe の一般特権	可	可	不可	不可	不可	可	不可	不可	
索引クラス「請求」のアクセス・リストでのユーザー John Doe の特権	不可	可	不可	可	可	不可	不可	不可	

評価後の特権セット	可	可	不可	可	可	可	不可	不可	
-----------	---	---	----	---	---	---	----	----	--

1. このユーザー (John Doe) がスキャンを実行しようとした場合、Content Manager for iSeries はこのユーザーの一般特権セットをチェックして、このユーザーにスキャンを実行する権限があることを確認します。その場合、権限の評価はこれ以上行われません。
2. このユーザー (John Doe) が「請求」という索引クラスの項目をファックスで転送しようとした場合、Content Manager for iSeries はこのユーザーの一般特権セットをチェックして、このユーザーにファックスで転送する権限がないことを確認します。その場合には、この索引クラスのアクセス・リストに照会して、このユーザーがそのアクセス・リストに定義されたユーザーまたはユーザー・グループのメンバーであるかどうかを確認します。このユーザーはリストに定義されているので、リストの中でこのユーザーに割り当てられている特権セットをチェックして、このユーザーにこの索引クラスの項目をファックスで転送する権限があることを確認します。
3. このユーザー (John Doe) が「請求」という索引クラスの項目を印刷しようとした場合、Content Manager for iSeries はこのユーザーの一般特権セットをチェックして、このユーザーに印刷する権限がないことを確認します。その場合には、この索引クラスのアクセス・リストに照会して、このユーザーがそのアクセス・リストに定義されているかどうかを確認します。このユーザーはリストに定義されているので、リストの中でこのユーザーに割り当てられている特権セットをチェックして、このユーザーにこの索引クラスの項目を印刷する権限がないことを確認します。

特権セットの処理

特権 は、システムにあるオブジェクトのアクセスや、特定のタスクの実行について、ユーザーに与えられる権限です。特権セット は、システムのコンポーネントや機能を処理するために、ユーザー ID に割り当てられた特権のコレクションです。

「プロファイル保守」メニューで **1** を選択すると、44 ページの図 29 に示すパネルが表示されます。

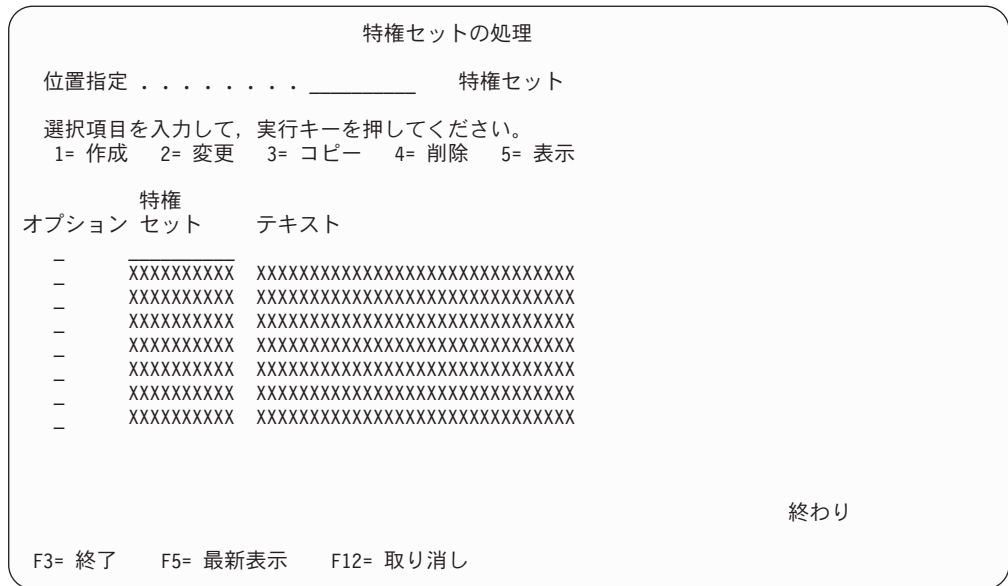


図 29. 「特権セットの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先の特権セットの名前を入力し、実行キーを押します。入力した特権セットが入ったパネルが再び表示されます。1つの文字、ストリングの一部、または存在しない特権セットを入力すると、入力した文字やストリングに最も近い特権セットがパネルに表示されます。

1=作成

新しい特権セットを作成する場合はこのオプションを選択してください。45ページの図30に示されたパネルが表示されます。

2=変更

変更したい特権セットの横に**2**を入力してください。52ページの図34に示されているパネルが表示され、そこで、特権セットの定義を変更することができます。

3=コピー

コピーしたい特権セットの横に**3**を入力してください。これで、既存の特権セット定義が新しい特権セット定義にコピーすることができます。52ページの図35に示されているパネルが表示され、そこで既存の特権セット定義を変更して、新しい特権セットを作成することができます。

4=削除

削除したい特権セットの横に**4**を入力してください。53ページの図36に示すパネルが表示され、要求を確認するか、取り消すことができます。複数の項目の横に**4**を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

特権セット定義を表示したい特権セットの横に**5**を入力してください。53ページの図37に示されたパネルが表示されます。

特権セット	特権セットを表示します。
テキスト	特権セットに関連付けられた 1 ~ 32 文字の英数字の記述。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起これば、「特権セットの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー	選択内容を処理します。
------	-------------

特権セットの作成

「特権セットの処理」パネルから **1** を選択すると、図 30 に示されたパネルが表示されます。

特権セットの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

特権セット	名前
テキスト	_____
スーパー・アクセス	N Y=YES, N=NO
共通フォルダーおよび 文書特権 :	
作成	Y Y=YES, N=NO
削除	N Y=YES, N=NO
保留または活動化	N Y=YES, N=NO
チェックインまたはアウト	N Y=YES, N=NO
索引	2 0= なし, 1= 検索, 2=キー・フィールド更新 3= 索引クラス変更
注釈ログ	3 0= なし, 1= 読み取り 2= 追加, 3= 更新
活動記録	1 0= なし, 1= 読み取り

続く ..

F3= 終了 F12= 取り消し

図 30. 「特権セットの作成」パネル

パネルの定義

特権セット	作成したい特権セットの 1 ~ 10 文字の英数字名を入力します。アスタリスク (*) 予約文字で始まる名前を、特権セットの名前にはできません。
テキスト	特権セットの記述を入力します。
スーパー・アクセス	「スーパー・アクセス」が指定されている場合は、Content Manager for iSeries システムは、索引クラス、ワーク・バスケット、またはプロセスに割り当

てられたアクセス制御をバイパスします。**Y** を指定すると、この特権セットに対してスーパー・アクセスが与えられ、**N** を指定すると、この特権セットに対してスーパー・アクセスは与えられません。

共通フォルダーおよび文書特権

フォルダーおよびオブジェクトの作成、削除、アクセス、中断または活動化、およびチェックインまたはチェックアウトをするための特権を割り当てます。

作成 ユーザーに対してフォルダーと文書の作成を許可するときは、**Y** を入力します。この特権を与えないときは、**N** を入力します。

削除 ユーザーに対してフォルダーと文書の削除を許可するときは、**Y** を入力します。この特権を与えないときは、**N** を入力します。

保留または活動化)

このフィールドは、フォルダーおよび文書を中断したり、活動化したりする特権を与えるときに使用します。**Y** と指定すると、この機能を実行する特権が与えられます。**N** と指定すると、この機能を実行する特権は与えられません。

チェックインまたはアウト

現在は使用しません。

索引 フォルダーおよびオブジェクトに対して割り当てられる、次のいずれかのアクセス・レベルを入力します。

0=なし

クライアントにある索引クラス・フィールドおよびキー・フィールドをユーザーが表示できないようにします。

1=検索

索引クラスを選択して、検索基準をキー・フィールドで指定することによって、ユーザーがフォルダーとオブジェクトを検索できるようにします。

2=キー・フィールド更新

フォルダーとオブジェクトの検索のほかに、フォルダーとオブジェクトに関するキー・フィールド情報と索引クラス情報を、ユーザーが更新できるようにします。

3=索引クラス変更

キー・フィールドの更新、およびフォルダーとオブジェクトの検索のほかに、ユーザーが索引クラスの名前を変更できるようにします。

注釈ログ

フォルダーおよびオブジェクトに対する索引ログに割り当てられる、次のいずれかのアクセス・レベルを入力します。

0=なし

クライアントにある注釈ログをユーザーが表示できないようにします。

1=読み取り

ユーザーがノート・ログを読み取ることができるようにします。

2=追加

ログの読み取りのほかに、ユーザーが注釈ログにノートを追加できるようにします。

3=更新

注釈ログへのノートの追加と、注釈ログの読み取りのほかに、ノート・ログの中のフォルダーおよびオブジェクトに対するノートをユーザーが更新できるようにします。

活動記録

現在は使用しません。

機能キーの定義

実行キー

特権セットを作成します。

特権セットの作成		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
フォルダー目次の 特権	2	0= なし, 1= 読み取り 2= 項目の追加, 3= 項目の除去
文書目次の 特権	2	0= なし, 1= 読み取り 2= 更新, 3= 追加 4= 削除
ワークバスケット特権 :		
読み取り	Y	Y=YES, N=NO
追加	Y	Y=YES, N=NO
除去	N	Y=YES, N=NO
優先順位の変更	N	Y=YES, N=NO
		続く ..
F3= 終了 F12= 取り消し		

図 31. 「特権セットの作成」パネル

パネルの定義

フォルダー目次の特権

フォルダーの目次に対して割り当てる、次のいずれかの特権を入力します。

0=なし

フォルダーの目次をユーザーが表示できないようにします。

1=読み取り

フォルダーに対する目次だけを、ユーザーが読み取ることができるようにします。

2= 項目の追加

目次の読み取りと詳細の表示のほかに、ユーザーが、フォルダーおよびオブジェクトを他のフォルダーに追加できるようにします。

3= 項目の除去

ユーザーが、フォルダーおよびオブジェクトを他のフォルダーから除去したり、フォルダーに項目を追加したりすることができるようになります。そのほかにも、目次の読み取りと詳細の表示を実行できます。

文書目次の特権

文書の目次に対して割り当てる、次のいずれかの特権を入力します。

0=なし

ユーザーがオブジェクトを表示できないようにします。

1=読み取り

ユーザーがオブジェクトを読み取れるようにします。

2=更新

ユーザーが、オブジェクトの更新と読み取りはできるが、オブジェクトへのページの追加とオブジェクト部分の削除はできないようにします。

3=追加

ユーザーが、オブジェクトの更新と読み取りのほかに、オブジェクトへのページの追加またはオブジェクトのマークアップができるようにします。

4=削除

ユーザーが、オブジェクトの追加、更新、および読み取りのほかに、オブジェクトからのページまたはマークアップの削除ができるようにします。

ワークバスケットの特権

ワーク・バスケットに対して、下記の特権を 1 つ以上割り当てることができます。 **Y** は特権を許可し、**N** はこれらの機能の特権を与えません。

読み取り

ユーザーがワーク・バスケットを表示できるようにします。

追加 ユーザーがフォルダーおよび文書を他のワーク・バスケットに追加できるようにします。

除去 ユーザーがワーク・バスケット内の項目を削除できるようにします。

優先順位の変更

ユーザーが、ワーク・バスケットにあるフォルダーおよび文書进行处理するときの優先順位を変更できるようにします。

機能キーの定義

実行キー 特権セットを作成します。

特権セットの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ワークフロー特権 :		
追加	N	Y=YES, N=NO
除去	N	Y=YES, N=NO
移動	N	Y=YES, N=NO
続行	N	Y=YES, N=NO
強制続行	N	Y=YES, N=NO
検索	N	Y=YES, N=NO
ユーザー機能 :		
スキャン	Y	Y=YES, N=NO
印刷	Y	Y=YES, N=NO
ファクシミリの受信	Y	Y=YES, N=NO
ファクシミリの送信	Y	Y=YES, N=NO
インポート	Y	Y=YES, N=NO
エクスポート	Y	Y=YES, N=NO

続く ..

F3= 終了 F12= 取り消し

図 32. 「特権セットの作成」パネル

パネルの定義

ワークフロー特権

プロセスに対して、下記の特権を 1 つ以上割り当てることができます。

- 追加** ユーザーがフォルダーおよび文書をプロセスに追加できるようにします。
- 除去** ユーザーがフォルダーおよび文書をプロセスから除去できるようにします。
- 移動** ユーザーがフォルダーおよび文書を処理するプロセスを変更できるようにします。
- 続行** ユーザーが作業項目をプロセスの次のステップへ進めることができますようにします。

強制続行
イベントが発生していなくても、ユーザーが作業項目をプロセスの次のステップへ強制的に進めることができますようにします。

検索 ユーザーが作業項目に関連するプロセスを検索できるようにします。

ユーザー機能

ユーザーに対して、下記の特権を 1 つ以上割り当てることができます。 **Y** はこれらの機能に関する特権を許可し、 **N** はこれらの機能に関する特権を与えません。

スキャン
ユーザーが、オブジェクトをスキャンしてシステムに入れることができるかどうかを指定します。

印刷 ユーザーがオブジェクトを印刷できるかどうかを指定します。

ファクシミリの受信

ユーザーがファクシミリを受信できるかどうかを指定します。

ファクシミリの送信

ユーザーがファクシミリを送信できるかどうかを指定します。

インポート

ユーザーが、オブジェクトをインポートしてシステムに入れることができるかどうかを指定します。

エクスポート

ユーザーが、オブジェクトをシステムからエクスポートすることができるかどうかを指定します。

機能キーの定義

実行キー

特権セットを作成します。

特権セットの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理特権：		
ユーザー ID およびグループ	N	Y=YES, N=NO
特権	N	Y=YES, N=NO
アクセス・リスト	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド	N	Y=YES, N=NO
索引クラス	N	Y=YES, N=NO
データ形式	N	Y=YES, N=NO
ワークバスケット	N	Y=YES, N=NO
ワークフロー	N	Y=YES, N=NO
システム管理		
記憶域	N	Y=YES, N=NO
サーバー	N	Y=YES, N=NO
データベース・ユーティリティー . . .	N	Y=YES, N=NO

終り

F3= 終了 F12= 取り消し

図 33. 「特権セットの作成」パネル

パネルの定義

管理特権

この特権セットをユーザーに割り当てるとき、このフィールドに **Y** を指定すると、パネル上に表示されている Content Manager for iSeries プロファイルや機能をどれでも、追加、変更および削除する特権が与えられます。

特権セットの変更

「特権セットの処理」パネルから **2** を選択すると、図 34 に示されたパネルが表示されます。

特権セットの変更

特権セット : XXXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
スーパー・アクセス	X	Y=YES, N=NO
共通フォルダーおよび 文書特権 :		
作成	X	Y=YES, N=NO
削除	X	Y=YES, N=NO
保留または活動化	X	Y=YES, N=NO
チェックインまたはアウト	X	Y=YES, N=NO
索引	X	0= なし, 1= 検索, 2=キー・フィールド更新 3= 索引クラス変更
注釈ログ	X	0= なし, 1= 読み取り 2= 追加, 3= 更新
活動記録	X	0= なし, 1= 読み取り

続く ..

F3= 終了 F12= 取り消し

図 34. 「特権セットの変更」パネル

特権セットのコピー

「特権セットの処理」パネルから **3** を選択すると、図 35 に示されたパネルが表示されます。

特権セットのコピー

コピー元特権セット : XXXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

特権セット	_____	名前
テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
スーパー・アクセス	X	Y=YES, N=NO
共通フォルダーおよび 文書特権 :		
作成	X	Y=YES, N=NO
削除	X	Y=YES, N=NO
保留または活動化	X	Y=YES, N=NO
チェックインまたはアウト	X	Y=YES, N=NO
索引	X	0= なし, 1= 検索, 2= キー・フィールド更新 3= 索引クラス変更
注釈ログ	X	0= なし, 1= 読み取り 2= 追加, 3= 更新
活動記録	X	0= なし, 1= 読み取り

続く ..

F3= 終了 F12= 取り消し

図 35. 「特権セットのコピー」パネル

特権セットの削除

「特権セットの処理」パネルから **4** を選択すると、図 36 に示されたパネルが表示されます。

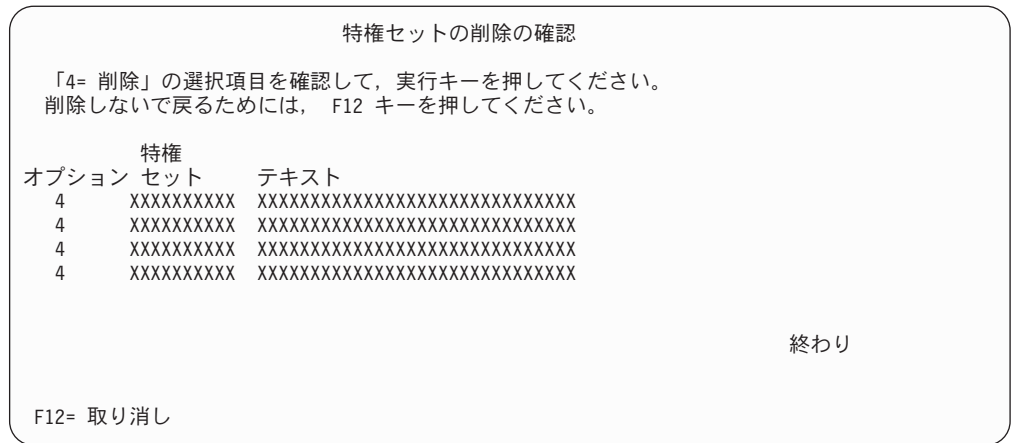


図 36. 「特権セットの削除の確認」パネル

特権セットの表示

「特権セットの処理」パネルから **5** を選択すると、図 37 に示されたパネルが表示されます。

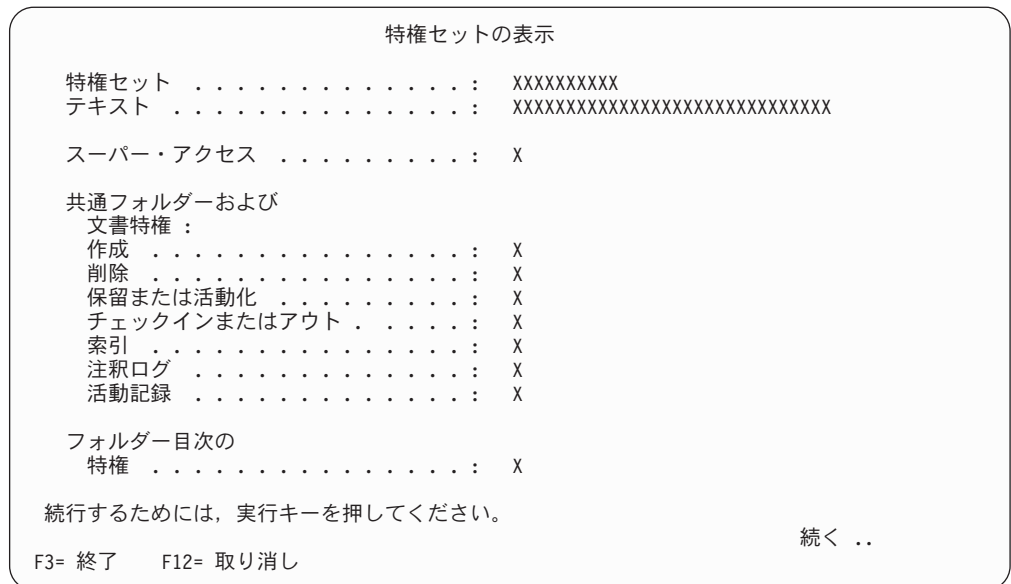


図 37. 「特権セットの表示」パネル

グループの処理

ユーザー・グループを設定すると、アクセス制御を容易に行うことができます。ユーザー・グループを設定するには、いくつかのユーザー ID を同じ名前でも 1 つのグループにまとめて、そのグループ名をアクセス・リストに指定します。

「プロファイル保守」メニューで **3** を選択すると、54 ページの図 38 に示すパネルが表示されます。

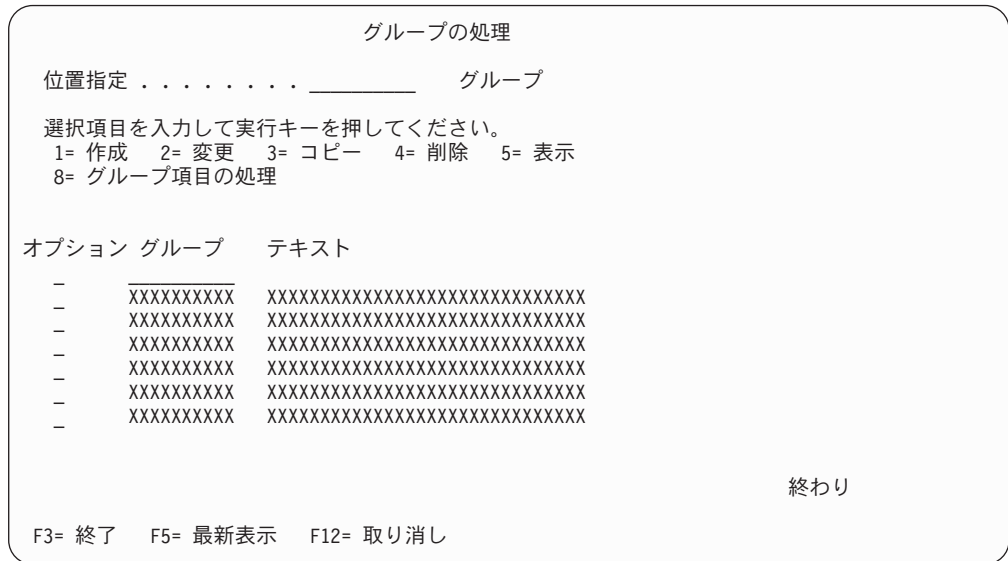


図 38. 「グループの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のグループの名前を入力し、実行キーを押します。入力したグループが入ったパネルが再び表示されます。1つの文字またはストリングの一部しか入力しなかった場合や存在しないグループ名を入力した場合は、その文字またはストリングに最も近い名前のグループがパネルに表示されます。

1=作成

新しいグループを作成する場合は、このオプションを選択してください。55ページの図39に示す「グループの作成」パネルが表示されます。

2=変更

変更したいグループの横に **2** を入力してください。56ページの図40に示す「グループの変更」パネルが表示されます。このパネルで、グループのテキスト記述を変更することができます。

3=コピー

コピーしたいグループの横に **3** を入力してください。57ページの図41に示す「グループのコピー」パネルが表示されます。このパネルで、既存のグループ定義をコピーして新しいグループ定義を作成することができます。

4=削除

削除したいグループの横に **4** を入力してください。57ページの図42に示すパネルが表示されます。このパネルで削除の実行を了解するか、または要求を取り消すことができます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

グループ定義を表示したいグループの横に **5** を入力してください。58ページの図43に示す「グループ・プロファイルの表示」パネルが表示されます。

8=グループ項目の処理

エントリーを処理したいグループの横に **8** を入力してください。59 ページの図 44 に示すパネルが表示されます。このパネルで、このグループのエントリーを追加したり、削除したりすることができます。

グループ

グループ名が表示されます。

テキスト

各グループの記述が表示されます。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起これば、「グループの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

グループの作成

ユーザー・グループを設定すると、アクセス制御を容易に行うことができます。ユーザー・グループを設定するには、いくつかのユーザー ID を同じ名前で 1 つのグループにまとめて、そのグループ名をアクセス・リストに指定します。

「グループの処理」パネルで **1** を選択すると、図 39 に示すパネルが表示されます。

グループの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

グループ _____ 名前

テキスト _____

F3= 終了 F12= 取り消し

図 39. 「グループの作成」パネル

パネルの定義

グループ	固有のグループ名 (1 ~ 10 文字) を入力します。
テキスト	グループの記述を入力します。このフィールドは情報用であり、グループの内容を記述します。
機能キーの定義	
実行キー	グループ定義を保管します。

グループの変更

「グループの処理」パネルで **2** を選択すると、図 40に示すパネルが表示され、既存のグループのテキスト記述を変更することができます。

この画面のフィールドの説明については、55 ページの『グループの作成』を参照してください。

グループの変更

グループ : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

F3= 終了 F12= 取り消し

図 40. 「グループの変更」パネル

グループのコピー

「グループの処理」パネルで **3** を選択すると、57 ページの図 41 に示すパネルが表示され、既存のグループのテキスト記述をコピーして、新しいグループを作成することができます。

この画面のフィールドの説明については、55 ページの『グループの作成』を参照してください。

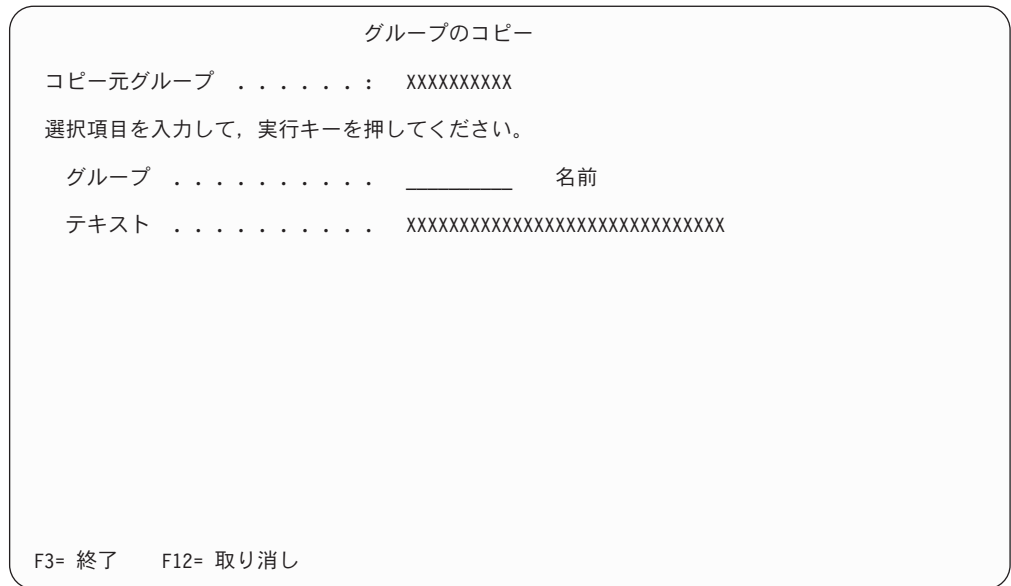


図 41. 「グループのコピー」パネル

グループの削除

「グループの処理」パネルで **4** を選択すると、図 42 に示すパネルが表示され、削除したいグループが示されます。実行キーを押してグループの削除を確認するか、または F12 (取消) キーを押して要求を取り消すことができます。グループを削除すると、アクセス・リストからそのグループのエントリーがすべて削除されます。

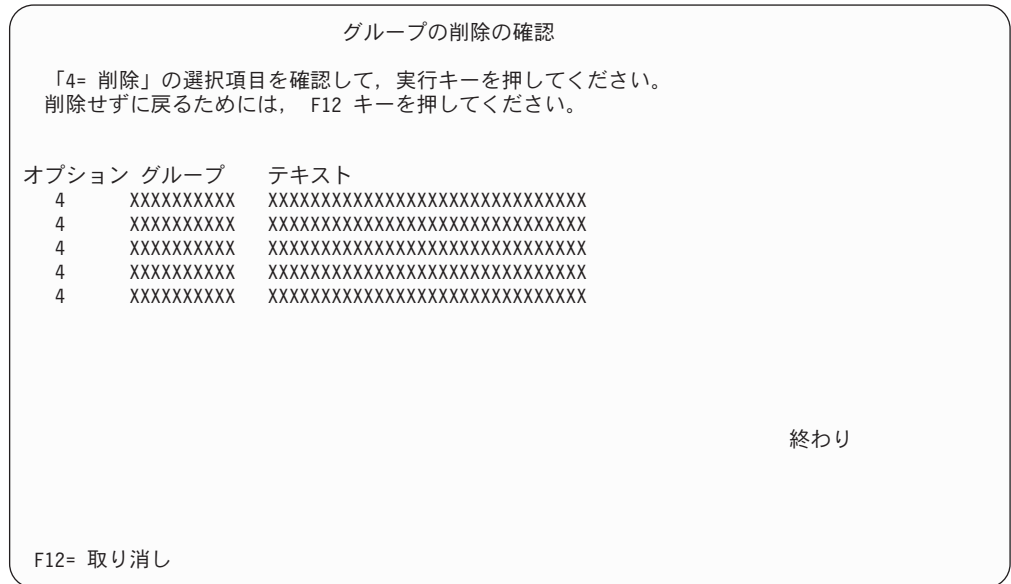


図 42. 「グループの削除の確認」パネル

グループの表示

「グループの処理」パネルで **5** を選択すると、図 43 に示すパネルが表示されます。このパネルには、現行のグループ定義が表示されます。この画面のフィールドの説明については、55 ページの『グループの作成』を参照してください。

グループの表示

グループ : XXXXXXXXX

テキスト : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F12= 取り消し

図 43. 「グループの表示」パネル

グループ・エントリーの処理

「グループの処理」パネルで **8** を選択すると、59 ページの図 44 に示すパネルが表示されます。このパネルで、ユーザー・グループのメンバーを追加したり、削除したりすることができます。

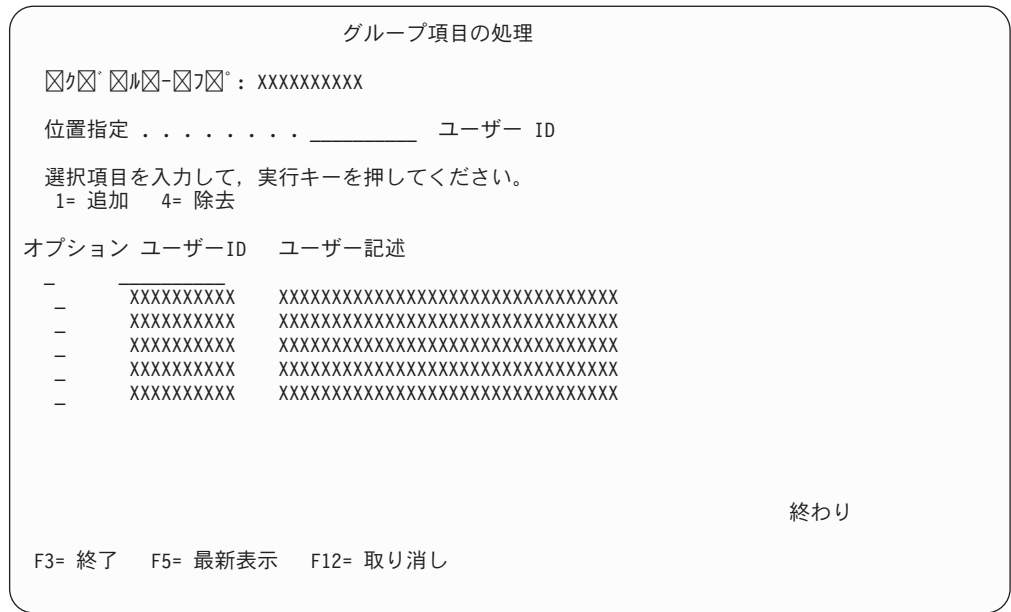


図 44. 「グループ項目の処理」パネル

パネルの定義

グループ

グループ名が表示されます。

位置指定

スクロール先のユーザーの名前を入力し、実行キーを押します。入力したユーザーが入ったパネルが再び表示されます。1つの文字またはストリングの一部しか入力しなかった場合や存在しないユーザー名を入力した場合は、その文字またはストリングに最も近い名前のユーザーがパネルに表示されます。

1=追加

ユーザー・グループのメンバーを追加する場合は、このオプションを選択してください。60 ページの図 45 に示すパネルが表示されます。

4=除去

ユーザー・グループから削除したいユーザーの横に **4** を入力してください。61 ページの図 46 に示すパネルが表示されます。このパネルで要求の実行を了解するか、または要求を取り消すことができます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

ユーザー ID

そのグループのメンバーである各ユーザーのユーザー ID が表示されます。

ユーザー記述

そのグループのメンバーである各ユーザーの記述が表示されます。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起ると、「グループ項目の処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

グループ・エントリーの追加

「グループ項目の処理」パネルで **1** を選択すると、図 45 に示す「グループ項目の追加」パネルが表示されます。このパネルで、ユーザー・グループのメンバーを追加することができます。

グループ項目の追加

☒☒☒ ☒☒☒-☒☒☒ : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー ID _____ 名前, リストは F4キー

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 45. 「グループ項目の追加」パネル

パネルの定義

グループ

ユーザーが所属することになるユーザー・グループの名前が表示されます。

ユーザー ID

ユーザー・グループに追加したいユーザーの名前を入力します。

機能キーの定義

実行キー

指定されたユーザーをユーザー・グループに追加します。

グループ・エントリーの削除

「グループ項目の処理」パネルで **4** を選択すると、61 ページの図 46 に示すパネルが表示され、ユーザー・グループから削除したいユーザーが示されます。実行キーを押してそのエントリーの削除の実行を了解するか、または F12 キーを押して要求を取り消すことができます。

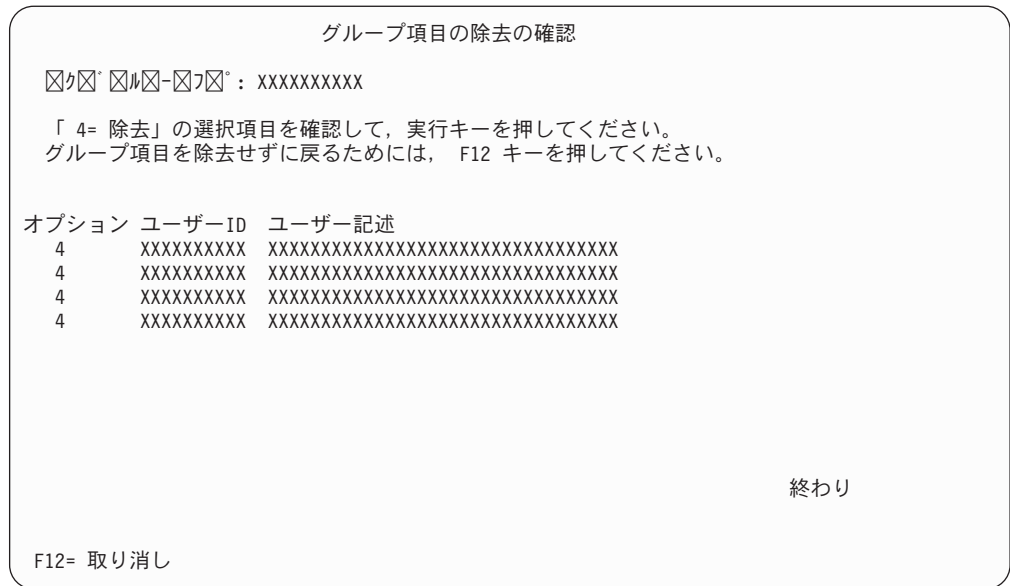


図 46. 「グループ項目の除去の確認」 パネル

アクセス・リストの処理

アクセス・リストを使用すると、ユーザーまたはユーザー・グループが以下のものに対して実行できるアクションを指定することができます。

- 索引クラス
- ワーク・バスケット
- プロセス

アクセス・リストには、ユーザー ID (またはユーザー・グループ) とそのユーザー ID (またはユーザー・グループ) に関連付けられた特権セットを定義します。

「プロファイル保守」メニューで **4** を選択すると、62 ページの図 47 に示すパネルが表示されます。

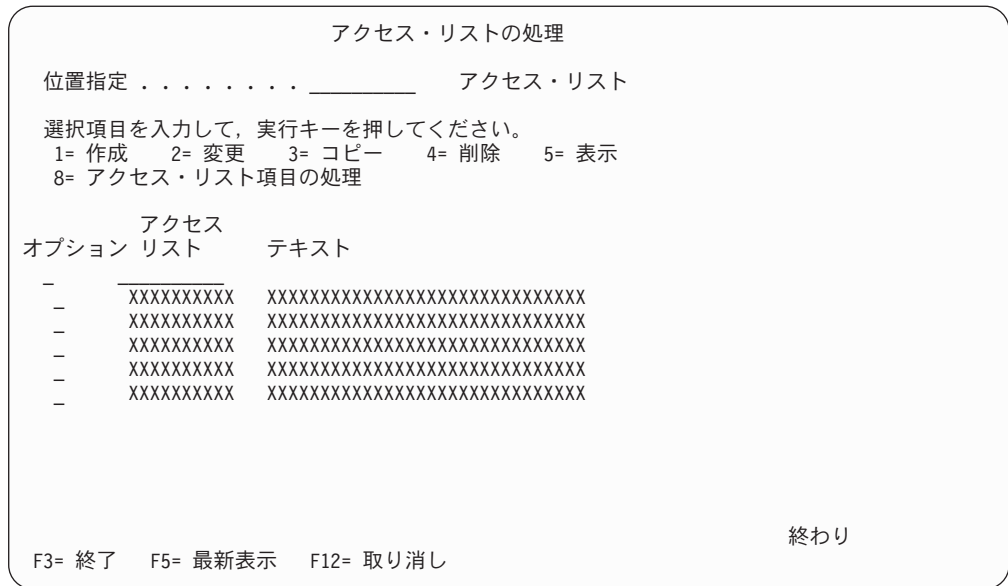


図 47. 「アクセス・リストの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のアクセス・リストの名前を入力し、実行キーを押します。入力したアクセス・リストが入ったパネルが再び表示されます。1 つの文字またはストリングの一部しか入力しなかった場合や存在しないアクセス・リスト名を入力した場合は、その文字またはストリングに最も近い名前のアクセス・リストがパネルに表示されます。

1=作成

新しいアクセス・リストを作成する場合は、このオプションを選択してください。63 ページの図 48 に示すパネルが表示されます。

2=変更

変更したいアクセス・リストの横に **2** を入力してください。64 ページの図 49 に示すパネルが表示されます。このパネルで、アクセス・リストのテキスト記述を変更することができます。

3=コピー

コピーしたいアクセス・リストの横に **3** を入力してください。これによって、既存のアクセス・リスト定義を新しいアクセス・リスト定義にコピーすることができます。65 ページの図 50 に示すパネルが表示されます。

4=削除

削除したいアクセス・リストの横に **4** を入力してください。65 ページの図 51 に示すパネルが表示されます。このパネルで要求の実行を了解するか、または要求を取り消すことができます。複数の項目の横に **4** を入力した場合、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示 表示したいアクセス・リストの横に **5** を入力してください。66 ページの図 52 に示すパネルが表示されます。

8=アクセス・リスト項目の処理 エントリーを処理したいアクセス・リストの横に **8** を入力してください。67 ページの図 53 に示すパネルが表示されます。このパネルで、アクセス・リストのエントリーを追加したり、削除したりすることができます。

アクセス・リスト アクセス・リスト名のリストが表示されます。

テキスト アクセス・リストの記述が表示されます。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起これば、「アクセス・リストの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー 選択内容を処理します。

アクセス・リストの作成

「アクセス・リストの処理」パネルで **1** を選択すると、図 48 に示す「アクセス・リストの作成」パネルが表示されます。このパネルで、新しいアクセス・リストを作成することができます。

アクセス・リストの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

アクセス・リスト _____ 名前

テキスト _____

F3= 終了 F12= 取り消し

図 48. 「アクセス・リストの作成」パネル

パネルの定義

アクセス・リスト	固有のアクセス・リスト名 (1 ~ 10 文字) を入力します。
テキスト	アクセス・リストの記述を入力します。このフィールドは情報用であり、アクセス・リストの内容を記述します。
機能キーの定義	
実行キー	アクセス・リスト定義を保管します。

アクセス・リストの変更

「アクセス・リストの処理」パネルで **2** を選択すると、図 49 に示すパネルが表示され、既存のアクセス・リストのテキスト記述を変更することができます。

この画面のフィールドの説明については、63 ページの『アクセス・リストの作成』を参照してください。

アクセス・リストの変更

アクセス・リスト : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

F3= 終了 F12= 取り消し

図 49. 「アクセス・リストの変更」パネル

アクセス・リストのコピー

「アクセス・リストの処理」パネルで **3** を選択すると、65 ページの図 50 に示すパネルが表示され、既存のアクセス・リストをコピーすることができます。

この画面のフィールドの説明については、63 ページの『アクセス・リストの作成』を参照してください。

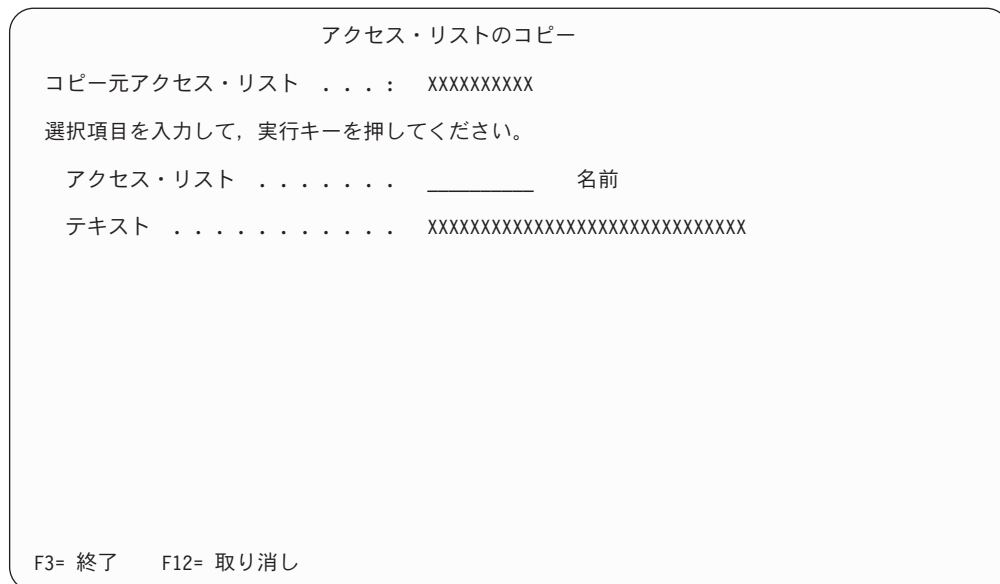


図 50. 「アクセス・リストのコピー」パネル

アクセス・リストの削除

「アクセス・リストの処理」パネルで **4** を選択すると、図 51 に示すパネルが表示され、削除したいアクセス・リストが示されます。実行キーを押してアクセス・リストの削除を確認するか、または F12 (取消) キーを押して要求を取り消すことができます。

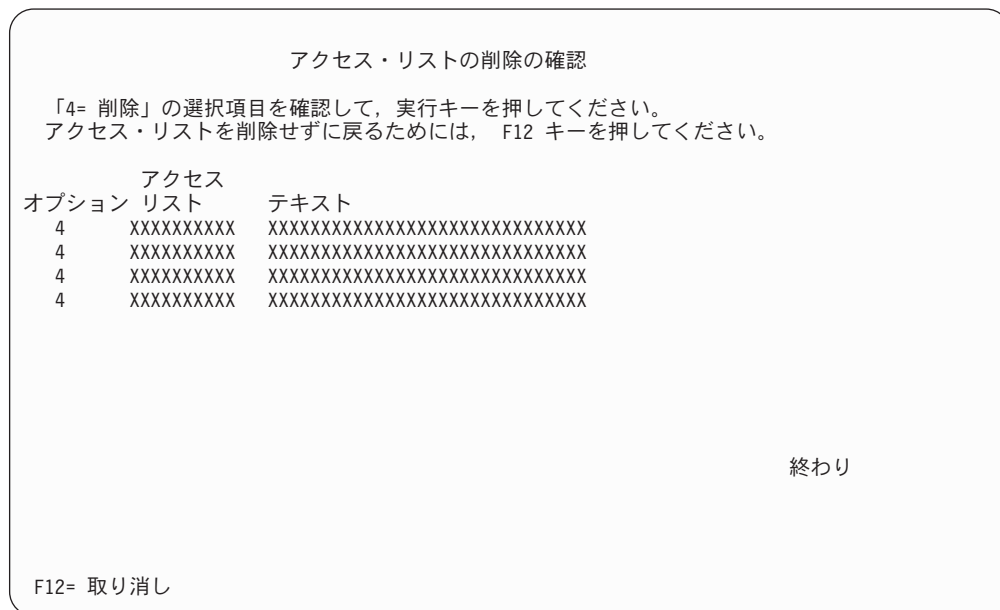


図 51. 「アクセス・リストの削除の確認」パネル

アクセス・リストの表示

「アクセス・リストの処理」パネルで **5** を選択すると、図 52 に示すパネルが表示されます。このパネルには、現行のアクセス・リスト定義が表示されます。

この画面のフィールドの説明については、63 ページの『アクセス・リストの作成』を参照してください。

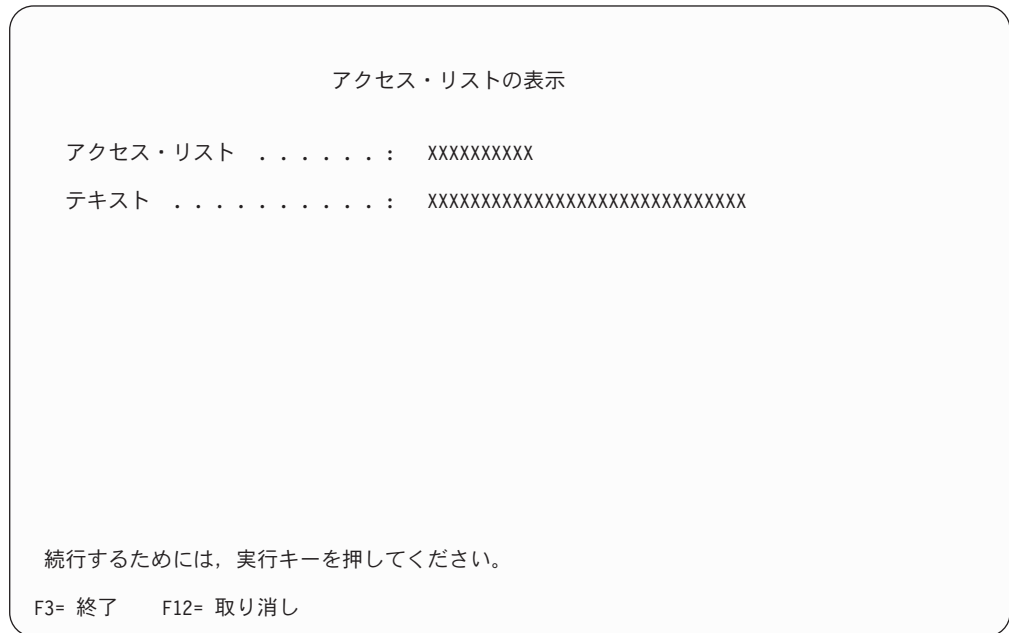


図 52. 「アクセス・リストの表示」パネル

アクセス・リスト・エントリーの処理

「アクセス・リストの処理」パネルで **8** を選択すると、67 ページの図 53 に示すパネルが表示されます。このパネルで、アクセス・リストのエントリーの追加、変更、コピー、削除、および表示を実行できます。

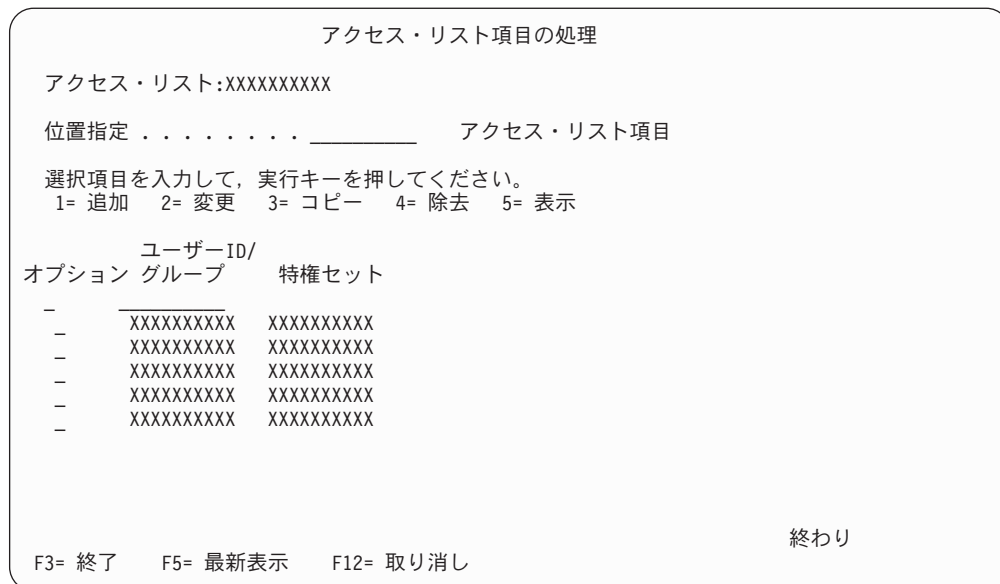


図 53. 「アクセス・リスト項目の処理」パネル

パネルの定義

アクセス・リスト

エントリーが定義されているアクセス・リストの名前が表示されます。

位置指定

スクロール先のアクセス・リスト・エントリーの名前を入力し、実行キーを押します。入力したエントリーが入ったパネルが再び表示されます。1 つの文字またはストリングの一部しか入力しなかった場合や存在しないエントリー名を入力した場合は、その文字またはストリングに最も近いアクセス・リスト・エントリーがパネルに表示されます。

1=追加

アクセス・リストにユーザー（またはユーザー・グループ）および関連する特権セットを追加する場合は、このオプションを選択してください。68 ページの図 54 に示すパネルが表示されます。

2=変更

変更したいエントリーの横に **2** を入力してください。69 ページの図 55 に示すパネルが表示されます。このパネルで、そのユーザー（またはユーザー・グループ）に関連する特権セットを変更することができます。

3=コピー

コピーしたいエントリーの横に **3** を入力してください。70 ページの図 56 に示すパネルが表示されます。このパネルで、既存のエントリー定義をコピーして新しいエントリーを作成することができます。

4=除去

削除したいエントリーの横に **4** を入力してください。71 ページの図 57 に示すパネルが表示されます。このパネルで要求の実行を了解するか、または要求を取り消すことができます。複数の項目の横に

4 を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

エントリー定義を表示したいエントリーの横に **5** を入力してください。71 ページの図 58 に示すパネルが表示されます。

ユーザー ID/グループ

アクセス・リストに定義されているユーザーおよびユーザー・グループのリストが表示されます。

テキスト

個々のユーザーおよびユーザー・グループの記述が表示されます。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起こると、「アクセス・リスト項目」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

アクセス・リスト・エントリーの追加

「アクセス・リスト項目の処理」パネルで **1** を選択すると、図 54 に示す「アクセス・リスト項目の追加」パネルが表示されます。このパネルで、アクセス・リストにユーザー（またはユーザー・グループ）および関連する特権セットを追加することができます。

アクセス・リスト項目の追加

アクセス・リスト:XXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー ID _____	名前, リストは F4キー
- あるいは -	
グループ _____	名前, リストは F4キー
特権セット _____	名前, リストは F4キー

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 54. 「アクセス・リスト項目の追加」パネル

パネルの定義

アクセス・リスト	エントリーを追加するアクセス・リストの名前が表示されます。
ユーザー ID	アクセス・リストに追加したいユーザー ID の名前を入力します。
グループ	アクセス・リストに追加したいユーザー・グループの名前を入力します。
特権セット	指定されたユーザー ID またはユーザー・グループに関連付けたい特権セットの名前を入力します。この特権セットにより、一般特権では付与されていない索引クラス、ワーク・バスケット、またはプロセスの特権をユーザーに付与することができます。
機能キーの定義	
実行キー	アクセス・リストにエントリーを追加します。

アクセス・リスト・エントリーの変更

「アクセス・リスト項目の処理」パネルで **2** を選択すると、図 55 に示すパネルが表示されます。このパネルで、アクセス・リストに定義されているユーザーまたはユーザー・グループに関連する特権セットを変更することができます。

この画面のフィールドの説明については、68 ページの『アクセス・リスト・エントリーの追加』を参照してください。

アクセス・リスト項目の変更

アクセス・リスト:XXXXXXXX

ユーザー ID/ グループ : XXXXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

特権セット XXXXXXXXXXX 名前, リストは F4キー

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 55. 「アクセス・リスト項目の変更」パネル

アクセス・リスト・エントリーのコピー

「アクセス・リスト項目の処理」パネルで **3** を選択すると、図 56 に示すパネルが表示されます。このパネルで、アクセス・リスト内の既存のエントリーをコピーして、新しいエントリーを作成することができます。

この画面のフィールドの説明については、68 ページの『アクセス・リスト・エントリーの追加』を参照してください。

アクセス・リスト項目のコピー

アクセス・リスト:XXXXXXXX

コピー元ユーザー ID/ グループ . . : XXXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー ID _____	名前, リストは F4キー
- あるいは -	
グループ _____	名前, リストは F4キー
特権セット XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 56. 「アクセス・リスト項目のコピー」パネル

アクセス・リスト・エントリーの削除

「アクセス・リスト項目の処理」パネルで **4** を選択すると、71 ページの図 57 に示すパネルが表示され、アクセス・リストから削除したいエントリーが示されます。実行キーを押してこのエントリーの削除を確認するか、F12 (取消) キーを押して要求を取り消すことができます。

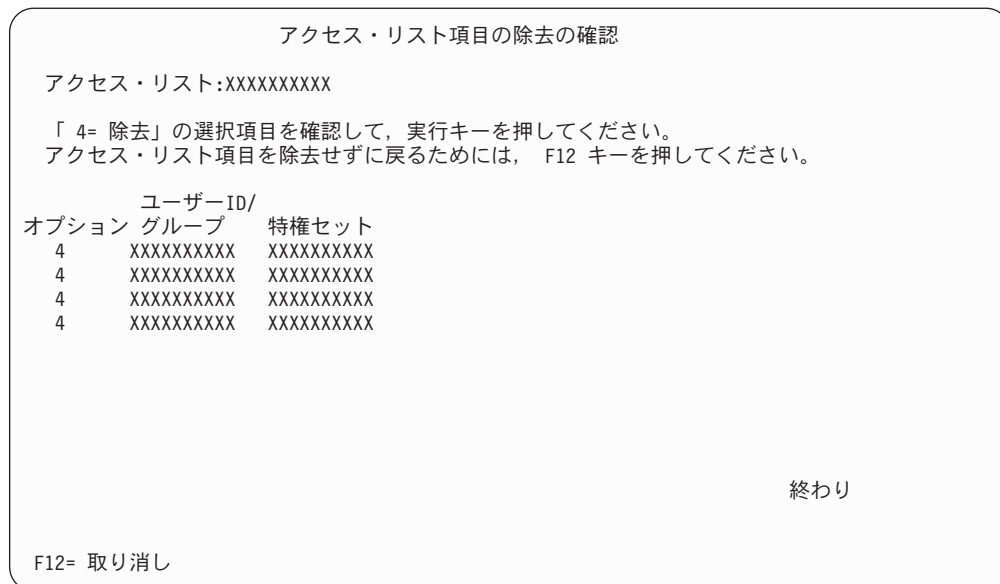


図 57. 「グループ項目の削除」パネル

アクセス・リスト・エントリーの表示

「アクセス・リスト項目の処理」パネルで **5** を選択すると、図 58 に示すパネルが表示されます。

この画面のフィールドの説明については、68 ページの『アクセス・リスト・エントリーの追加』を参照してください。

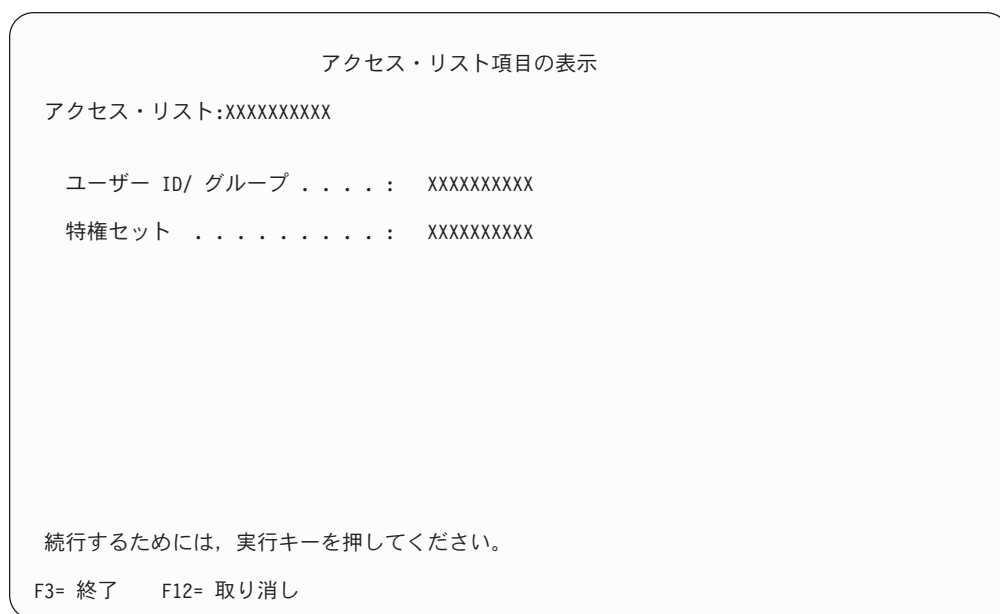


図 58. 「アクセス・リスト項目の表示」パネル

ユーザー・プロファイルの処理

「プロファイル保守」メニューで **2** を選択すると、図 59 に示すパネルが表示されます。

ユーザー・プロファイルの処理

位置指定 _____ ユーザー ID

選択項目を入力して、実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 5= 表示

オプション	ユーザーID	ユーザー記述
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
-	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 59. 「ユーザー・プロファイルの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のユーザー ID の名前を入力し、実行キーを押します。入力したユーザー ID が入ったパネルが再び表示されます。1 つの文字、ストリングの一部、または存在しないユーザー ID を入力すると、入力した文字やストリングに最も近いユーザー ID がパネルに表示されます。

1=作成

新しいユーザー ID を作成する場合はこのオプションを選択してください。73 ページの図 60 に示す「ユーザー・プロファイルの作成」パネルが表示されます。

2=変更

変更したいユーザー ID の横に **2** を入力してください。75 ページの図 61 に示す「ユーザー・プロファイルの変更」パネルが表示され、ユーザー・プロファイル定義を変更することができます。

3=コピー

コピーしたいユーザー ID の横に **3** を入力してください。これによって、既存のユーザー・プロファイル定義を新しいユーザー・プロファイル定義にコピーすることができます。75 ページの図 62 に示す「ユーザー・プロファイルのコピー」パネルが表示され、既存のユーザー・プロファイル定義を変更して新しいユーザー・プロファイルを作成することができます。

4=削除

削除したいユーザー・プロファイルの横に **4** を入力してください。76 ページの図 63 に示すパネルが表示されます。このパネルで削除の実行を理解するか、または要求を取り消すことができます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

ユーザー・プロファイル定義を表示したいユーザー ID の横に **5** を入力してください。76 ページの図 64 に示された「ユーザー・プロファイルの表示」パネルが表示されます。

ユーザー ID

ユーザー ID のリストを表示します。

ユーザー記述

ユーザー ID に関連付けられた 1 ~ 32 文字の英数字の名前。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起これば、「ユーザー・プロファイルの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

実行キー

選択内容を処理します。

ユーザー・プロファイルの作成

「ユーザー・プロファイルの処理」パネルから **1** を選択すると、図 60 に示されたパネルが表示されます。

ユーザー・プロファイルの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー ID	_____	名前
ユーザー記述	_____	
特権セット	_____	名前, リストは F4キー
保管オプション:		
光ディスクからの		
検索方式	1	1=DASD へ検索 2= 光ディスクから処理 3= コレクションより判別
初期サーバー ID	*ANY	*ANY, リストは F4

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 60. 「ユーザー・プロファイルの作成」パネル

パネルの定義

ユーザー ID

長さが 10 文字以内の固有のユーザー ID を指定してください。

ユーザー記述

ユーザーの名前を 1 ~ 30 文字で入力してください

い。大文字または小文字を使用することができます。このフィールドはオプションです。

特権セット

特権セットの 1 ~ 10 文字の英数字名を入力します。このフィールドは必須です。F4 を押して既存の特権セットのリストから選択することができます。

保管オプション

光ディスクからの検索方式

光ディスクに保管されているワークステーション文書に表示または印刷するのに用いられる方式を表す値を指定します。使用できる方式は次のとおりです。

1=DASD へ検索

文書を DASD にコピーして、DASD から文書を表示または印刷する場合。文書は 1 日間、DASD に残っています。

2=光ディスクから処理

DASD に保管せずに、光ディスクから直接、文書を表示または印刷する場合。

3=コレクションより判別

コレクションで指定された検索方式を使用する場合。

各方式の利点と欠点については、83 ページの『光ディスクからの文書の検索』を参照してください。この項では、文書を光ディスクから直接検索する際の要件についても説明します。

初期サーバー ID

このユーザーがシステムに入力した文書を保管する先のサーバーの 1 文字の英数字 ID を指定します。使用可能な任意のシステム ID に文書を保管する場合は、***ANY** を指定することができます。F4 を押して、サーバー ID のリストを表示し、そこから選択することができます。

機能キーの定義

実行キー

ユーザー・プロファイルを作成します。

ユーザー・プロファイルの変更

「ユーザー・プロファイルの処理」パネルから **2** を選択すると、図 61 に示されたパネルが表示されます。

ユーザー・プロフィールの変更

ユーザー ID : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー記述 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 特権セット XXXXXXXXX 名前, リストは F4キー
 保管オプション :
 光ディスクからの
 検索方式 X 1=DASD へ検索
 2= 光ディスクから処理
 3= コレクションにより判別
 *ANY, リストは F4キー

初期サーバー ID XXXX

F3= 終了 F4= F12= 取り消し

図 61. 「ユーザー・プロフィールの変更」パネル

ユーザー ID のコピー

「ユーザー・プロフィールの処理」パネルから **3** を選択すると、図 62 に示されたパネルが表示されます。

ユーザー・プロフィールのコピー

コピー元ユーザー ID : XXXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ユーザー ID _____ 名前
 ユーザー記述 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 特権セット XXXXXXXXX 名前, リストは F4キー
 保管オプション :
 光ディスクからの
 検索方式 X 1=DASD へ検索
 2=Process from optical
 3= コレクションにより判別
 *ANY, リストは F4キー

初期サーバー ID XXXX

F3 終了 F4 プロンプト F12 取り消

図 62. 「ユーザー・プロフィールのコピー」パネル

ユーザー・プロフィールの削除

「ユーザー・プロフィールの処理」パネルから **4** を選択すると、76 ページの図 63 に示されたパネルが表示されます。実行キーを押してユーザー・プロフィールの削除を確認するか、または F12 (取消) キーを押して要求を取り消すことができます。

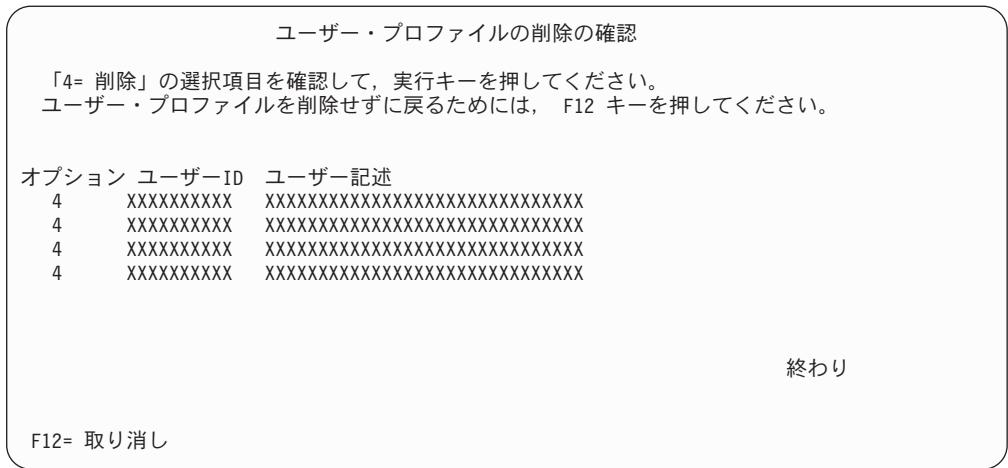


図 63. 「ユーザー・プロファイルの削除の確認」パネル

ユーザー・プロファイルの表示

「ユーザー・プロファイルの処理」パネルから **5** を選択すると、図 64 に示されたパネルが表示されます。

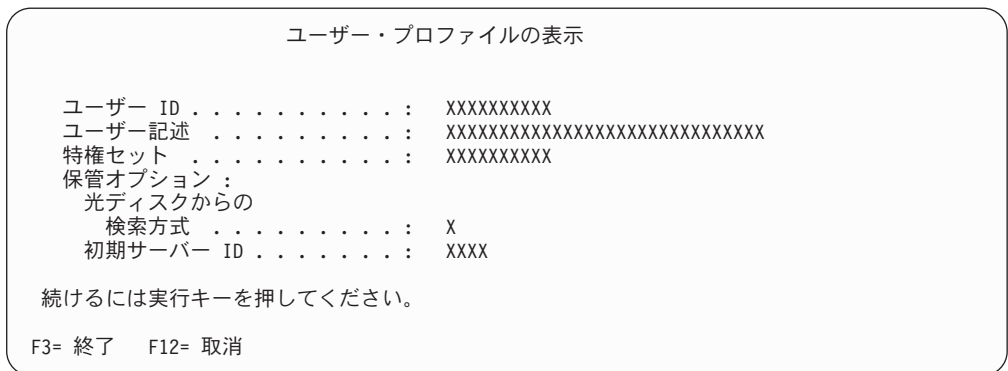


図 64. 「ユーザー・プロファイルの表示」パネル

第 5 章 ストレージ管理

DASD の管理

Content Manager for iSeries は、DASD のストレージ・スペースの管理をサポートするために、iSeries オブジェクト・サーバーを使用するストレージ分散機能を提供します。Content Manager for iSeries のプロファイルを使用すれば、文書がシステムに入力されたときにその文書を保管するオブジェクト・サーバーを指定することができます。

この章では以下の用語を使用します。

基本サーバーまたはローカル・サーバー

Content Manager for iSeries のライブラリーが入っているサーバーを指します。このサーバーは、クライアント・アプリケーションに対してサーバー・サポートを提供します。また、オブジェクトのストレージもサポートします。このようなサーバーのことをライブラリー・サーバーともいいます。

2 次サーバーまたはリモート・サーバー

ローカル・サーバー以外のサーバーであり、オブジェクトのストレージ用として厳密に使用されます。つまり、Content Manager for iSeries のライブラリー情報を格納しないリモート・サーバーを指します。このようなサーバーのことをオブジェクト・サーバーともいいます。

未配布保管要求

未配布保管要求とは、保管すべき文書が記憶クラスおよび光ディスク・システム ID と関連付けられていないために処理されない、光ディスクの保管要求のことです。未配布保管要求の詳細については、79 ページの『光ディスクの管理』を参照してください。

ラウンドロビン

文書がストレージ用に DASD に配布される方式。文書は、サーバーに対して定義したそれぞれのオブジェクト・ディレクトリーに 1 つずつ配布されます。

以下の節では、DASD を管理するために Content Manager for iSeries のストレージ分散機能を使用できるようにするさまざまな方法について説明します。

DASD への文書の保管

ユーザーが Content Manager for iSeries に文書を入力すると、その文書は iSeries の DASD に保管されます。システムに入力された文書は、スキャンまたはインポートを行うユーザーのユーザー・プロファイル内で指定したオブジェクト・サーバーに保管することができます。

ユーザー・プロファイルを使用して文書を DASD に保管する場合は、「初期サーバー ID」フィールドの値によって、使用するオブジェクト・サーバーが決まります。

オブジェクト・サーバーの名前を指定するか、あるいは使用可能な任意のオブジェクト・サーバーに文書を保管できることを指示する、*ANY を指定することができます。

ユーザーが文書をシステムに入力するとき使用されるオブジェクト・サーバーを指定できるので、文書を DASD に保管するときの柔軟性がさらに増します。たとえば、ユーザー A は基本サーバーが設置されているニューヨークの本社に勤務していると仮定します。ユーザー B は、2 次サーバーが設置されているサンフランシスコの支社に勤務していると仮定します。この場合、次のように指定するユーザー・プロファイルを設定アップすることができます。

- ユーザー A は、ニューヨークの基本サーバーで文書をスキャンし、保管する。
- ユーザー B は、基本システムにログオンして文書をスキャンするが、サンフランシスコのリモート DASD 上に文書を保管する。この場合に、ローカル・サーバーに文書を保管すると、ユーザー B は、文書が基本システムに保管された場合よりも速く、しかも低コストで文書にアクセスすることができます。

スキャンの時点で特定のサーバーに文書を配布できるので、自身の環境について定義した iSeries のディレクトリーに保管される文書の数のバランスをよくすることができます。たとえば、F、G、および H というサーバーを定義して、これらのプロセッサに対して次のようなディレクトリーを作成したとします。

SERVER ID	DIRECTORY
F	FOLDER01/SUBDIREC.001
F	FOLDER02/SUBDIREC.002
F	FOLDER03/SUBDIREC.003
G	FOLDER01/SUBDIREC.001
G	FOLDER02/SUBDIREC.002
H	FOLDER01/SUBDIREC.001

また、ユーザー・プロファイルを次のようにセットアップするとします。

- F をユーザー A の初期サーバー ID として指定すると、ユーザー A がシステムにスキャンして入れた文書は、そのプロセッサに定義した 3 つのディレクトリーにラウンドロビン方式で保管されます。
- G をユーザー B の初期サーバー ID として指定すると、ユーザー B がシステムにスキャンして入れた文書は、そのプロセッサに定義した 2 つのディレクトリーにラウンドロビン方式で保管されます。
- *ALL をユーザー C の初期サーバー ID として指定すると、ユーザー C がシステムにスキャンして入れた文書は、オブジェクト・サーバー F、G、および H に定義した 6 つの iSeries ディレクトリーのすべてにラウンドロビン方式で保管されます。

光ディスクからの文書のバッチ検索

光ディスク・システムからバッチで取り出された文書を特定のオブジェクト・サーバーに保管するように指定することができます。(直接接続の 3995 光ディスクの場合は例外で、この場合は、文書は 3995 が接続されている iSeries に常に検索されます。) 検索した文書を特定の iSeries オブジェクト・サーバーに送るときは、光ディスク・システム ID プロファイルに次のいずれか 1 つを指定してください。

- 特定のサーバーの名前。
- *ANY - 使用できるいずれのサーバーにも文書を保管できることを示します。

- *USER - ユーザー・プロファイルで指定した値が使用されることを示します。

たとえば、ニューヨークのユーザー A が、ニューヨークにある LAN 接続の光ディスク・システム ID X に文書を保管するとします。以下のようにすれば、ユーザー A がニューヨークのサーバー ID F に文書を検索し、ユーザー B がサンフランシスコのサーバー ID G に文書を検索することができるようになります。

1. 光ディスク・システム X の光ディスク・システム ID プロファイル内の「サーバー ID」フィールドで、*USER を指定します。
2. ユーザー A のユーザー・プロファイル内の「初期サーバー ID」フィールドに F を指定します。
3. ユーザー B のユーザー・プロファイル内の「初期サーバー ID」フィールドに G を指定します。

光ディスク・システム ID プロファイルを定義する手順については、97 ページの『光ディスク・システムの定義』を参照してください。

光ディスクの管理

光ディスク・ストレージを使用すると、大量の情報を少ないスペースに保管することができます。光ディスクは、他のタイプのストレージ・メディアに代って、低いコストで文書を保存する方法を提供します。現在の処理に必要なない文書は、DASD ストレージから光ディスク・ストレージに移動することができます。再び必要になったときは、光ディスク・ストレージから DASD に移すことができます。

Content Manager for iSeries は、それ自体に保管される文書の管理に役立つ、広範な光ディスク・ストレージ・システムをサポートしています。次に、サポートされる各種の光ディスク・システムの概要について説明します。

光ディスク・ストレージ・システム

下記のいずれかの方法で、光ディスク・システムまたはライブラリーを iSeries に接続することができます。

直接接続の光ディスク・システムまたはライブラリー

光ディスク・システムまたはライブラリーは、直接 iSeries プロセッサに接続されます。

LAN 接続の光ディスク・システムまたはライブラリー

IBM トークンリング・ネットワークまたはサポートされているその他の通信ネットワークを使用して、光ディスク・システムまたはライブラリーを、それに関連した光ディスク・コントローラーと一緒に、iSeries システムに接続します。

Content Manager for iSeries は、多機能の光ディスク装置をサポートするばかりでなく、消去可能な 1 度だけの書き込み/読み取り複数回 (WORM) 光ディスク技術を提供する光ディスク装置もサポートします。多機能装置は、WORM ディスクと消去可能ディスクの両方を同じライブラリー内でサポートします。Content Manager for iSeries は、消去可能なボリュームを WORM としてサポートします。

光ディスク・ストレージ方式の設計

光ディスク・ストレージ・ソリューションを実施する前に、使用可能な光ディスク・システムのタイプだけでなく、業務におけるストレージと検索の必要事項についても考えておかなければなりません。たとえば、ユーザーが索引クラスのすべての内容を毎日処理するかどうか、会社はさまざまなタイプの文書をさまざまな期間にわたって維持する必要があるかどうかなどです。会社が文書を処理する方式を分析したり、Content Manager for iSeries が提供する光ディスク・ストレージ・オプションを理解すると、ニーズに最も合った方法を選択する上で役に立ちます。

Content Manager for iSeries は、光ディスクに文書を保管する方法をいくつか提供します。これらの方法では、文書を論理的にまとめてグループ化できるので、光ディスク・ストレージをよりよく管理することができます。以下のストレージ方式から選択することができます。

コレクション

文書は、コレクションにもとづいて、光ディスクに保管されます。索引クラスのプロファイルが、文書およびノート・オブジェクトに関するデフォルトのコレクションおよび代替のコレクションの定義を行います。オブジェクトが索引クラスに割り当てられているときは、索引クラスに対して定義されたコレクションを用いて、そのオブジェクトの保管場所が決められます。コレクションは、オブジェクトの保管特性を定義します。

システム割り当て

文書には、記憶クラスや光ディスク・システム ID は割り当てられません。文書を光ディスクに保管できるようにするには、光ディスク配布プロセスを開始してその文書に記憶クラスと光ディスク・システム ID を割り当てなければなりません。

以下の項では、それぞれのストレージ方式を使用する場合の状況について説明します。

コレクションによる文書の保管

会社が、さまざまなタイプの文書をさまざまな期間にわたって維持する必要がある場合は、コレクションにもとづいて文書を光ディスクに保管することを考慮します。ユーザーが Content Manager for iSeries に文書を入力すると、システムは、記憶クラスとコレクションに関連する光ディスク・システム ID にもとづいて、文書を光ディスクに保管します。同じコレクションの文書はすべて、1 つの光ディスク・プラッターに保管されます。これにより、たとえば保存期間が 3 年間のすべてのトラフィック違反を 1 つの光ディスク・プラッターに保管し、保存期間がそれより長い重大な違反はすべて別の光ディスク・プラッターに保管することができます。このように文書を論理的にグループ化すれば、光ディスク・プラッターの管理が容易になります。会社用に定義したコレクションの数に応じて、1 つのプラッターにコレクションを 1 つだけ保管するのではなく、関連するいくつかのコレクションをプラッター上でグループ化することもできます。

システム割り当てによる保管

文書の配布を使用可能なすべての光ディスク・プラッターに循環するようにしたい場合は、システム割り当てによるストレージ方式を選択してください。光ディスク

配布要求を受け取ることができる光ディスクと、1つのディスクに一度に配布できる文書の数とを指定します。ユーザーが文書を Content Manager for iSeries に入力すると、システムは、光ディスク記憶要求を生成します。この要求は記憶クラスと光ディスク・システム ID に関連付けられるまで配布できないため、これは未配布保管要求です。光ディスク配布プロセスを開始して、次に使用可能な記憶クラスと光ディスク・システム ID に保管要求を配布する必要があります。光ディスク配布プロセスは、記憶クラス・プロファイルに指定した情報を使用して、使用可能な光ディスクと、各ディスクに配布できる文書の数とを判別します。

索引クラス NOINDEX についての考慮事項

Content Manager for iSeries では、まずすべての文書を索引クラス NOINDEX に設定します。他のすべての索引クラス同様、NOINDEX にもコレクションに関連付けます。このコレクションの定義をもとに、この索引クラスが保管方式に合うかどうかを調べてください。

索引クラス NOINDEX で定義されたコレクションをもとに、DASD および光ディスクによる文書の保管特性を設定します。項目に付けられた索引を変更した場合は、新しい索引クラスのコレクションをもとに保管特性を設定します。その場合、NOINDEX コレクションを DASD 上に保管する日数を短くしてください。また、文書オブジェクトに付けられた索引が変更されるまで、文書オブジェクトが光ディスクに保管されないようにしてください。そのためには、NOINDEX コレクションの定義時に、未配布保管要求が生成されるか、または「光ディスク記憶の活動化」が N と指定された記憶クラスの保管要求が生成されるように指定してください。

光ディスク記憶方式の実施

Content Manager for iSeries は、いくつかの Content Manager for iSeries のプロファイルで指定された情報を使用して、文書を光ディスクに保管します。重要なプロファイルは、記憶クラス・プロファイルと光ディスク・システム・プロファイルです。これらのプロファイルは、固有の記憶クラスと光ディスク・システム ID の組み合わせを索引クラスまたはコレクションと関連付けます。この記憶クラスと光ディスク・システム ID に関連付けられた文書はすべて、システムに入力されると、同じ光ディスク・ボリュームに保管されます。

光ディスクに文書を保管する方法を決めたら、選択した保管方式の実施方法について説明している項をお読みください。各項には、作成または更新しなければならないプロファイルの概要と、各プロファイルで選択しなければならない具体的な設定値が記載されています。

コレクションによる保管

コレクションにもとづいて光ディスクに文書を保管するときは、次の手順に従ってください。

1. 光ディスク・システム・プロファイルで、次の操作を行ってください。
 - a. 「光システム ID」フィールドに、このコレクションの文書が保管される光ディスク・システムの名前を入力します。
 - b. 「光ディスク記憶の活動化」フィールドで、N を指定します。
2. 記憶クラス・プロファイルで、次の操作を行ってください。

- a. 「記憶クラス」フィールドに、このコレクションと関連付けたい記憶クラスの名前を入力します。
 - b. 「光システム ID」フィールドに、上記のステップ 1a (81 ページ) で指定した光ディスク・システム ID の名前を入力します。
 - c. 「光ディスク記憶の活動化」フィールドで、**N** を指定します。
 - d. 「記憶要求分配の活動化」フィールドで、**N** を指定します。
3. コレクション・プロファイルで、次の操作を行ってください。
 - a. 「光ディスクへの記憶」フィールドで、**Y** を指定します。
 - b. 「光ディスク記憶方式」フィールドで、**1** を指定します。
 - c. 「記憶クラス」フィールドに、ステップ 2a で指定した記憶クラスの名前を入力します。
 - d. 「光システム ID」フィールドに、上記のステップ 1a (81 ページ) で指定した光ディスク・システム ID の名前を入力します。
 4. 索引クラス・プロファイルで、次の操作を行ってください。
 - a. 「省略時のコレクション」フィールドでコレクション名を指定します。
 - b. また、「文書コレクション」、「ノート・コレクション」、および「活動記録コレクション」を入力することによって、文書、ノート、履歴の各オブジェクトの代替保管場所を指定することもできます。
 5. 光ディスクに文書を保管する準備ができれば、次の操作を行ってください。
 - a. 文書を保管する先の光ディスク・プラットフォームと関連付けられた、光ディスク・システム ID と記憶クラスのプロファイルの中で、「光ディスク記憶の活動化」フィールドを **Y** に変更します。
 - b. 光ディスク記憶プロセスを開始します。

システム割り当てによる保管

システムは、すべての使用可能な光ディスク・システムに、各光ディスク・システムに対して指定された量だけ文書を保管します。

この方式を用いて光ディスクに文書を保管するときは、次のような手順を行います。

1. 光ディスク・システム・プロファイルで、次の操作を行ってください。
 - a. 「光システム ID」フィールドに、文書を保管できる光ディスク・システムの名前を入力します。
 - b. 「光ディスク記憶の活動化」フィールドで、**Y** を指定します。
2. 記憶クラス・プロファイルで、次の操作を行ってください。
 - a. 「記憶クラス」フィールドに、作成したい記憶クラスの名前を入力します。
 - b. 「光システム ID」フィールドに、上記のステップ 1a で指定した光ディスク・システム ID の名前を入力します。
 - c. 「光ディスク記憶の活動化」フィールドで、**Y** を指定します。
 - d. 「記憶要求分配の活動化」フィールドで **Y** を指定します。
 - e. この記憶クラスに同時に配布できる文書の数を示す、1 ~ 999 の数字を入力します。
3. コレクション・プロファイルで、次の操作を行ってください。

- a. 「光ディスクへの記憶」フィールドで、**Y** を指定します。
 - b. 「光ディスク記憶方式」フィールドで、**2** を指定します。
 - c. 「記憶クラス」フィールドと「光システム ID」フィールドは、ブランクにしておきます。
4. 光ディスク配布プロセスを開始します。光ディスク配布プロセスによって、記憶クラスおよび光ディスク・システム ID と関連付けられていない文書が、上記の手順で作成された各記憶クラスおよび光ディスク・システム ID に配布されます。光ディスク配布プロセスは、各プロセッサに文書を配布するとき、上記のステップ 2e (82 ページ) で指定した文書の数を使用します。
 5. 光ディスク記憶プロセスを開始します。

光ディスクからの文書の検索

ユーザーが、直接接続の 3995 光ディスク・システムに保管されている文書の表示、またはワークステーションのプリンターでの文書の印刷を要求しているときは、文書は常に DASD にコピーされ、DASD から表示されます。しかし、ユーザーが LAN 接続の光ディスクに保管されている文書を表示または印刷するよう要求した場合は、文書を DASD にコピーし、DASD から表示または印刷するか、または光ディスク装置から直接、文書を処理するかを選択することができます。ユーザーがすべての文書を光ディスクから直接、表示し、印刷できるように、あるいは特定のタイプの文書だけを光ディスクから直接、表示し、印刷できるように、システムをセットアップすることができます。

LAN 接続の光ディスクに保管されている文書を処理する方法を決定する前に、それぞれの方式の長所と短所を考慮してください。

複数の光ディスク・ドライブ上の文書のバッチ検索

複数の光ディスク・ドライブからのバッチによる文書検索は、複数の光ディスク・ドライブに文書を保管することと似ています。基本的な相違は、光ディスクのバッチ検索要求が、ボリューム ID の 3 文字の接頭部にもとづいて処理される、ということです。

光ディスク・バッチ検索プロセスの開始時に「検索要求プログラムの数 (Number of retrieve requesters)」フィールドに指定する値は、特定のボリューム接頭部に対するバッチ検索要求を処理できる光ディスク・バッチ検索プログラムの数を示します。バッチ検索要求は、ボリューム ID の 3 文字の接頭部が固有の場合にのみ処理されます。バッチ検索要求が、ボリューム HA0001、HA0002、および HXX099 について、未解決であるとしめます。光ディスク・バッチ検索プロセスを開始するときに、「ドライブ数 -- バッチ検索 (Number of drives-batch retrieve)」に 3 を指定し、「検索要求プログラムの数 (Number of retrieve requesters)」に 1 を指定すると、最初の 2 つのプログラムは HA0001 および HXX099 のボリュームに対するバッチ検索要求を処理し、3 番目のプログラムは待機状態に入ります。ボリューム HA0002 に対するバッチ検索要求は、接頭部がボリューム HA0001 の接頭部と同じであるため、処理されません。HA0002 に対する要求は、ボリューム HA0001 に対する要求がすべて処理されてから、最初のプログラムによって処理されます。

複数の光ディスク・ドライブからバッチで文書を検索する場合は、以下の手順に従います。

1. 光ディスク・システム・プロファイルの中の、「ドライブ数 - バッチ検索 (Number of drives - batch retrieve)」フィールドに 1 より大きい数を指定します。
2. 光ディスク・バッチ検索プロセスを開始します。
3. 137 ページの図 115 に示された「光ディスク検索の開始 (Start Optical Retrieve)」パネル上の「検索要求プログラムの数 (Number of retrieve requesters)」フィールドで、開始するバッチ・プログラムの数を指定します。

光ディスクからのバッチ検索に関する詳細については、97 ページの『光ディスク・システムの定義』を参照してください。

LAN 接続の光ディスクからの文書の直接表示

LAN 接続の光ディスク装置から直接、要求を処理することの第一の利点は、文書が DASD にコピーされないので、DASD スペースが使用されないことです。DASD スペースの容量が気になる場合は、光ディスクから直接、文書を表示することもできます。さらに、文書を DASD にコピーしてから表示する場合よりも迅速にユーザーに表示されます。

以下は、光ディスクから文書を直接表示する際に関連する追加の考慮事項です。

- ユーザーが文書を複数回、表示または印刷する場合、その文書を光ディスクから再度検索しなければなりません。文書を DASD にコピーしておけば、その文書は 1 日間 DASD に残っています。そのため、それ以降のその文書に対する処理要求は、DASD から処理されるので、より迅速になります。
- LAN 接続の 3995 または 3431 光ディスクの場合は、ワークステーションのコントローラーに LAN サーバーをインストールし、文書の表示および印刷要求が出されるワークステーションに LAN リクエスターをインストールしなければなりません。
- 要求された文書が LAN 接続の 3995 または 3431 光ディスクに保管されていて、その光ディスク・プラッターが光ディスク・ライブラリーに装着されていない場合、Content Manager for iSeries はプラッター装着メッセージを出します。プラッター装着メッセージは、ライブラリーに入れる光ディスク・ボリューム ID を指定するので、便利です。

光ディスクからの文書の直接表示の準備

ユーザーが LAN 接続の光ディスクから文書を直接表示できるようにするには、いくつかの作業を行わなければなりません。

LAN 接続の 3995 または 3431:

1. LAN 接続の 3995 または 3431 のためのワークステーション・コントローラーに LAN サーバーをインストールします。このソフトウェアのインストールの詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: 計画とインストール*」を参照してください。
2. 文書の表示および印刷要求を出すワークステーションに LAN リクエスターをインストールします。ユーザーが LAN 接続の光ディスクから文書を直接、表示または印刷できるようにするために、LAN リクエスターを開始する必要もあります。このソフトウェアのインストールの詳細については、「*IBM Content Manager for iSeries: 計画とインストール*」を参照してください。

3. ユーザー・プロファイルの「光ディスクからの検索方式」フィールドに **2** を入力して、ユーザーが LAN 接続の 3995 または 3431 に保管されている文書を直接光ディスクから表示または印刷できることを指定します。あるいは、検索する文書のコレクション・プロファイルに指定されている検索方式を使用するために、**3** を入力します。
4. コレクション・プロファイルの「光ディスクからの検索方式」フィールドに **2** を入力して、LAN 接続の 3995 または 3431 に保管されているこのコレクションの文書を、光ディスクから直接表示または印刷できることを指定します。

表示のための DASD への文書のコピー

ユーザーに表示する前に文書を DASD にコピーしておく、次のような利点があります。

- 同じ日にその文書を表示または印刷する要求を発行したときには、文書が DASD にあるため速く処理されます。
- 処理できなかった対話式検索要求の代わりにバッチ検索要求を作成するよう、Content Manager for iSeries に指示できます。
- 要求された文書が LAN 接続の 3995 または 3431 光ディスクに保管されているのに、その文書が入っている光ディスク・プラッターが光ディスク・ライブラリーに装着されていない場合は、Content Manager for iSeries が、プラッター装着メッセージを出します。このメッセージでは、ライブラリーに入れるべき光ディスク・ボリューム ID が指定されます。

文書をワークステーションから直接、表示または印刷する前に DASD に文書をコピーすることの第一の欠点は、文書が DASD スペースを占めることです。文書は 1 日間、DASD に残っています。削除プロセスを開始して DASD から文書を除去しなければならないことに注意してください。

表示またはワークステーション印刷のために LAN 接続の 3995 または 3431 に保管されている文書を DASD にコピーするときは、次のいずれかの操作を行います。

- ユーザー・プロファイルの「光ディスクからの検索方式」フィールドに **1** を入力します。
- ユーザー・プロファイルの「光ディスクからの検索方式」フィールドに **3** を入力し、コレクション・プロファイルの「光ディスクからの検索方式」フィールドに **1** を入力します。

サーバーの定義

サーバー・プロファイルは、Content Manager for iSeries で使用できる iSeries 処理システムを定義するものです。構成内に 1 次プロセッサとそれぞれの 2 次 iSeries システムについてレコードを作成しなければなりません。

Content Manager for iSeries は、このプロファイルに指定した情報を使用して、2 次オブジェクト・サーバーに保管されている文書を検索します。ユーザーが 2 次オブジェクト・サーバーに保管されている文書の表示や印刷などの対話式検索要求を生成するアクションを行うと、システムはその文書を即時に検索しようとします。対話式検索要求を処理するためにバッチ・ジョブを開始する必要がある場合は、対話式検索ジョブが実行中であれば、その要求は即時に処理されます。対話式検索ジョ

ブが実行されていない場合、システムは対話式検索ジョブを開始するかどうかを判断します。最初に、システムはその文書が格納されている 2 次オブジェクト・サーバーと同じ ID を持つ光ディスク・システム・プロファイルを見つけようとします。一致するものが見つかった場合は、Content Manager for iSeries は、光ディスク・システム・プロファイルの「対話式検索の活動化」、「ジョブの番号」、および「待ち時間」フィールドで指定された情報にしたがって、対話式検索要求を処理します。(これらのフィールドの詳細については、100 ページの『光ディスク・システムの作成』を参照してください。) 光ディスク・システム ID が 2 次オブジェクト・サーバーと同じ ID をもっていない場合は、Content Manager for iSeries は、1 つの対話式検索ジョブを開始し、120 秒の待ち時間をデフォルトとします。

サーバーの処理

サーバーを処理するときは、「プロファイル保守」メニューで **9** を選択します。これで、図 65 に示されたパネルが表示されます。このパネルには、すでに Content Manager for iSeries に対して定義されているサーバー記述のリストがアルファベット順に表示されます。サーバーの項目の作成、コピー、削除、変更、および表示を行うことができます。

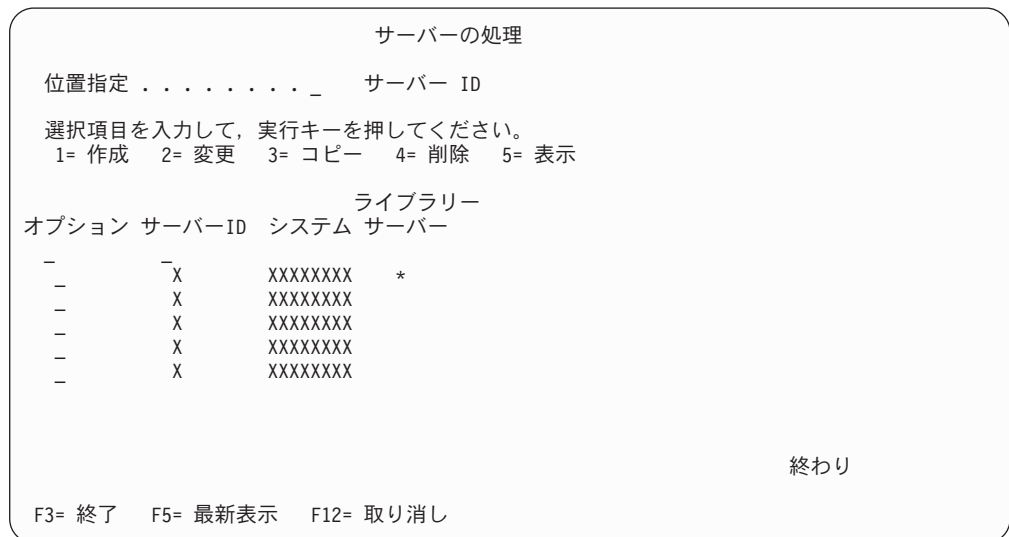


図 65. 「サーバーの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のサーバー ID の名前を入力し、実行キーを押します。入力したサーバー ID が入ったパネルが再び表示されます。存在しない文字を入力すると、入力した文字に最も近いサーバー ID がパネルに表示されます。

1=作成

87 ページの図 66 に示されたパネルが表示されます。これにより、新しいサーバー項目を作成することができます。

2=変更

変更したいサーバー項目の横に **2** を指定してください。これで、89 ページの図 68 に示されたパネルが表示されます。

3=コピー

コピーしたいサーバー項目の横に **3** を指定してください。これで、89 ページの図 70 に示されたパネルが表示されます。

4=削除

削除したいサーバー項目の横に **4** を指定してください。これで、90 ページの図 71 に示されたパネルが表示されます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

全定義を表示したいサーバー項目の横に **5** を入力してください。これで、91 ページの図 72 に示されたパネルが表示されます。このパネルでは表示されている情報を見ることはできますが、情報を入力することはできません。

オプション

処理したい項目の横にオプション番号を入力してください。

サーバー ID

すでに Content Manager for iSeries に対して定義されているサーバー ID の名前がアルファベット順に表示されます。

システム

サーバー ID と関連する iSeries の名前。

ライブラリー・サーバー

サーバーがライブラリー (1 次) サーバーかどうかを指定します。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

選択内容を処理します。

サーバー項目の作成

図 66 に、サーバー項目の作成に使用する初期パネルを示します。

新しいサーバー項目を作成するときは、86 ページの図 65 に示す「サーバーの処理」パネルでオプション **1** を指定します。1 次プロセッサのサーバー項目を作成してからでなければ、2 次プロセッサのサーバー項目を作成できないことに注意してください。

サーバー項目の作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ライブラリー・サーバー ID XXXXXXXX
システム名

F3= 終了 F12= 取り消し

図 66. 1 次プロセッサのための「サーバー項目の作成」パネル

パネルの定義

ライブラリー・サーバー ID

Content Manager for iSeries のライブラリー・サーバーとなる iSeries に関する 1 文字の ID を入力します。ライブラリー・サーバーには、1 つ以上のオブジェクト・サーバーに保管されたオブジェクトの索引情報が入っています。1 つのシステムにつき 1 つのライブラリーしかもつことができません。ライブラリー・サーバーは、オブジェクト・サーバーにすることもできます。この ID は、ワークステーションのネットワーク・ドライブに対応しているので、ワークステーションですでに定義されているドライブと競合する値を指定しないようにしてください。

システム名

iSeries システムに関連付けられているサーバーの名前を入力します。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

サーバー項目を作成します。

サーバー項目の作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オブジェクト・サーバー ID -
リモート・システム名 _____

F3= 終了 F12= 取り消し

図 67. 2 次プロセッサ用の「サーバー項目の作成」パネル

パネルの定義

オブジェクト・サーバー ID

Content Manager for iSeries 用のオブジェクト・サーバーとなる iSeries に関する 1 文字の ID を入力します。いずれかのオブジェクト・サーバーは、Content Manager for iSeries に入力されたオブジェクトを保管するために使用します。この ID は、ワークステーションのネットワーク・ドライブに対応しているので、ワークステーションですでに定義されているドライブと競合する値を指定しないようにしてください。

リモート・システム名

リモート・オブジェクト・サーバーに関連する iSeries の名前が入っています。この名前は、リモート iSeries ネットワーク属性からのローカル制御点の名前と同じです。

サーバー項目の変更

「サーバーの処理」パネルで既存のサーバーの横に **2** を入力すると、図 68 に示されたパネルが表示されます。この画面のフィールドの説明については、87 ページの『サーバー項目の作成』を参照してください。

サーバー項目の変更

サーバー ID : X

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

システム名 XXXXXXXX

F3= 終了 F12= 取り消し

図 68. 1 次プロセッサのための「サーバー項目の変更」パネル

サーバー項目の変更

サーバー ID : X

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

リモート・システム名 XXXXXXXX

F3= 終了 F12= 取り消し

図 69. 2 次プロセッサのための「サーバー項目の変更」パネル

サーバー項目のコピー

「サーバーの処理」パネルで既存のサーバーの横に **3** を入力すると、図 70 に示されたパネルが表示されます。この画面のフィールドの説明については、87 ページの『サーバー項目の作成』を参照してください。

サーバー項目のコピー

サーバー ID : X

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オブジェクト・サーバー ID
リモート・システム名 XXXXXXXX

F3= 終了 F12= 取り消し

図 70. 「サーバー項目のコピー」パネル

サーバー項目の削除

「サーバーの処理」パネルで既存のサーバーの横に **4** を入力すると、図 71 に示されたパネルが表示されます。以下のいずれかの条件が存在する場合は、サーバー項目を削除することはできません。

- サーバー ID が、iSeries オブジェクト・ディレクトリー・プロファイルで参照されている。まず、その iSeries オブジェクト・ディレクトリーを削除し、そのあとで、サーバー項目を削除する必要があります。
- 光ディスク・システム・プロファイル内で、このサーバーに対して直接接続の光ディスク装置が定義されている。まず、その光ディスク・システム・プロファイルを削除し、そのあとで、サーバー項目を削除しなければなりません。
- サーバー項目が 1 次プロセッサ用であるのに対して、2 次プロセッサを定義した。まず、その 2 次プロセッサのサーバー項目を削除し、そのあとで、2 次プロセッサのサーバー項目を削除しなければなりません。
- そのサーバー・プロファイルを別のユーザーが使用中である。その操作を、あとでもう一度行う必要があります。

サーバーの削除の確認

「4= 削除」の選択項目を確認して、実行キーを押してください。
サーバー項目を削除せずに戻するためには、 F12 キーを押してください。

	ライブラリー	
オプション	サーバーID	システム サーバー
4	X	XXXXXXXX
4	X	XXXXXXXX

終わり

F12= 取り消し

図 71. 「サーバーの削除の確認」パネル

サーバー項目の表示

「サーバーの処理」パネルで既存のサーバーの横に **5** を入力すると、91 ページの図 72 に示されたパネルが表示されます。この画面のフィールドの説明については、87 ページの『サーバー項目の作成』を参照してください。

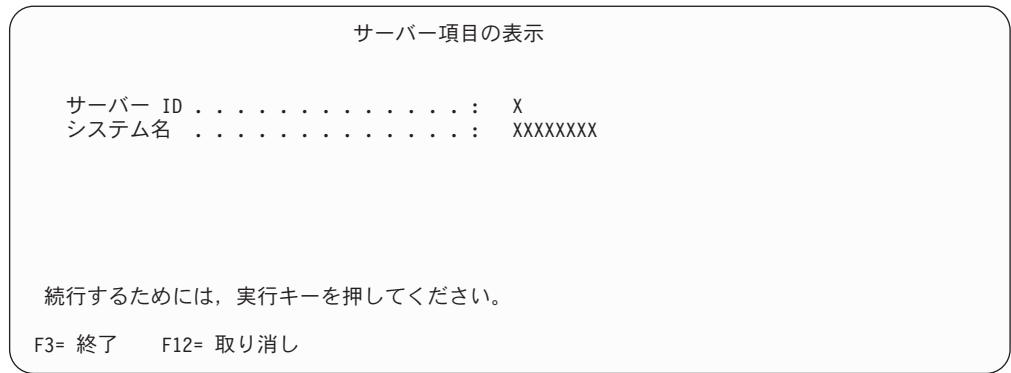


図 72. 1 次プロセッサのための「サーバー項目の表示」パネル

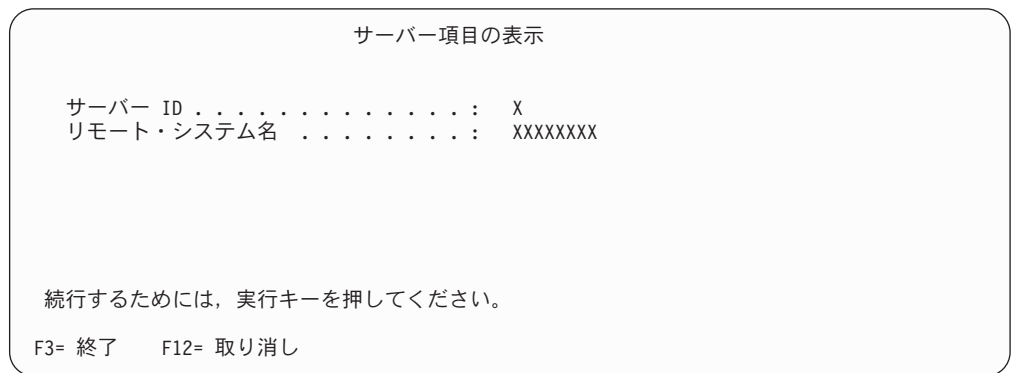


図 73. 2 次プロセッサのための「サーバー項目の表示」パネル

オブジェクト・ディレクトリーの定義

オブジェクト・ディレクトリーの絶対パス名は、サーバー ID、ファイル・システム、ディレクトリー、およびサブディレクトリーから構成されます。ファイル・システムはそれぞれ、ストレージ内の情報と対話するための論理構造と規則のセットをもっているため、ディレクトリー・パスのファイル・システム・コンポーネントは重要です。これらの構造と規則は、ファイル・システムによって異なることもあります。Content Manager for iSeries がサポートするファイル・システムは、ルート、QOpenSys、QDLS、および QLANSrv です。各ファイル・システムに関連する特性や考慮事項についての詳細は、「OS/400 統合ファイル・システム (IFS) 入門」を参照してください。

オブジェクト・ディレクトリーは、文書を iSeries に保管する場所です。Content Manager for iSeries は、iSeries フォルダーのサブディレクトリーに保管された文書をアクセスします。Content Manager for iSeries が iSeries のディレクトリーにアクセスできるように、まず、オブジェクト・ディレクトリー・プロファイル機能を使用して、前もってディレクトリーを定義しておく必要があります。オブジェクト・ディレクトリー・プロファイル機能を使用すると、オブジェクト・ディレクトリーを作成、コピー、削除、詳細表示、または変更することができます。

パスを構成するディレクトリー名の長さは 8 文字、サブディレクトリー名の長さは 12 文字でなければなりません。特定のファイル・システムは、ディレクトリーとサブディレクトリーに関する、その他のすべての命名規則を定義しています。

複数のファイル・システムを使用することができます。ただし、ワークステーション上のネットワーク・ドライブは、単一サーバーとファイル・システムに割り当てられます。あるファイル・システム内から別のファイル・システム内のディレクトリーに記号リンクを設定するのは、Content Manager for iSeries システム管理者の役割なので、特定のファイル・システムに関連するリンクの制約を考慮に入れる必要があります。たとえば、記号リンクは、QDLS ファイル・システム内に作成または保管することはできません。

オブジェクト・ディレクトリーの処理

オブジェクト・ディレクトリーを処理するときは、「プロファイル保守」メニューで **10** を選択します。図 74 に示されたパネルが表示されます。これは、Content Manager for iSeries に対して以前に定義されたディレクトリーのアルファベット順のリストです。オブジェクト・ディレクトリーの作成、コピー、削除、変更、および詳細の表示を行うことができます。

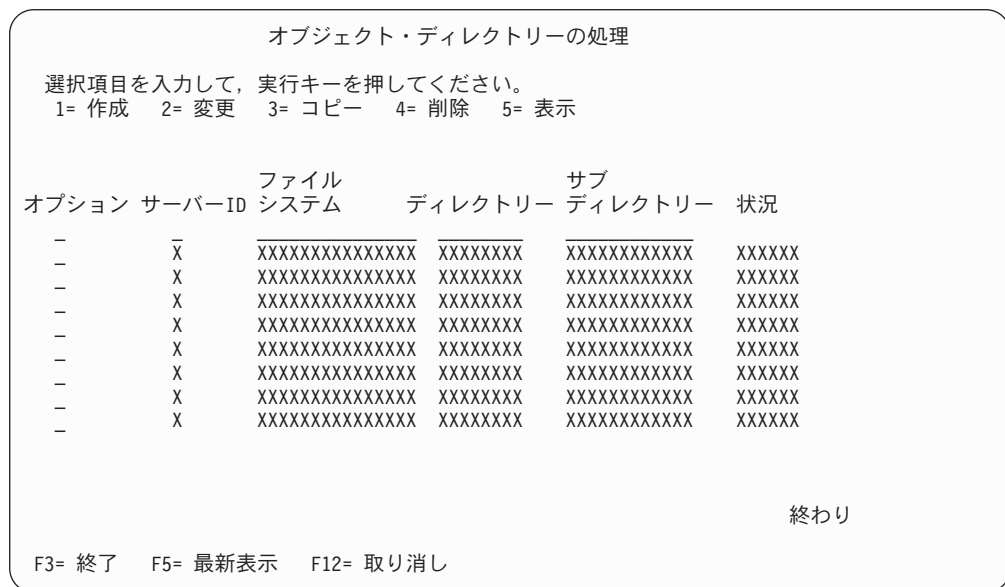


図 74. 「オブジェクト・ディレクトリーの処理」パネル

パネルの定義

1=作成

新しいオブジェクト・ディレクトリーを作成する場合は、このオプションを選択してください。94 ページの図 75 に示されているパネルが表示され、そこで新しいオブジェクト・ディレクトリーを作成することができます。

2=変更

変更したいオブジェクト・ディレクトリーの横に **2** を入力してください。これで、96 ページの図 76 に示されたパネルが表示されます。

3=コピー

コピーしたい iSeries オブジェクト・ディレクトリーの横に **3** を入力してください。これで、96 ページの図 77 に示されたパネルが表示されます。

4=削除

削除したいオブジェクト・ディレクトリーの横に **4** を入力してください。これで、97 ページの図 78 に示されたパネルが表示されます。Content Manager for iSeries プロファイルを削除しても、iSeries ディレクトリーは削除されません。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

全定義を表示したいオブジェクト・ディレクトリーの横に **5** を入力してください。これで、97 ページの図 79 に示されたパネルが表示されます。このパネルでは表示されている情報を見ることはできますが、情報を入力することはできません。

オプション

処理したい項目の横にオプション番号を入力してください。

サーバー ID

サーバーの ID が入っています。サーバーは、オブジェクト・ディレクトリーのコンポーネントです。

ファイル システム

オブジェクトを保管するのに使用されるファイル・システムの名前が入っています。ファイル・システムは、論理装置として構成されているストレージの特定のセグメントをユーザーのアプリケーションがアクセスできるようにするためのサポートを提供します。各ファイル・システムはそれぞれ、ストレージ内の情報と対話するための論理構造と規則のセットをもっています。これらの構造と規則は、ファイル・システムによって異なることもあります。Content Manager for iSeries がサポートするファイル・システムは、ルート、QOpenSys、QDLS、および QLANSrv です。ファイル・システムは、オブジェクトの保管場所への絶対パスのコンポーネントです。

ディレクトリー

オブジェクトを保管するのに使用されるディレクトリーの名前が入っています。ディレクトリーは、オブジェクトの保管場所への絶対パスのコンポーネントです。

サブディレクトリー

オブジェクトを保管するのに使用されるサブディレクトリーの名前が入っています。サブディレクトリーは、オブジェクトの保管場所への絶対パスのコンポーネントです。

状況

オブジェクト・ディレクトリーの状況が入っています。これは、以下の状態のいずれかである可能性があります。

OPENED (オープン)

オブジェクト・ディレクトリーは、その中にオブジェクトを保管するのに適切です。

CLOSED (クローズ)

オブジェクト・ディレクトリーは、その中にオブジェクトを保管するのに適切ではありません。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

選択内容を処理します。

オブジェクト・ディレクトリーの作成

図 75 に、オブジェクト・ディレクトリーの作成に使用するパネルを示します。このパネルを使用して、新しいオブジェクト・ディレクトリーの情報を入力し、そのディレクトリーが常駐する iSeries 処理システムを定義することができます。サブディレクトリーに保管できる最大文書数を入力します。サブディレクトリーに保管する文書数を制限すれば、サブディレクトリーが入っているディレクトリーへの文書の保管または検索にかかる時間を短縮することができます。

新しいオブジェクト・ディレクトリーを作成するときは、92 ページの図 74 に示すパネルで **1** を選択します。図 75 に示すプロファイル・パネルを完成し、実行キーを押してプロファイルを作成します。

オブジェクト・ディレクトリーの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

サーバー ID	-	リストは F4キー
ファイル・システム	_____	リストは F4キー
ディレクトリー	_____	名前
サブディレクトリー	_____	名前
サブディレクトリー中の 最大オブジェクト数	01500	0-60000
AS/400 グループ・プロファイル	XXXXXXXXXX	名前
補助記憶域プール ID	01	1-16

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 75. 「オブジェクト・ディレクトリーの作成」パネル

パネルの定義

サーバー ID

オブジェクト・ディレクトリーが常駐するサーバーの 1 文字の ID を入力します。サーバーは、オブジェクト・ディレクトリーのコンポーネントです。ライブラリー・サーバー ID 以外のサーバー ID を指定すると、Content Manager for iSeries は、リモート・オブジェクト・サーバー上にディレクトリーを作成します。Content Manager for iSeries がリモート・システムに接続できない場合は、項目はやはり、Content Manager for iSeries オブジェクト・ディレクトリー・プロファイルに追加されます。しかし、システム管理者はリモート・システムにディレクトリーを作成して、適切な権限を付与する必要があります。F4 を押して、既存のサーバーのリストから選択することができます。

ファイル・システム

オブジェクトを保管するのに使用されるファイル・システムの名前を入力します。ファイル・システムは、論理装置として構成されているストレージの特定のセグメントをユーザーのアプリケーションがアクセスできるようにするためのサポートを提供します。各ファイル・システムはそれぞれ、ストレージ内の情報と対話するための論理構造と規則のセットをもっています。これらの構造と規則は、ファイル・システムによって異なることもあります。Content Manager for iSeries がサポートするファイル・システムは、ルート、QOpenSys、QDLS、および QLANSrv です。ファイル・システムは、オブジェクトの保管場所への絶対パスのコンポーネントです。各ファイル・システムに関連する特性や考慮事項についての詳細は、「OS/400 統合ファイル・システム (IFS) 入門」を参照してください。F4 を押して、既存のファイル・システムのリストからファイル・システムを選択することもできます。

ディレクトリー

オブジェクトを保管するのに使用されるディレクトリーの名前を入力します。ディレクトリーは、オブジェクトの保管場所への絶対パスのコンポーネントです。ディレクトリーの長さは、8 文字でなければなりません。その他のパス名の規則はすべて、特定のファイル・システムによって定義されます。

サブディレクトリー

オブジェクトを保管するのに使用されるサブディレクトリーの名前を入力します。サブディレクトリーは、オブジェクトの保管場所への絶対パスのコンポーネントです。サブディレクトリーの長さは、12 文字でなければなりません。その他のパス名の規則はすべて、特定のファイル・システムによって定義されます。たとえば、QDLS ファイル・システムが指定された場合は、サブディレクトリーの形式は、順に、8 つの文字、小数点、3 桁の数字でなければなりません。

サブディレクトリー中の最大オブジェクト数

サブディレクトリーに保管できる最大文書数を入力します。この値は、0 ～ 60000 (0 と 60000 も含む) の整数でなければなりません。QDLS ファイル・システムを使用する場合は、1500 ～ 2500 を超える値はこのフィールドに入力しないようにしてください。他のファイル・システムに関しては、「OS/400 統合ファイル・システム (IFS) 入門」を参照してください。

AS/400 グループ・プロファイル

ディレクトリーとサブディレクトリーに権限が付与される先の AS/400 のグループ・プロファイルの 1 ～ 10 文字の英数字名を入力します。ご使用のアプリケーションでフォルダーのアクセスに複数のグループ・プロファイルを使用している場合は、他のすべてのグループにも必ず権限を付与してください。

補助記憶域プール ID

このオブジェクト・ディレクトリーを入れる ASP の番号です。このフィールドは、QDLS ファイル・システムを使用する場合にだけ適用されます。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

オブジェクト・ディレクトリーを作成します。

オブジェクト・ディレクトリーの変更

「オブジェクト・ディレクトリーの処理」パネル上の既存のディレクトリーの横に 2 を入力すると、図 76 に示されたパネルが表示されます。

オブジェクト・ディレクトリーの変更		
サーバー ID	:	X
ファイル・システム	:	XXXXXXXXXXXXXXXX
ディレクトリー	:	XXXXXXXX
サブディレクトリー	:	XXXXXXXXXXXX
サブディレクトリー中の 現在のオブジェクト数	:	XXXX
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
サブディレクトリー中の 最大オブジェクト数	XXXX	0-60000
F3= 終了 F12= 取り消し		

図 76. 「オブジェクト・ディレクトリーの変更」パネル

オブジェクト・ディレクトリーのコピー

「オブジェクト・ディレクトリーの処理」パネル上の既存のディレクトリーの横に 3 を入力すると、図 77 に示されたパネルが表示されます。

オブジェクト・ディレクトリーのコピー		
コピー元オブジェクト・ディレクトリー :		
サーバー ID	:	X
ファイル・システム	:	XXXXXXXXXXXXXXXX
ディレクトリー	:	XXXXXXXX
サブディレクトリー	:	XXXXXXXX.XXX
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
サーバー ID	X	リストは F4キー
ファイル・システム	XXXXXXXXXXXXXXXX	リストは F4キー
ディレクトリー	XXXXXXXX	名前
サブディレクトリー	XXXXXXXXXXXX	名前
サブディレクトリー中の 最大オブジェクト数	XXXX	0-60000
AS/400 グループ・プロファイル	XXXXXXXXXX	
補助記憶域プール ID	XX	1-16
F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し		

図 77. 「オブジェクト・ディレクトリーのコピー」パネル

オブジェクト・ディレクトリーの削除

「オブジェクト・ディレクトリーの処理」パネル上の既存のディレクトリーの横に 4 を入力すると、96 ページの図 76 に示されたパネルが表示されます。

オブジェクト・ディレクトリーの削除の確認

「4= 削除」の選択項目を確認して、実行キーを押してください。
削除せずに戻るためには、F12 キーを押してください。

オプション	サーバーID	ファイルシステム	ディレクトリー	サブディレクトリー
4	X	XXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXX	XXXXXXXXXXXX

終わり

F12= 取り消し

図 78. 「オブジェクト・ディレクトリーの削除の確認」パネル

オブジェクト・ディレクトリーの表示

「オブジェクト・ディレクトリーの処理」パネル上の既存のディレクトリーの横に 5 を入力すると、図 79 に示されたパネルが表示されます。

オブジェクト・ディレクトリーの表示

サーバー ID	:	X
ファイル・システム	:	XXXXXXXXXXXXXXXX
ディレクトリー	:	XXXXXXX
サブディレクトリー	:	XXXXXXXXXXXX
サブディレクトリー中の 最大オブジェクト数	:	XXXXX
サブディレクトリー中の 現在のオブジェクト数	:	XXXXX

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F12= 取り消し

図 79. 「オブジェクト・ディレクトリーの表示」パネル

光ディスク・システムの定義

光ディスク・システム・プロファイルは、Content Manager for iSeries が使用できる光ディスク・システムを定義します。光ディスク・システムは、そのコントローラーのシステム ID によって識別されます。構成の中でそれぞれの光ディスク・システムごとに固有のレコードを作成しなければなりません。以下の Content Manager for iSeries 機能は、光ディスク・システム・レコードを使用します。

記憶クラス・プロファイル

記憶クラス・プロファイルを定義するとき、作成する記憶クラスに関連付けるために、有効な光ディスク・システム ID を指定しなければなりません。作成した記憶クラスと光ディスク・システム ID の組み合わせを使用して、文書をグループ化し、同じ光ディスク・プラッターに保管することができます。

対話式検索処理プログラム

この処理プログラムは、光ディスク・システム・プロファイルの「対話式検索の活動化」フィールドが Y に設定されているかどうかを検査します。Y に設定されていれば、対話式検索処理プログラムはその光ディスク・システムの対話式検索要求を処理します。

光ディスク・バッチ検索処理プログラム

この処理プログラムは、光ディスク・システム ID プロファイルの「バッチ検索の活動化」フィールドが Y に設定されているかどうかを検査します。Y に設定されていれば、バッチ検索処理プログラムはその光ディスク・システムのバッチ検索要求を処理します。

光ディスク配布処理プログラム

光ディスク配布処理プログラムは記憶クラスおよび光ディスク・システム ID プロファイルを使用して、各光ディスク・ライブラリーに作業負荷を分散します。この処理プログラムは、どの記憶クラスおよび光ディスク・システム ID とも関連付けられていない文書だけを配布します。

光ディスク記憶処理プログラム

光ディスク記憶処理プログラムは、光ディスク・システム ID プロファイルの「光ディスク記憶の活動化」フィールドが Y に設定されているかどうかを検査します。Y に設定されていれば、光ディスク記憶処理プログラムはその光ディスク・システムの光ディスク記憶要求を処理します。この処理プログラムは、「光ディスク記憶の活動化」フィールドが Y に設定されている光ディスク・システムに関連付けられたすべての記憶クラスの保管要求を処理します。

光ディスク・ボリュームは、初期化 (フォーマット) してからでないと使用することができません。ボリュームを初期化すると、ボリューム名が入った新しいボリューム・ラベルがそのボリュームに書き込まれます。Content Manager for iSeries では、1 つのプラッターにある両方のボリューム ID の記憶クラスが同じであることが必要です。(光ディスク・ボリュームの初期化の手順については、使用している光ディスク装置の資料を参照してください。) 最初の文書が光ディスク・ボリュームに保管されるとき、フォルダーとサブディレクトリーがまだ存在していなければ、Content Manager for iSeries が自動的に作成します。システムは、記憶クラス・プロファイルで定義した保管方式を使用して、それ以降のフォルダーとサブディレクトリーも必要に応じて作成します。これについての詳細は、110 ページの『記憶クラスの定義』を参照してください。

光ディスク・システムの処理

光ディスク・システムを処理するときは、「プロファイル保守」メニューで **12** を選択してください。これで、99 ページの図 80 に示されたパネルが表示されます。このパネルには、以前に Content Manager for iSeries に対して定義された光ディス

ク・システムのリストが表示されます。光ディスク・システム・プロファイルの作成、コピー、削除、変更、および詳細の表示を行うことができます。

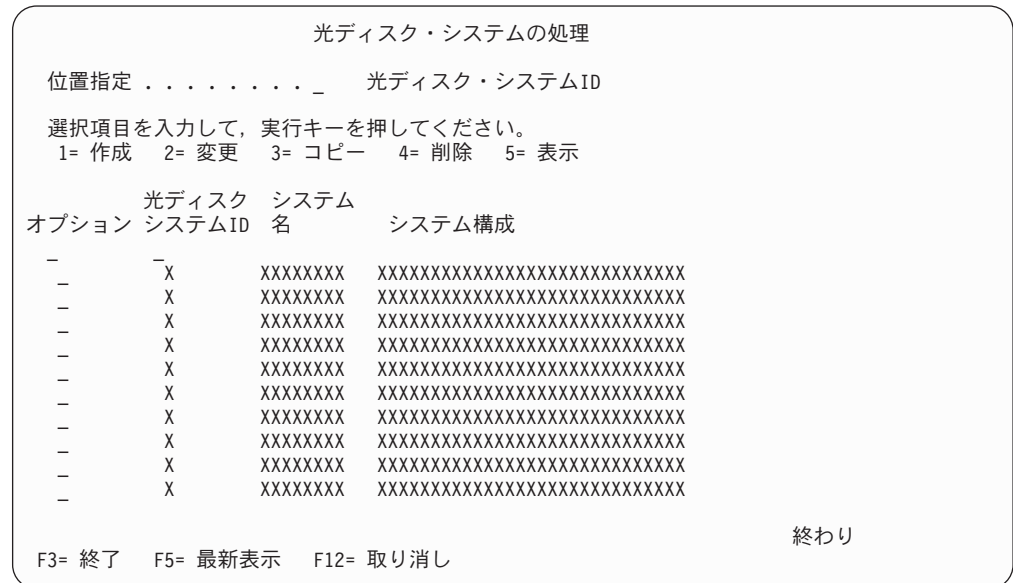


図 80. 「光ディスク・システムの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

検索したい光ディスク・システム ID の名前を入力します。入力された光ディスク・システム ID がパネルに表示されます。存在しない光ディスク・システム ID を入力した場合は、入力したものに最も近い ID が表示されます。

1=作成

100 ページの図 81 に示されているパネルが表示され、そこで新しい光ディスク・システム項目を作成することができます。

2=変更

変更したい光ディスク・システム ID の横に **2** を入力してください。107 ページの図 84 に示されたパネルが表示されます。

3=コピー

コピーしたい光ディスク・システム項目の横に **3** を入力してください。108 ページの図 87 に示されたパネルが表示されます。

4=削除

削除したい光ディスク・システム項目の横に **4** を入力してください。109 ページの図 88 に示されたパネルが表示されます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

全定義を表示したい光ディスク・システム項目の横に **5** を入力してください。109 ページの図 89 に示されたパネルが表示されます。このパネルでは表示されている情報を見ることはできますが、情報を入力することはできません。

光システム ID

光ディスク・システム ID の 1 文字の英字名を入力します。光ディスク・システムを作成する場合は、このフィールドは必須です。直接接続の 3995 の場合は、この名前は、光ディスク・ライブラリーが接続されている iSeries のサーバー ID と同じになります。

システム構成

光ディスク・システム ID と関連付けられた光ディスク装置のタイプを表す 2 桁の数値を入力します。次のいずれかを入力することができます。

- 01** 直接接続の 3995 光ディスク装置
- 02** LAN 接続の 9402/5363 光ディスク装置
- 03** LAN 接続の 3995 または 3431 光ディスク装置
- 50-99** ユーザー定義の光ディスク装置

初期値は **01** です。光ディスク・システムを作成する場合は、このフィールドは必須です。

機能キーの定義

PgDn フィールドの続きが 図 82 のようなパネルに表示されます。実際のフィールドは、初期パネルで指定したシステム構成のタイプによって異なります。

光ディスク・システムの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

光システム ID	:	X	
システム構成	:	X	
			XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
システム名	:	XXXXXXX	
光ディスク記憶の活動化	:	Y	Y=YES, N=NO
光ディスク取り付けへの応答	:	Y	Y=YES, N=NO
ドライブの数	:	01	1-99
バッチ検索の活動化	:	Y	Y=YES, N=NO
光ディスク取り付けへの応答	:	Y	Y=YES, N=NO
サーバー ID	:	X	*ANY, *USER, リストは F4キー
ドライブの数	:	01	1-99

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 82. 「光ディスク・システムの作成」パネル

パネルの定義

光システム ID

入力された光ディスク・システム ID が表示されます。

システム構成

システム構成に対して入力した数値と、その構成の説明が表示されます。

光ディスク記憶の活動化

この光ディスク・システムに文書を保管できるようにするために、**Y** を入力します。この光ディスク・システムに文書を保管するためには、記憶クラス・プロファイルの「光ディスク記憶の活動化」フィールドも **Y** に設定しなければなりません。この光ディスク・システム ID に文書を保管しないことを指定するときは、**N** を入力します。たとえば、光ディスク装置が機能していないときに、Content Manager for iSeries がこの光ディスク・システム ID に文書を保管しようとするたびに、エラー・メッセージを出したくないという場合などに、**N** を指定することができます。このフィールドで **N** を指定すると、Content Manager for iSeries は、光ディスク・システム ID に対する光ディスク記憶要求の生成を続けますが、システム管理者がこのフィールドを **Y** に変更して、光ディスク記憶処理プログラムを再度始動するまでは、これらの要求を処理しません。

光ディスク取り付けへの応答

必要な光ディスク・ボリュームがライブラリーにないときに出されるプラッター装着メッセージに対して応答することを指定する場合は、**Y** を入力します。プラッター装着メッセージを無視して次の要求の処理を続けることを指定するときは、**N** を入力します。LAN 接続の 9402/5363 光ディスク・システムを定義する場合は、このフィールドは表示されません。その理由は、ディスク装着メッセージが出されるのは iSeries ではなく、9402/5363 コンソールであるためです。このフィールドの詳細については、105 ページの『プラッター装着メッセージに対する応答』を参照してください。

ドライブの数

この光ディスク記憶処理が一時点で文書を保管できる異なる記憶クラスの数、1 ~ 99 の数値を入力して指定します。文書は、各記憶クラス・プロファイルで指定された現行ボリューム ID に保管されます。

バッチ検索の活動化

この光ディスク・システムから文書をバッチ検索できるようにするには、**Y** を入力します。この光ディスク・システムから文書をバッチ検索できないように指定するには、**N** を入力します。たとえば、光ディスク装置が機能していないときに、Content Manager for iSeries がこの光ディスク・システム ID から文書をバッチで検索しようとするたびに、エラー・メッセージを出したくないという場合などに、**N** を指定することができます。このフィールドに **N** を指定した場合、Content Manager for iSeries は、この光ディスク・システムに対するバッチ検索要求の生成は続けますが、システム管理者がこのフィールドを **Y** に変更して、光ディスク・バッチ検索プログラムを再始動するまで、それらの要求を処理しません。

光ディスク取り付けへの応答

必要な光ディスク・ボリュームがライブラリーにないときに出されるプラッター装着メッセージに対して応答することを指定する場合は、**Y** を入力します。プラッター装着メッセージを無視して次の要求の処理を続けることを指定するには、**N** を入力します。LAN 接続の 9402/5363 光ディスク・システムを定義した場合は、このフィールドは表示されません。その理由は、プラッター装着メッセージが出されるのは、iSeries ではなく、9402/5363 コンソールであるためです。このフィールドの詳細については、105 ページの『プラッター装着メッセージに対する応答』を参照してください。

サーバー ID

文書がバッチ処理プログラムによってこの光ディスク・システムから検索されたあとで、文書の保管先サーバーの ID を入力します。以下のいずれかを指定することができます。

***ANY** 光ディスク・システムからバッチで検索された文書は、Content Manager for iSeries に対して定義された iSeries のいずれかのディレクトリーに保管されます。

*USER

光ディスク・システムからバッチで検索された文書は、ユーザーのユーザー・プロファイルで指定されたサーバー上のディレクトリーに保管されます。

An existing Server ID (既存のサーバー ID)

光ディスク・システムからバッチで検索された文書は、このフィールドに指定されたサーバー上のディレクトリーに保管されます。

直接接続の 3995 を定義している場合、このフィールドには光ディスク・ライブラリーの接続先である iSeries システムの ID が表示されます。

ドライブの数

光ディスク・バッチ検索プログラムが一度に文書を検索できる、異なる光ディスク・ボリュームの数を指定する 1 ~ 99 の数値を入力します。文書は固有な 3 文字の接頭部をもつボリュームからのみ検索されます。

このフィールドの詳細については、83 ページの『複数の光ディスク・ドライブ上の文書のバッチ検索』を参照してください。

機能キーの定義

PgDn フィールドの続きが 図 83 に示すパネルに表示されます。

光ディスク・システムの作成			
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
光システム ID	:	X
システム構成	:	X
			XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
対話式検索の			
活動化	Y	Y=YES, N=NO
バッチ検索			
要求の作成	Y	Y=YES, N=NO
光ディスク取り付けへの応答	Y	Y=YES, N=NO
ジョブの番号	01	1-99
待ち時間 (秒数)	00120	1-99998
終わり			
F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し			

図 83. 「光ディスク・システムの作成」パネル

パネルの定義

光システム ID

入力された光ディスク・システム ID が表示されます。

システム構成

システム構成に対して入力した数値と、その構成の説明が表示されます。

対話式検索の活動化

この光ディスク・システムから文書を対話式で検索できるようにするには、**Y** を入力します。場合によっては、対話式検索要求を処理するためにバッチ・ジョブが開始されます。詳細については 132 ページの『対話式検索処理』を参照してください。この光ディスク・システムから文書を対話式で検索させないことを指定するには、**N** を入力します。たとえば、光ディスク装置が機能していないときに、Content Manager for iSeries がこの光ディスク・システム ID から文書を検索しようとするたびに、エラー・メッセージを出したくないという場合などに、**N** を指定することができます。このフィールドに **N** を指定すると、ユーザーは、この光ディスク・システムに保管されていて DASD にはもう入っていない文書を表示または印刷することができなくなります。ただし、処理できなかった各対話式検索要求に対してバッチ検索要求を作成するように指定することは可能です。「**バッチ検索要求の作成**」フィールドを参照してください。

バッチ検索要求の作成

以下の状況のときに Content Manager for iSeries がバッチ検索要求を作成することを指定するときは、**Y** を入力してください。

- 対話式検索要求が生成されたときに、光ディスク・ボリュームが光ディスク・ライブラリーに存在しない場合。
- 対話式検索中にエラーが発生し、Content Manager for iSeries が対話式検索要求を処理できない場合。
- 「**対話式検索の活動化**」フィールドに **N** を指定した場合。

処理できない対話式検索要求に対して、Content Manager for iSeries にバッチ検索要求を生成させないように指定するには、**N** を入力します。

光ディスク取り付けへの応答

必要な光ディスク・ボリュームがライブラリーにないときに出力されるプラッター装着メッセージに対して応答することを指定する場合は、**Y** を入力します。プラッター装着メッセージを無視して次の要求の処理を続けることを指定するには、**N** を入力します。LAN 接続の 9402/5363 光ディスク・システムを定義している場合は、このフィールドは表示されません。プラッター装着メッセージが iSeries ではなく、9402/5363 コンソールに出力されるためです。このフィールドは、文書を DASD にコピーして表示するのではなく、LAN 接続の 3995 または 3431 光ディスクから直接表示または印刷する場合は、使用されません。このフィールドの詳細については、105 ページの『プラッター装着メッセージに対する応答』を参照してください。

ジョブの番号

システム構成として **1** (直接接続の 3995) を指定した場合、このフィールドは 2 次 DASD システムを定義した場合にだけ表示されます。このフィールドは、対話式検索要求を処理するためにバッチ・ジョブを開始する必要がある場合にのみ、使用されます。

1 ~ 99 の数値を入力して、この光ディスク・システムに対する対話式検索要求を処理するために始動すべき対話式検索ジョブの数を指定します。指定するバッチ・プログラムの数は、ユーザーがこの光ディスク・システムに対して同時に実行依頼すると予想される対話式検索要求の数および検索される文書のサイズを基にして決めます。

バッチ・ジョブを必要とする対話式検索要求はすべて、iSeries のキューに置かれ、対話式検索ジョブが使用可能になったときに処理されます。同時に実行依頼する対話式検索要求の数が多い場合は、このフィールドに 1 より大きい値を入力してください。デフォルトは、1 です。

該当のバッチ・サブシステムにあるジョブの最大数が、開始された対話式検索ジョブの数と、2 次 Content Manager for iSeries 処理プログラムの数の合計より大きいことを確認してください。たとえば、次のものがあるとし

- 2 つの対話式検索ジョブがある光ディスク・システム
- 3 つの対話式検索ジョブがある光ディスク・システム
- 2 つの対話式検索ジョブがある光ディスク・システム
- 2 次 Content Manager for iSeries 処理プログラム

この例では、バッチ・サブシステムは 8 つ ($2 + 3 + 2 + 1 = 8$) 以上の同時バッチ・ジョブを実行できなければなりません。別のバックグラウンド・プロセスの実行中に対話式検索を実行する予定がある場合は、そのバッチ・サブシステムでの追加のバッチ・ジョブも考慮に入れなければなりません。

待ち時間 (秒数)

システム構成として 1 (直接接続の 3995) を指定した場合、このフィールドは 2 次サーバーを定義した場合にのみ表示されます。このフィールドは、対話式検索要求を処理するためにバッチ・ジョブを開始する必要がある場合にのみ、使用されます。光ディスク上だけの文書、あるいはリモート DASD 上の文書を処理するために、対話式検索が待つ秒数を入力します。対話式検索中に指定した制限時間が経過すると、システムはユーザーに対してエラー・メッセージを出して、文書が検索できないことを示します。デフォルトの値は、00120 秒 (2 分) です。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

光ディスク・システム項目を作成します。

プラッター装着メッセージに対する応答

要求された文書が保管されている光ディスク・プラッターが、LAN 接続の 3995 または 3431 光ディスクまたは直接接続の 3995 光ディスクに装着されていない場合は、Content Manager for iSeries は、プラッターを装着するよう要求するメッセージを表示します。

「光ディスク取り付けへの応答」フィールドは、LAN 接続の 9402/5363 光ディスク上でのプラッター装着メッセージの表示は制御しません。9402/5363 は、光ディスク・コントローラーのコンソールに独自のメッセージを出します。9402/5363 光

ディスク・システムに対するすべての文書保管または検索要求を自動的に取り消すために自動応答機能を使用する方法の詳細については、装置に添付しているマニュアルを参照してください。

その他のすべての光ディスク・システムについては、光ディスク・システムに装着されていないプラッターに要求された文書が保管されていると、以下のタイプの要求が生成されたときに、Content Manager for iSeries がプラッター装着メッセージを出します。

- 対話式検索要求 (ユーザーが光ディスクに保管されている文書の表示または印刷を要求した場合)。
- 光ディスク記憶要求 (光ディスク記憶処理プログラムを始動した場合)。
- 光ディスク・バッチ検索要求 (光ディスク・バッチ検索処理プログラムを始動した場合)。

必要な場合、各プラッター装着メッセージに応答するよう選択することができます。

上記のリストの機能の「光ディスク取り付けへの応答」フィールドに Y を指定すると、システムでは QSYSOPR の iSeries メッセージ・キューに照会メッセージが送信されます。このメッセージに回答しなければなりません。その場合は、以下の操作を行ってください。

1. iSeries コマンド行で DSPMSG QSYSOPR を入力して、プラッター装着メッセージを表示します。
2. プラッターを装着したくない場合は、C を入力して要求を取り消します。要求を処理したい場合は、光ディスク・ライブラリーにボリュームを入れて、R を入力し、システムが要求を再試行するように指定します。

メッセージに回答する (C または R で) と、光ディスク記憶処理プログラムおよびバッチ検索処理プログラムはその次の保管要求またはバッチ検索要求を処理します。対話式検索要求の場合は、この光ディスク・システムの光ディスク・システム ID プロファイルの「待ち時間 (秒数)」フィールドで指定された時間以内に、メッセージに回答しなければなりません。時間内に回答しないと、次のようになります。

- 対話式検索処理プログラムがユーザーに対してエラー・メッセージを出します。
- この光ディスク・システム ID の「バッチ検索要求の作成」フィールドで Y を指定した場合は、その文書に対してバッチ検索要求が生成されます。

上記のリストの機能の「光ディスク取り付けへの応答」フィールドに N を指定すると、システムは、その機能に対する要求を受け取ると必ず、QSYSOPR の iSeries メッセージ・キューに情報メッセージを送信します。DSPMSG QSYSOPR コマンドを使用してメッセージを表示することはできますが、メッセージに回答することはできません。エラーが記録されると、光ディスク記憶処理プログラムとバッチ検索処理プログラムはその次の保管要求またはバッチ検索要求を処理します。対話式検索要求を受け取ると、システムでは、ユーザーに対してエラー・メッセージを出します。さらに、この光ディスク・システム ID の「バッチ検索要求の作成」フィールドで Y を指定した場合は、その文書に対するバッチ検索要求が生成されます。

光ディスク・システムの変更

「光ディスク・システムの処理」パネル上の既存の光ディスク・システム ID の横に **2** を入力すると、図 84 に示されたパネルが表示されます。このパネルにより、既存の光ディスク・システムの記述を変更することができます。

光ディスク・システムの変更

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

光システム ID. : X
 システム構成 : X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

続く ..

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 84. 「光ディスク・システムの変更」パネル

光ディスク・システムの変更

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

光システム ID. : X
 システム構成 : X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

システム名 : XXXXXXXX

光ディスク記憶の活動化 : X Y=YES, N=NO
 光ディスク取り付けへの応答 : X Y=YES, N=NO
 ドライブの数 : XX 1-99

バッチ検索の活動化 : X Y=YES, N=NO
 光ディスク取り付けへの応答 : X Y=YES, N=NO
 サーバー ID. : X *ANY, *USER,
リストは F4キー

ドライブの数 : XX 1-99

続く ..

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 85. 「光ディスク・システムの変更」パネル

光ディスク・システムの変更

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

光システム ID. . . . . : X
システム構成 . . . . . : X
                                     XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
対話式検索の
  活動化 . . . . . X      Y=YES, N=NO
  バッチ検索
  要求の作成 . . . . . X      Y=YES, N=NO
  光ディスク取り付けへの応答 . . . . . X      Y=YES, N=NO
  ジョブの番号 . . . . . XX     1-99
  待ち時間 (秒数) . . . . . XXXXX 1-99998

```

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 86. 「光ディスク・システムの変更」パネル

光ディスク・システムのコピー

「光ディスク・システムの処理」パネル上の既存の光ディスク・システム ID の横に **3** を入力すると、図 87 に示されたパネルが表示されます。このパネルで既存の光ディスク・システム項目をコピーし、新しい光ディスク・システム項目を作成することができます。新しい光ディスク・システム ID は、コピーした ID と同じシステム構成であることに注意してください。たとえば、「**1= 直接接続 (1=direct-attach)**」タイプの光ディスク・システム ID プロファイルをコピーすると、新しい ID も直接接続になります。異なるシステム構成の光ディスク・システム項目を作成するときは、CREATE 機能を使用してください。

光ディスク・システムのコピー

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

コピー元光ディスク・システム :
  光システム ID. . . . . : X
  システム名 . . . . . : XXXXXXXX
  システム構成 . . . . . : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

コピー先光ディスク・システム :
  光システム ID. . . . . : X

```

F3= 終了 F12= 取り消し

図 87. 「光ディスク・システムのコピー」パネル

光ディスク・システムの削除

「光ディスク・システムの処理」パネル上の既存の光ディスク・システム ID の横に **4** を入力すると、図 88 に示されたパネルが表示されます。以下のいずれかの条件が存在する場合は、光ディスク・システム ID プロファイルを削除することはできません。

- 光ディスク・システム ID が記憶クラス・プロファイルの中で参照されている。
まず、その記憶クラス・プロファイルを削除してから、光ディスク・システム ID プロファイルを削除しなければなりません。
- プロファイルを別のユーザーが使用中の場合。その操作を、あとでもう一度行う必要があります。

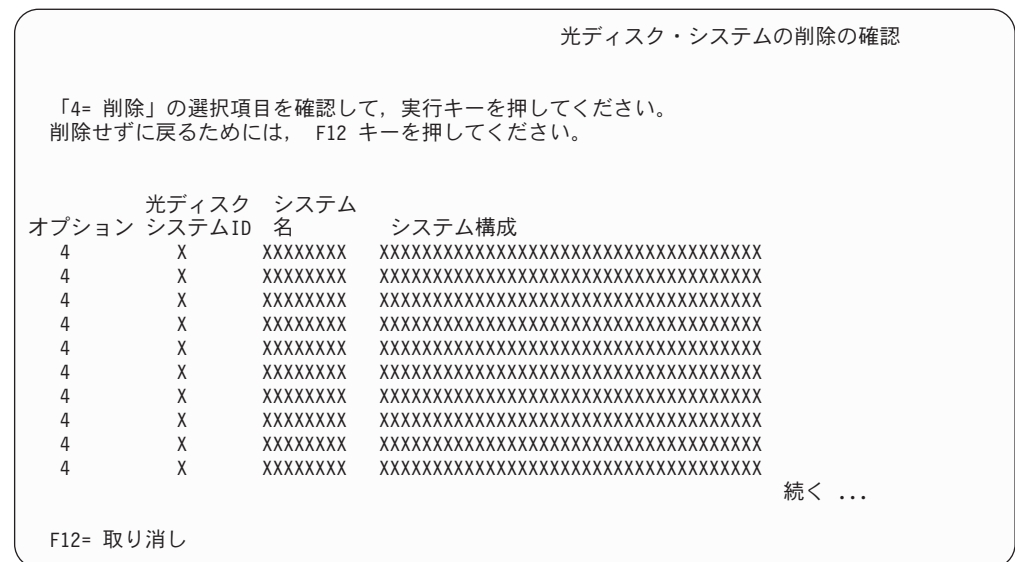


図 88. 「光ディスク・システムの削除の確認」パネル

光ディスク・システムの表示

「光ディスク・システムの処理」パネル上の既存の光ディスク・システム ID の横に **5** を入力すると、図 89 に示されたパネルが表示されます。

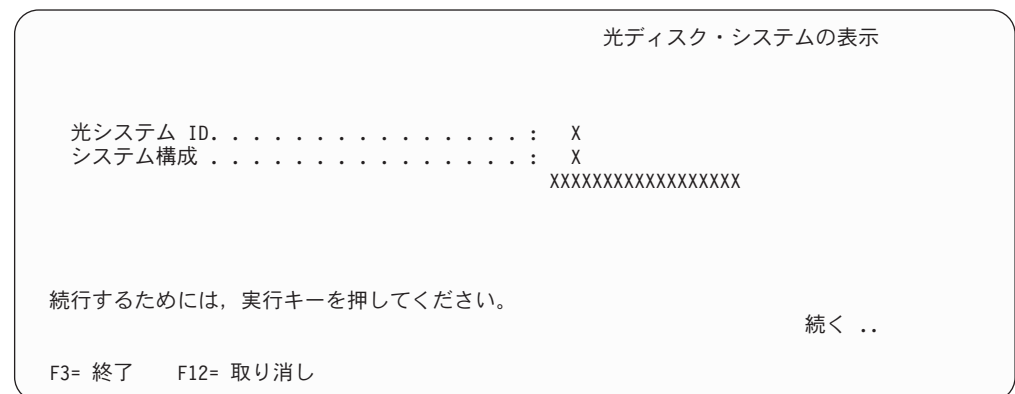


図 89. 「光ディスク・システムの表示」パネル

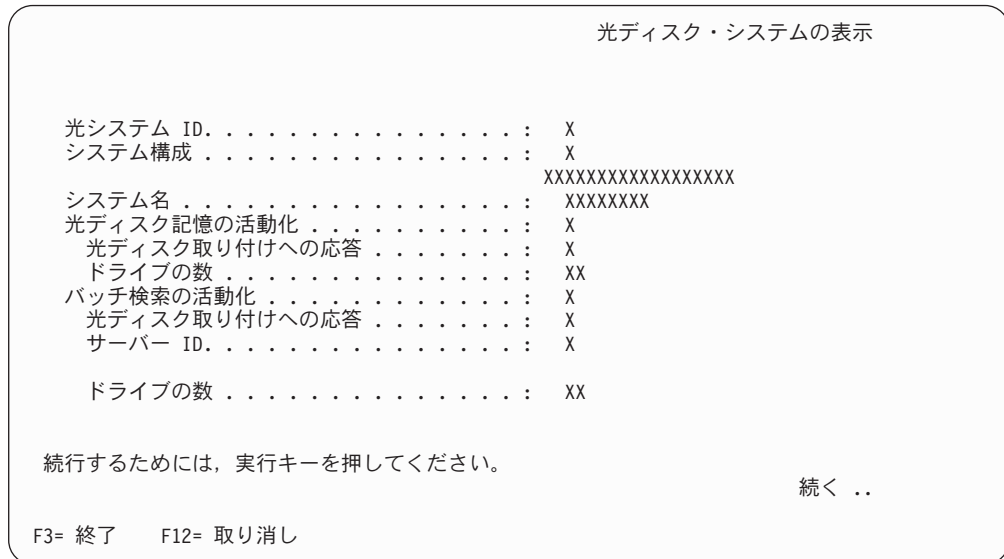


図 90. 「光ディスク・システムの表示」パネル

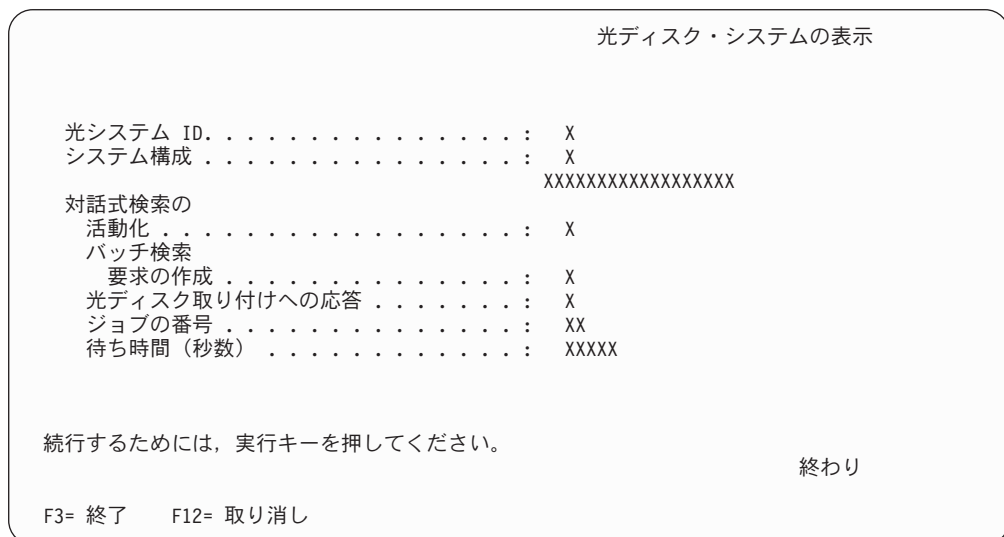


図 91. 「光ディスク・システムの表示」パネル

記憶クラスの定義

記憶クラスは、Content Manager for iSeries の中の特定のオブジェクトのグループに割り当てる名前です。記憶クラスによって、オブジェクトが光ディスク装置に保管される方法が決まります。記憶クラスはそれぞれ、光ディスク・システム、および光ディスク・ボリューム ID の固有のセットと関連付けられています。同じ記憶クラスおよび光ディスク・システム ID を持つオブジェクトは、同じ光ディスク・ボリュームに保管されます。このため、記憶クラスによって、類似した文書を同じ光ディスク・ボリュームにまとめることができます。たとえば、光ディスク・システム ID G 上の記憶クラス CLAIMS0001 を、AAA001 という現行ボリューム ID で定義することができます。CLAIMS0001 という記憶クラスと関連付けられたオブジ

エクトはボリューム AAA001 に保管されます。このボリュームがいっぱいになると、文書はボリューム AAA002 へ、というように、順に保管されます。

関連性のある文書を別々の光ディスク・システムに保管したい場合は、複数の光ディスク・システム ID に同じ記憶クラスを関連付けることができます。たとえば、記憶クラス CLAIMS0001 を、光ディスク・システム ID G と、光ディスク・システム ID H に定義することができます。このようにシステムをセットアップする場合は、光ディスクのパス (光ディスク・ボリューム名、現行ディレクトリー、および現行サブディレクトリー) が固有であることを確認してください。

オブジェクトは、光ディスクに保管するためには、記憶クラスと関連付ける必要があります。オブジェクトが Content Manager for iSeries に入れられると、Content Manager for iSeries は、Content Manager for iSeries プロファイルで指定されたオプションに基づいて、文書を記憶クラスに関連付けます。Content Manager for iSeries はまず、コレクション・プロファイルを検査して、このタイプのオブジェクトを光ディスクに保管するときに使用されるストレージ方式を判断します。以下のストレージ方式から選択することができます。

コレクション

このストレージ方式は、コレクションに基づいて文書を論理的にグループ化して、光ディスクに保管することを指定します。

光ディスク配布プロセスによる記憶

このストレージ方式は、システムが文書を使用可能な記憶クラスに配布することを指定します。文書はまだ記憶クラスと関連付けられていないため、システムはその文書に対して未配布光ディスク記憶要求を生成します。光ディスク配布プロセスを始動して、各文書を記憶クラスと関連付けなければなりません。その後、システムは、記憶クラス・プロファイルの「記憶要求分配の活動化」フィールドが Y に設定されているすべての記憶クラスに文書を配布します。光ディスク配布プロセスによって、未処理の光ディスク記憶要求があるが記憶クラスと関連付けられていない文書が記憶クラスと関連付けられます。

光ディスク配布プロセスによって文書が適切な記憶クラスと関連付けられると、光ディスク記憶プロセスを開始して文書を光ディスクに保管することができます。

索引クラスまたはコレクションに基づいて文書が光ディスクに保管されることを指定している場合は、システムは、文書を該当の記憶クラスと光ディスク・システム ID に自動的に配布します。処理プログラムに光ディスク記憶要求を配布するために光ディスク配布プロセスを開始する必要はありません。必要なことは、文書を光ディスクに保管するために光ディスク記憶プロセスを開始することだけです。光ディスク記憶方式の設計の詳細については、80 ページの『光ディスク・ストレージ方式の設計』を参照してください。

ある記憶クラス用の光ディスク・プлатターはすべて、同じタイプにすること、つまり、すべて消去可能にするか、あるいはすべて 1 度だけの書き込み/読み取り複数回 (WORM) にすることをお奨めします。

記憶クラス・プロファイル機能を使用して、Content Manager for iSeries の記憶クラスを定義します。記憶クラス・プロファイル機能によって、記憶クラス・プロファイルの作成、コピー、削除、詳細の表示、変更を行うことができます。

記憶クラス・プロファイルの処理

記憶クラスを処理するには、「プロファイル保守」メニューで **11** を選択します。これによって 図 92 に示されたパネルが表示されます。これは、システムで以前に定義された記憶クラスのプロファイルのリストを表示しています。このパネルを使用して、記憶クラス・プロファイルの作成、コピー、削除、変更、および詳細表示を行うことができます。

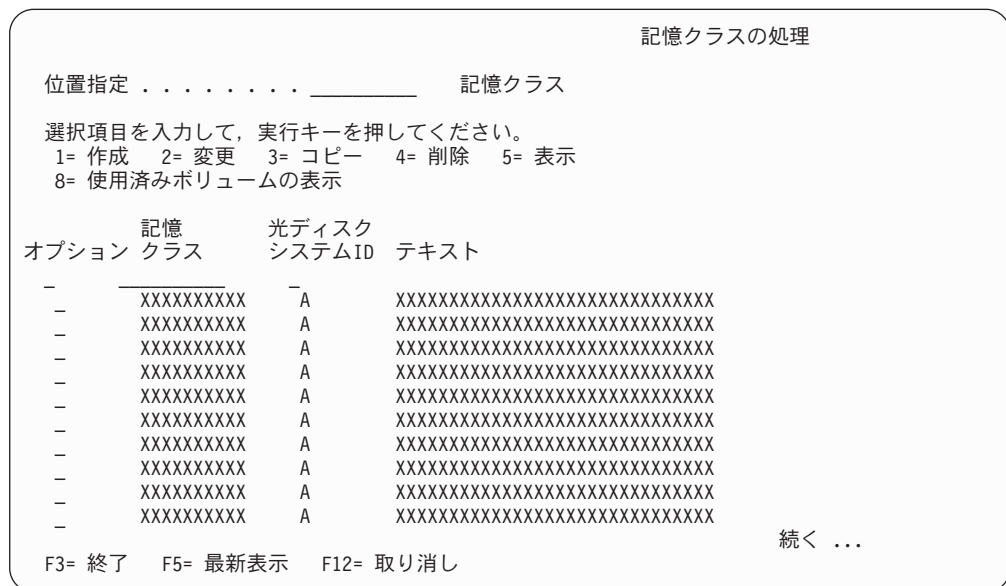


図 92. 「記憶クラスの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

検索したい記憶クラスの名前を入力します。入力された記憶クラスがパネルに表示されます。1 つの文字、ストリングの一部、または存在しない記憶クラスを入力すると、入力した文字やストリングに最も近い記憶クラスが表示されます。

1=作成

114 ページの図 93 に示されているパネルが表示され、そこで、新しい記憶クラス・プロファイルを作成することができます。

2=変更

変更したい記憶クラスの横に **2** を入力してください。これで、117 ページの図 95 に示されたパネルが表示されます。

3=コピー

コピーしたい記憶クラス・プロファイルの横に **3** を入力してください。これで、118 ページの図 97 に示されたパネルが表示されます。

4=削除

削除したい記憶クラスの横に **4** を入力してください。これで、119 ページの図 98 に示されたパネルが表示されます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

全定義を表示したい記憶クラスの横に **5** を入力してください。これで、119 ページの図 99 に示されたパネルが表示されます。このパネルでは表示されている情報を見ることはできますが、情報を入力することはできません。

8=使用済みボリュームの表示

この記憶クラスに関連付けられている全光ディスク・ボリュームのリストを表示するには、記憶クラスの横に **8** を入力します。これで、120 ページの図 101 に示されたパネルが表示されます。

オプション

処理したい項目の横にオプション番号を入力してください。

記憶クラス

以前に Content Manager for iSeries に定義された記憶クラスの名前を表示します。

光ディスク システム ID

記憶クラスに関連する光ディスク・システム ID の名前。

テキスト

記憶クラスの記述。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

選択内容を処理します。

記憶クラスの作成

記憶クラス・プロファイルを作成する前に、79 ページの『光ディスクの管理』を参照して、使用したい光ディスク記憶方式に関して選択すべきプロファイル設定値を検討してください。

光ディスク記憶プロセスが実行中の場合は、既存の記憶クラス・プロファイルを変更する前に、そのプロセスを停止しなければなりません。

新しい記憶クラス・プロファイルを作成するときは、112 ページの図 92 に示す「記憶クラスの処理」パネルで、**1** を選択します。114 ページの図 93 に示されたパネルが表示されます。

このプロファイルおよび Content Manager for iSeries の光ディスク・システムで定義する光ディスク・パスは固有でなければなりません。複数の Content Manager for iSeries システムを使用しているときは、それぞれのシステムで、その光ディスクのメディア・パスに関する固有の命名規則を決めておく必要があります。

記憶クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

記憶クラス	_____	リストは F4キー
光システム ID	_	
テキスト	_____	
光ディスク記憶の活動化	Y	Y=YES, N=NO
消去可能ボリューム	N	Y=YES, N=NO

続く ..

F3= 終了 F5= 最新表示 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 93. 「記憶クラスの作成」 パネル

パネルの定義

記憶クラス

作成したい記憶クラスの 1 ~ 10 文字の英数字名を入力します。

光システム ID

この記憶クラスに関連する光ディスク・システムを示す 1 文字の英字 ID を入力します。F4 を押して、既存のサーバーのリストから選択することができます。

テキスト

記憶クラスの記述。

光ディスク記憶の活動化

光ディスク記憶処理プログラムがこの記憶クラスに関連するボリュームに文書を保管できるように指定するには、**Y** を入力します。この記憶クラスに文書を保管するためには、光ディスク・システム ID プロファイルの「**光ディスク記憶の活動化**」フィールドも **Y** に設定しておく必要があります。この記憶クラスに関連するボリュームに文書を保管しないことを指定するには、**N** を入力します。たとえば、光ディスク装置が機能していないときに、Content Manager for iSeries がこの光ディスク・システム ID に文書を保管しようとするたびに、エラー・メッセージを出したくないという場合などに、**N** を指定することができます。このフィールドに **N** を指定した場合、Content Manager for iSeries は、この光ディスク・システム ID に対する光ディスク記憶要求の生成は続けますが、システム管理者がこのフィールドを **Y** に変更して、光ディスク記憶処理プログラムを再始動するまで、それらの要求を処理しません。

消去可能ボリューム

この記憶クラスが消去可能光ディスク・ボリュームを使用することを示すには、**Y** を入力します。**Y** を指定する場合、この記憶クラスが使用するすべてのボリュームは消去可能ボリュームでなければなりません。この記憶クラスが 1 度だけの書き込み/読み取り複数回 (WORM) 光ディスク・ボリュームを使用することを指定する場合は、**N** を入力します。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

記憶クラス・プロファイルを作成します。

記憶クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

記憶クラス	:	XXXXXXXXXX	
光システム ID	:	X	
		XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
テキスト	:	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
記憶要求分配の活動化	:	X	Y=YES, N=NO
文書の数	:	XXX	0-999
現行ボリューム :	:	XXXXXX	
現行フォルダー	:	XXXXXX	
現行サブディレクトリー	:	XXXXXXXXXX	
サブディレクトリー当りの文書数	:	XXXX	1-60000
フォルダー当りのサブディレクトリー数	:	XXX	1-999

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 94. 「記憶クラスの作成」パネル

パネルの定義

記憶クラス

作成したい記憶クラスの 1 ~ 10 文字の英数字名を表示します。

光システム ID

この記憶クラスに関連する光ディスク・システムを示す 1 文字の英字 ID を表示します。

テキスト

記憶クラスの記述。

記憶要求分配の活動化

このフィールドは、この記憶クラスと光ディスク・システム ID を、光ディスク配布処理プログラムが、他の記憶クラスおよび光ディスク・システム ID と関連付けられていない文書に割り当てることができるかどうかを判別します。この記憶クラスおよび光ディスク・システム ID に文書を配布できるようにするには、**Y** を入力します。光ディスク配布処理プログラムに、この記憶クラスおよび光ディスク・システム ID に文書を配布させたくない場合は、**N** を入力します。たとえば、光ディスク・ボリュームに文書をコレクション別に保管しているときに、他のコレクションをこのボリュームに保管させないようにしたい場合に、**N** を指定します。

文書の数

この記憶クラスおよび光ディスク・システム ID に文書を配布できることを指定した場合に、一時点でこの記憶クラスに配布できる文書の数を示す、1 ~ 999 の数字を入力します。

現行ボリューム

その次の文書を保管する光ディスク・ボリュームの 6 文字の英数字名を入力します。名前の形式は *cxxnnn* です。

c 英字
x 英数字
n 数字

記憶クラスを作成している場合、このフィールドのデフォルト値は、後ろに 001 が続いた、固有の 3 文字の接頭部を含んでいます。接頭部の最初の文字は、光ディスク・システム ID です。デフォルト値以外のボリューム名を指定する場合は、最初の 3 文字が固有であることを確認してください。

ボリューム名を指定したかデフォルトを使用したかに関係なく、ボリューム ID を初期設定し、光ディスク・システムにプラッターを装着する必要があります。光ディスク・プラッターを初期設定するときは、両方のボリューム ID が同じ記憶クラスのものであることを確認してください。

指定したボリュームがいっぱいになると、Content Manager for iSeries は、自動的に文書を次のボリュームに保管し、「現行ボリューム」フィールドを新しいボリュームの名前で更新します。たとえば、現行のボリューム ID が AAA001 の場合、Content Manager for iSeries は、AAA001 がいっぱいになると AAA002 に文書を保管します。

現行フォルダー

その次の文書を保管する光ディスク・ボリューム上のフォルダーの、8 文字の英数字名を入力します。名前の形式は *xxxxnnnn* です。

c 英字
x 英数字
n 数字

記憶クラスを作成している場合、このフィールドのデフォルト値には、固有の 4 文字の接頭部のあとに 0001 が続く値が含まれます。接頭部の最初の 3 文字は、現行ボリューム ID の 3 文字の接頭部と同じです。9402/5363 光ディスクに対して定義するフォルダーすべてに固有の 4 文字の接頭部を付けなければならないことに注意してください。

現行サブディレクトリー

その次の文書を保管する光ディスク・サブディレクトリーの 12 文字の英数字名を入力します。この名前の形式は *xxxxxxx.nnn* です。

c 英字
x 英数字
n 数字

記憶クラスを作成している場合、このフィールドのデフォルト値は SUBDIREC.001 です。

サブディレクトリー当りの文書数

1 ~ 60000 の範囲の数字を入力して、光ディスク・サブディレクトリーがいっぱいになるまでに保管できる文書の最大数を指定します。サブディレクトリーにこの数の文書が入れられると、システムは新しいサブディレクトリー

ーを作成し、「現行サブディレクトリー」フィールドを新しいサブディレクトリーの名前で更新します。デフォルトの文書数は 900 です。

フォルダー当りのサブディレクトリー数

1 ~ 999 の範囲の数字を入力して、光ディスク・フォルダーがいっぱいになるまでにその光ディスク・フォルダー内に作成できるサブディレクトリーの最大数を指定します。フォルダーにこの数のサブディレクトリーが入れられると、システムは新しいフォルダーを作成して、「**現行フォルダー**」フィールドを新しいフォルダーの名前で更新します。デフォルトのサブディレクトリー数は 20 です。

記憶クラスの変更

「記憶クラスの処理」パネルで既存の記憶クラスの横に **2** を入力すると、図 95 に示すパネルが表示されます。このパネルにより、既存の記憶クラス定義を変更することができます。

記憶クラスの変更

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

記憶クラス . . . . . : XXXXXXXXX
光システム ID . . . . . : X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
テキスト . . . . . : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
光ディスク記憶の活動化 . . . . . : X          Y=YES, N=NO
消去可能ボリューム . . . . . : X          Y=YES, N=NO
    
```

続く ..

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 95. 「記憶クラスの変更」パネル

記憶クラスの変更

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

```

記憶クラス . . . . . : XXXXXXXXX
光システム ID . . . . . : X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
テキスト . . . . . : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
記憶要求分配の活動化 . . . . . : X          Y=YES, N=NO
  文書の数 . . . . . : XXX          0-999
現行ボリューム : . . . . . : XXXXXX
現行フォルダー . . . . . : XXXXXXXX
現行サブディレクトリー . . . . . : XXXXXXXXXXXX
サブディレクトリー当りの文書数 . . . . . : XXXXX      1-60000
フォルダー当りのサブディレクトリー数 . . . . . : XXX          1-999
    
```

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 96. 「記憶クラスの変更」パネル

記憶クラス・プロファイルのコピー

「記憶クラスの処理」パネルで既存の記憶クラスの横に **3** を入力すると、図 97 に示すパネルが表示されます。このパネルで既存の記憶クラスをコピーし、新しい記憶クラスを作成することができます。

記憶クラスのコピー

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

コピー元記憶クラス :

記憶クラス	: XXXXXXXXXX
光システム ID	: X
テキスト	: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
現行ボリューム	: XXXXXX
現行フォルダー	: XXXXXXXX
現行サブディレクトリー	: XXXXXXXXXX

コピー先記憶クラス :

記憶クラス	: XXXXXXXXXX
光システム ID	: X リストは F4キー
テキスト	: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
現行ボリューム	: XXXXXX
現行フォルダー	: XXXXXXXX
現行サブディレクトリー	: XXXXXXXXXX

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 97. 「記憶クラスのコピー」パネル

記憶クラスの削除

「記憶クラスの処理」パネルで既存の記憶クラスの横に **4** を入力すると、119 ページの図 98 に示すパネルが表示されます。以下のいずれかの条件が存在する場合は、記憶クラス・プロファイルを削除することはできません。

- 記憶クラスおよび関連する光ディスク・システム ID が、コレクション・プロファイルの中で参照されている場合。参照しているコレクション・プロファイルの記憶クラス・フィールドおよび光ディスク・システム ID フィールドの値をブランクにするか、あるいはそれらを参照しているプロファイルを削除しなければなりません。そのあとで記憶クラス・プロファイルを削除します。
- プロファイルを別のユーザーが使用中の場合。その操作を、あとでもう一度行う必要があります。
- 光ディスク記憶プロセスが実行中の場合。

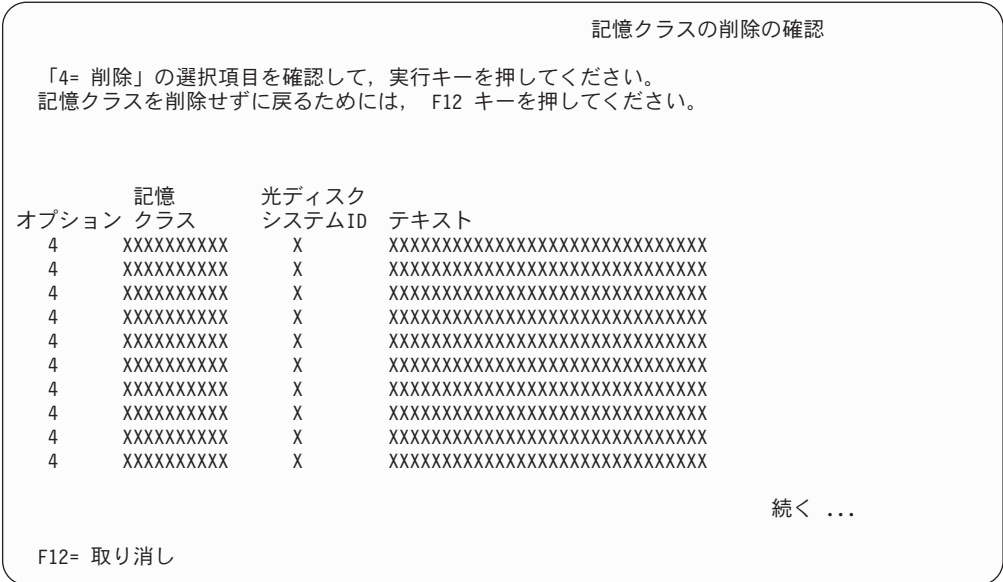


図 98. 「記憶クラスの削除の確認」パネル

記憶クラスの表示

「記憶クラスの処理」パネルで既存の記憶クラスの横に **5** を入力すると、図 99 に示すパネルが表示されます。

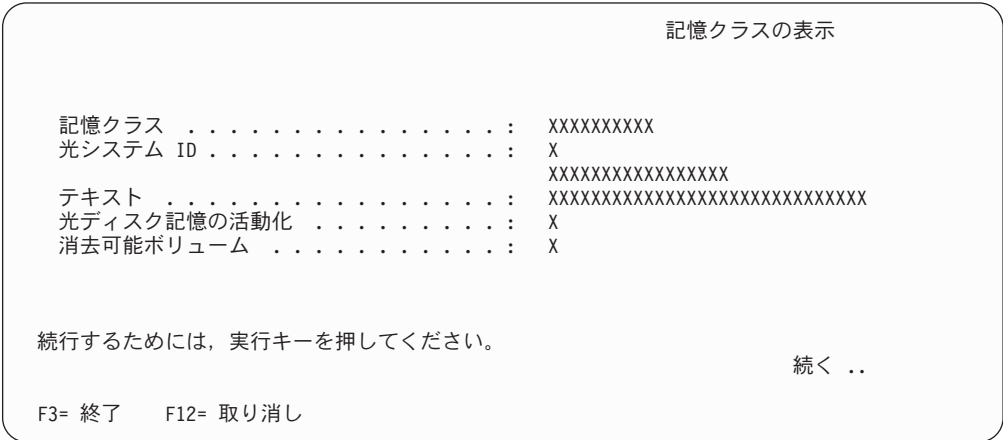


図 99. 「記憶クラスの表示」パネル

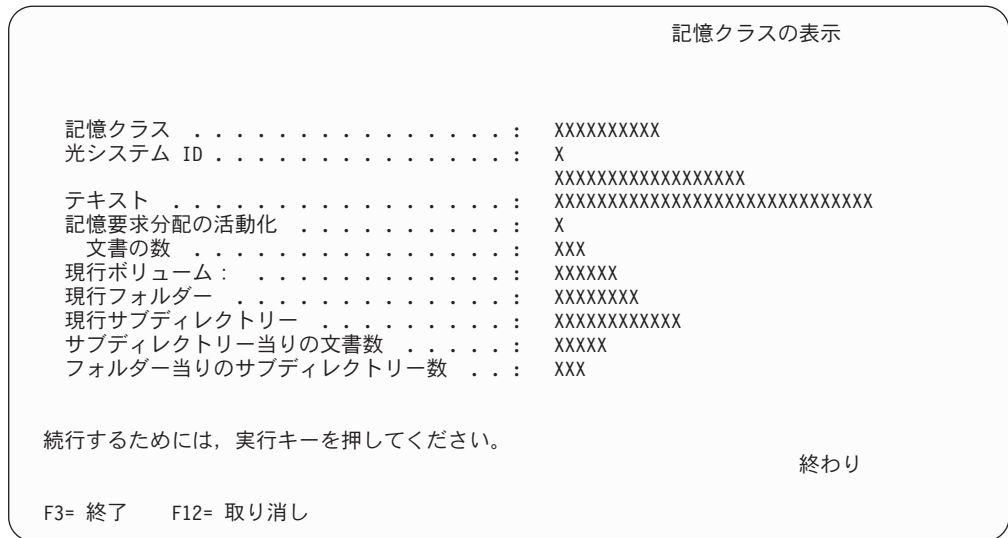


図 100. 「記憶クラスの表示」パネル

使用ボリュームの表示

「記憶クラスの処理」パネルで既存の記憶クラスの横に **8** を入力すると、図 101 に示すパネルが表示されます。

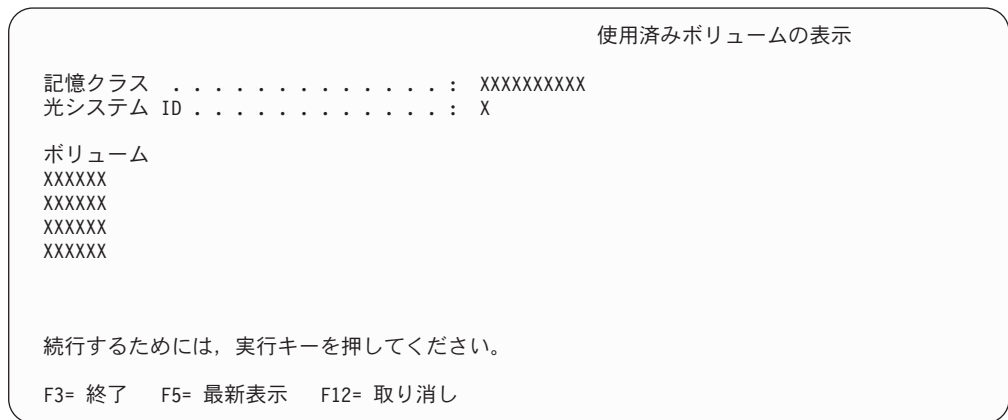


図 101. 「使用済みボリュームの表示」パネル

コレクションの定義

コレクションは、通常、類似したパフォーマンス、使用可能性、バックアップ、および保存期間の特性をもつ、オブジェクトのグループと関連付けられるストレージ管理制御を定義するために使用されます。

コレクションの処理

「プロファイル保守」メニューから **8** を選択すると、121 ページの図 102 に示されたパネルが表示されます。

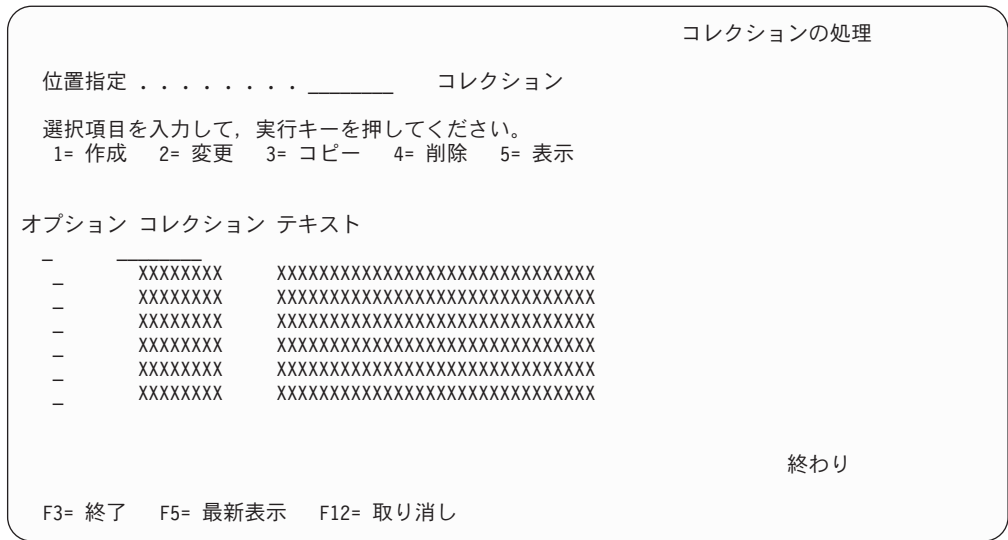


図 102. 「コレクションの処理」パネル

パネルの定義

位置指定

スクロール先のコレクションの名前を入力し、実行キーを押します。入力したコレクションが入ったパネルが再び表示されます。1 つの文字、ストリングの一部、または存在しないコレクションを入力すると、入力した文字やストリングに最も近いコレクションがパネルに表示されます。

1=作成

新しいコレクションを作成する場合は、このオプションを選択します。122 ページの図 103 に示されたパネルが表示されます。

2=変更

変更したいコレクションの横に **2** を入力してください。124 ページの図 104 に示されたパネルが表示され、そこで、コレクションの定義を変更することができます。

3=コピー

コピーしたいコレクションの横に **3** を指定してください。これによって、既存のコレクション定義を新しいコレクション定義にコピーすることができます。125 ページの図 105 に示されたパネルが表示され、そこで、既存のコレクション定義を変更して、新しいコレクションを作成することができます。

4=削除

削除したいコレクションの横に **4** を入力してください。125 ページの図 106 に示すパネルが表示され、削除を確認するか、あるいは要求を取り消すことができます。複数の項目の横に **4** を入力した場合は、削除要求はグループ化されて、一緒に処理されます。

5=表示

コレクション定義を表示したいコレクションの横に **5** を入力してください。126 ページの図 107 に示されたパネルが表示されます。

コレクション

システムに定義されているコレクション名のリストが表示されます。

テキスト

コレクションに関連付けられた 1 ～ 30 文字の英数字の記述。

有効なオプションの任意の組み合わせ、あるいは番号を選択することができます。選択したオプションは画面上に表示された順序で処理されます。いずれかのオプションについてエラーが起こると、「コレクションの処理」パネルが再び表示され、エラーのあったオプションが強調表示されます。まだ処理が残っているそれ以外のオプションもパネルに表示されます。エラーを訂正すると、選択したすべてのオプションが実行されます。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

選択内容を処理します。

コレクションの作成

「コレクションの処理」パネルでオプション **1** を入力すると、図 103 に示すパネルが表示されます。これで、新しいコレクションを作成することができます。

コレクションの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

コレクション	_____	名前
テキスト	_____	
光ディスクへの記憶	Y	Y=YES, N=NO
DASD 上に記憶される日数	030	0-999
光ディスク 記憶方式	2	1= コレクション 2= システム割り当て 名前, リストは F4キー
記憶クラス	_____	
光システム ID	-	
光ディスクからの 検索方式	1	1=DASD へ検索 2= 光ディスクから処理

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 103. 「コレクションの作成」パネル

パネルの定義

コレクション

作成したいコレクションの 1 ～ 8 文字の名前を入力します。

テキスト

コレクションの 1 ～ 30 文字の拡張記述を入力します。このフィールドはオプションです。

光ディスクへの記憶

光ディスクおよび DASD 上に文書イメージを記憶するときは、**Y** を入力します。

このタイプの文書が入力されると、Content Manager for iSeries は、その文書を光ディスクに保管するための要求を作成します。その結果、次にプロセスを実行するときに、オブジェクトが保管されます。

文書を 2 次ストレージに保管しない場合は **N** を入力してください。ただし、文書が 2 次ストレージに保管されない場合、またはストレージ・メディアにバックアップされない場合は、文書は DASD から削除されると、消失します。このフィールドは必須です。

DASD 上に記憶される日数

文書を DASD に保管しておく最大の日数を 0 ~ 999 の数で入力して、指定します。たとえば、このフィールドを 7 に設定すると、文書は DASD に 7 日間保管されます。デフォルトの値は 30 です。このフィールドは必須です。「光ディスクへの記憶」フィールドが N に設定されている場合、このタイプの文書は、DASD から削除されたあと、リカバリーすることはできません。

光ディスク記憶方式

このタイプの文書がシステムに入力されたときに使用する光ディスク記憶の方式を表す数字を入力します。以下のものを使用することができます。

1=コレクション

文書は、コレクションにもとづいて、光ディスクに保管されます。

1 を指定した場合は、このプロファイルに記憶クラスと光ディスク・システム ID を指定しなければなりません。

2=システム割り当て

文書には、記憶クラスや光ディスク・システム ID は割り当てられません。文書を光ディスクに保管できるようにするには、光ディスク配布プロセスを開始してその文書に記憶クラスと光ディスク・システム ID を割り当てなければなりません。

記憶クラス

このタイプの文書が属する記憶クラスを示す、1 ~ 10 文字の英数字名を入力します。以下の規則に従って、このフィールドに値を入力してください。

- ストレージ方式 1 を指定した場合は、このフィールドは必須です。また、「光システム ID」フィールドに、この記憶クラスと関連付けられた光ディスク・システム ID を指定する必要があります。
- ストレージ方式 2 を指定した場合、このプロファイルの「記憶クラス」フィールドと「光システム ID)」フィールドをブランクにしておかなければなりません。

F4 を押して、既存の記憶クラスおよび光ディスク・システムのリストから記憶クラスを選択することもできます。

光システム ID

記憶クラスに関連する光ディスク・システムの、1 文字の英字 ID を入力します。以下の規則に従って、このフィールドに値を入力してください。

- ストレージ方式 1 を指定した場合は、このフィールドは必須です。また、「記憶クラス」フィールドにも値を入力しなければなりません。

- ストレージ方式 2 を指定した場合、このプロファイルの「光システム ID」フィールドと「記憶クラス」フィールドを空白にしておかなければなりません。

光ディスクからの検索方式

光ディスクに保管されている文書が DASD にコピーされた上で、DASD から表示または印刷されることを指定するには、**1** を入力します。文書を光ディスクから直接、表示または印刷するように指定するには、**2** を入力します。各方式の利点と欠点については、83 ページの『光ディスクからの文書の検索』を参照してください。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

コレクションを作成します。

コレクションの変更

「コレクションの処理」パネルで既存の記憶クラスの横に **2** を入力すると、図 104 に示すパネルが表示されます。このパネルにより、既存のコレクションの定義を変更することができます。

コレクションの変更

コレクション : XXXXXXXX

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

テキスト	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
光ディスクへの記憶	X	Y=YES, N=NO
DASD 上に記憶される日数	XXX	0-999
光ディスク 記憶方式	X	1= コレクション 2= システム割り当て
記憶クラス	XXXXXXXXXX	名前, リストは F4キー
光システム ID	X	
光ディスクからの 検索方式	X	1=DASD へ検索 2= 光ディスクから処理

F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し

図 104. 「コレクションの変更」パネル

コレクションのコピー

「コレクションの処理」パネルで既存のコレクションの横に **3** を入力すると、125 ページの図 105 に示すパネルが表示されます。このパネルで既存のコレクションをコピーし、新しいコレクションを作成することができます。

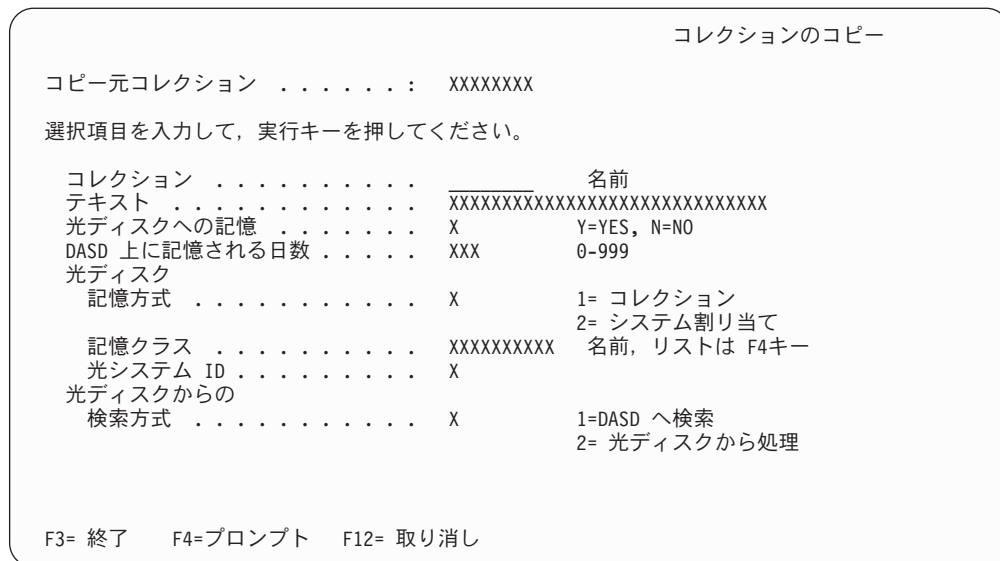


図 105. 「コレクションのコピー」パネル

コレクションの削除

「コレクションの処理」パネルの既存のコレクションの横で **4** を選択すると、図 106 に示すパネルが表示されます。実行キーを押してコレクションの削除を確認するか、または F12 (取消) を押して要求を取り消すことができます。

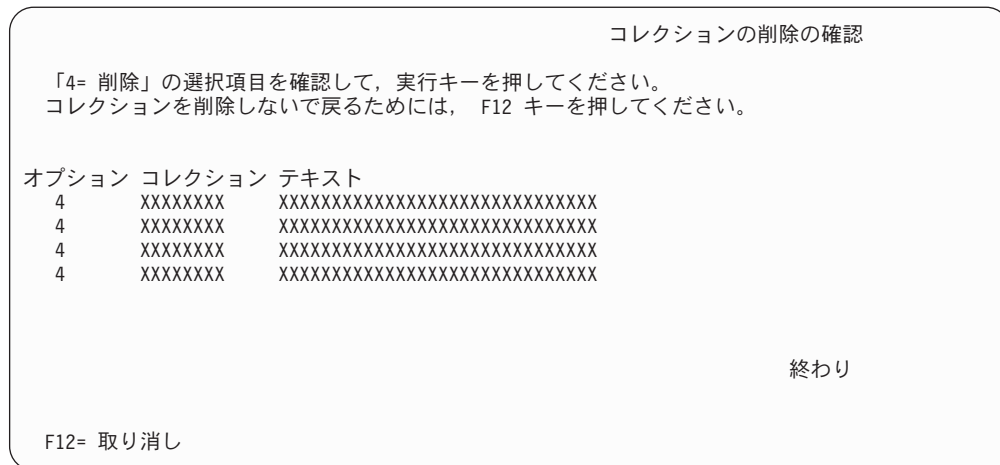


図 106. 「コレクションの削除の確認」パネル

コレクションの表示

「コレクションの処理」パネルの既存のコレクションの横で **5** を選択すると、126 ページの図 107 に示すパネルが表示されます。

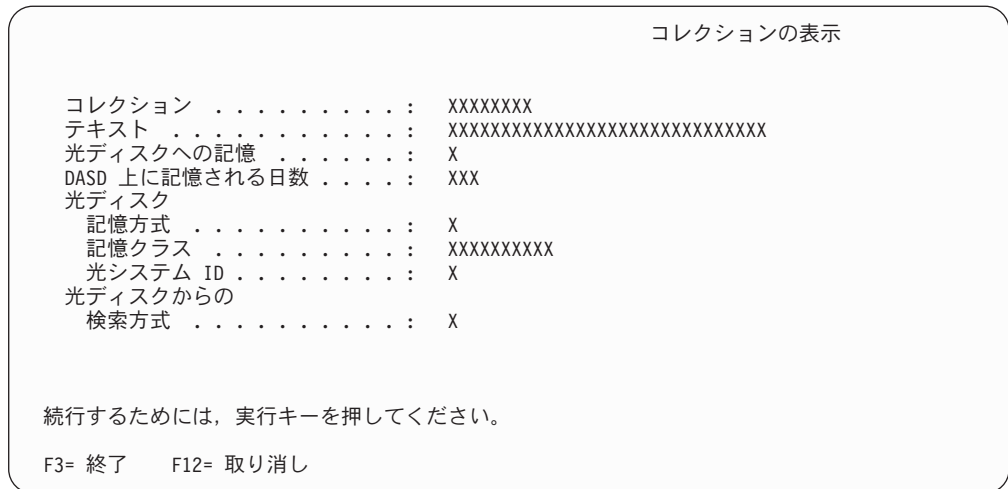


図 107. 「コレクションの表示」パネル

ストレージ管理ジョブの処理

Content Manager for iSeries のストレージ管理ユーティリティーは、iSeries DASD および光ディスク・ストレージ上のオブジェクトの管理に関する機能を提供します。ストレージ管理ジョブは、バックグラウンドで操作するとき、次のようなタスクを行います。

- 光ディスクの配布
- 光ディスクの保管
- 光ディスクの検索
- オブジェクトの削除
- 光ディスクからの対話式検索
- インポート

「ジョブの処理」パネルからストレージ管理ジョブの開始と終了を行う代替の方法として、Content Manager for iSeries は、これらのバックグラウンド・ジョブを処理するためのコマンド・インターフェースを提供します。次のようなコマンドを使用することができます。

表 3. 使用可能なストレージ管理コマンド・インターフェース

コマンド	目的
STROBJDLT	オブジェクトの削除の開始
STRINTRTV	対話式検索の開始
STROPTDST	光ディスクの配布の開始
STROPTRTV	光ディスクの検索の開始
STROPTST	光ディスクの保管の開始
STROBJIMP	オブジェクトのインポートの開始
ENDOBJDLT	オブジェクトの削除の終了
ENDINTRTV	対話式検索の終了
ENDOPTDST	光ディスクの配布の終了
ENDOPTRTV	光ディスクの検索の終了

表 3. 使用可能なストレージ管理コマンド・インターフェース (続き)

コマンド	目的
ENDOPTST	光ディスクの保管の終了
ENDOBJIMP	オブジェクトのインポートの終了

ストレージ管理ジョブによっては、言語特有の設定の変更を使用するレポートを作成するものもあります。言語の設定の変更のデフォルト値の変更については、147ページの『付録 A. 言語固有のデフォルト値の変更』を参照してください。

Content Manager for iSeries のメインメニューで **2** を選択すると、図 108 に示す「ジョブの処理」パネルが表示されます。このパネルには、Content Manager for iSeries のストレージ管理ジョブのリストが表示されます。ユーザーは、このパネルから、ジョブの開始および停止、またはプロセスが実行されているかどうかの判別を行うことができます。

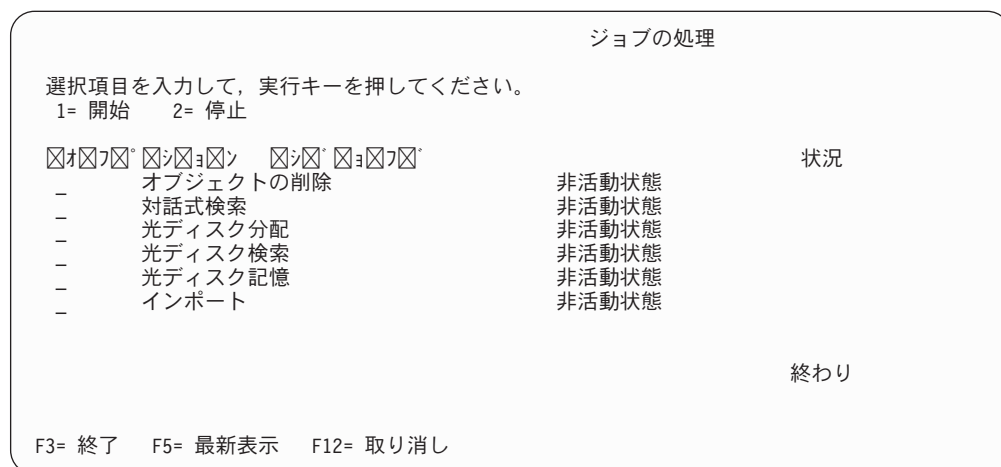


図 108. 「ジョブの処理」メニュー

パネルの定義

1=開始

システム・サービスを開始します。

2=停止

このオプションを使用してジョブを停止します。停止要求が送信されたことを述べるメッセージが表示されます。

ジョブ これは、ジョブの名前であり、以下のいずれかにすることができます。

- オブジェクトの削除
- 対話式検索
- 光ディスク分配
- 光ディスク検索
- 光ディスク記憶
- インポート

状況 ジョブの状況です。値は次のとおりです。

Pending (保留)

ジョブを実行していませんが、実行することになっています。プログラムは、バッチ・ジョブ・キューで待っていることも、あるいは異常終了していることもあります。

Active (活動状態)

ジョブが実行中です。

Not active (非活動状態)

ジョブは実行中ではありません。

Stop pending (保留解除)

ジョブは実行中であり、現行オブジェクトの処理が完了するか、処理プログラムが保留文書を使用すると、そのジョブは停止します。

Start pending (保留開始)

ジョブは実行中ではありませんが、ユーザーが開始パネルにいます。

機能キーの定義

F5 パネルを最新表示して、ストレージ管理ジョブの更新済みの状況を表示します。

Enter (実行キー)

ジョブを開始または停止するためのオプションが処理されます。

オブジェクト削除の処理

この機能は、iSeries DASD から除去が許されているイメージを削除します。図 109 に示されているように、削除処理プログラムは、「インポートプロセスの停止 (Stop delete processes)」オプションを選択するまで、選択された時間間隔で実行します。

コレクション・フィールド「光ディスクへの記憶」を **Y** に設定して保管要求が生成されなかった場合は、文書は、あとでそれを検索する機能がなく、DASD から永久に削除されてしまいます。

オブジェクト削除の開始 (STROBJDLT)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

間隔 _____ 分 (1-99)

終了

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 109. 「オブジェクト削除の開始」パネル

パネルの定義

間隔 1 ~ 99 の数値を入力してください。その時間を変更する場合、削除プロセスがすでに開始していれば、その削除プロセスを停止しなければなりません。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

削除処理プログラムを開始します。

インポート処理

この機能は、Content Manager for iSeries へのオブジェクトのインポートと索引付けを行います。図 110 に示されているように、インポート処理プログラムは、「インポートプロセスの停止 (Stop import processes)」オプションを選択するまで、選択された時間間隔で実行します。

オブジェクト・インポート開始 (STROBJIMP)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

間隔	___	分 (1-99)
要求元の数	___	1-99
インポート情報:			
ファイル	_____	名前, *NONE
ライブラリー	_____	名前, *LIBL
ディレクトリー	_____	
オブジェクトの削除	___	*YES, *NO
	値の続きは+	-	

終り

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 110. 「オブジェクト・インポート開始」パネル

パネルの定義

間隔 1 ~ 99 の数値を入力してください。この時間を変更したい場合、インポート処理が開始されていれば、それを停止する必要があります。

これは必須パラメーターです。

インポート・バッチ・ジョブが開始され、定義されているすべての文書が処理されます。ジョブは、すべての処理を完了すると遅延状態に入ります。このパラメーターでは、インポートするオブジェクトがあるかどうかの確認を行うまでのこのジョブの遅延状態の期間 (分数) を定義します。

要求元の数

これは必須パラメーターです。

定義した各インポート・ディレクトリーに対して開始されるインポート要求プログラムの数を指定します。

重要: 「インポート情報 (OBJINF)」パラメーターの「ファイル」部分が *NONE に設定されている場合は、「要求元の数」フィールドに指定されている値にかかわらず、インポート要求プログラムはディレクトリーごとに 1

つか開始しません。つまり、「要求元の数」フィールドで 1 より大きい値が有効となるのは、「インポート情報 (OBJINF)」フィールドの「ファイル」部分にインポート・ジョブ定義ファイル名を指定した場合だけです。

このパラメーターには、1 ~ 99 までの任意の値を指定できます。**注:** 開始されるバックグラウンド・インポート・ジョブの数は、指定された要求プログラムおよびディレクトリーの数の係数です。たとえば、3 つの要求プログラムを指定し、2 つのディレクトリーを定義して、インポートを実行する場合は、6 つのバックグラウンド・インポート・ジョブが開始されます (1 つ目のディレクトリーに対して 3 つのジョブ、2 つ目のディレクトリーに対して 3 つのジョブ)。下記の「インポート情報 (OBJINF)」項目ごとに 1 つの要求プログラムを開始することをお勧めします。複数の要求プログラムを開始すると、競合問題が発生する可能性があります。

インポート情報 (OBJINF)

これは必須パラメーターです。このパラメーターは、1 つのインポート・ジョブを構成するパラメーターのグループです。次のリストは、インポート・ジョブ定義を表します。ユーザーは最大 10 のインポート・ジョブ定義を入力することができます。

索引付け情報およびインポートするオブジェクトが置かれているディレクトリーの名前が含まれているファイルの修飾名を指定します。

ファイル

有効なファイル値は、以下のとおりです。

名前 ファイルの名前です。EKD0990 ファイル内のフィールドの完全な定義については、153 ページの『付録 C. インポート・ファイル (EKD0990) のフォーマット』を参照してください。

*NONE

索引付けに関するファイルが利用不能であることを示します。指定したディレクトリーのすべてのオブジェクトが IBM Content Manager for iSeries 環境にインポートされ、索引クラス NOINDEX に索引付けされます。

ライブラリー

ライブラリー名です。索引付けに関するファイルが置かれているライブラリーを指定します。そのライブラリー名のみが検索されます。ユーザーには、指定したライブラリーに対する読み取りおよび変更権限が必要です。ファイル・フォーマットは、ライブラリー QVI の EKD0990 のファイル・フォーマットと同じでなければなりません。**警告:** 「ライブラリー」フィールドの値は、このコマンドでは検証されません。ライブラリーが存在しない場合は、エラー・ログにエラーが書き込まれ、インポート・ジョブは遅延待機状態に入ります。インポート・ジョブは、正しいライブラリー名で終了し、再始動しなければなりません。

*LIBL: ライブラリー・リストでデータベース・ファイルの検索が行われます。

*CURLIB: 現行ライブラリーでデータベース・ファイルの検索が行われます。

ディレクトリー

インポート対象のオブジェクトが常駐するディレクトリーの完絶対パスを定義するテキストを、256 文字以内で指定します。

オブジェクトの削除

このファイルを、インポート完了後ただちに現行ディレクトリーから削除するかどうかを、次の値で指定します。

***YES** このファイルは、IBM Content Manager for iSeries ディレクトリーへのインポートが完了した時点で、現行ディレクトリーから削除されます。

***NO** IBM Content Manager for iSeries ディレクトリーへのインポートが完了しても、このファイルは現行ディレクトリーに残ります。**注:** ここで ***NO** を指定し、OBJINF の「ファイル」パラメーターに ***NONE** を指定した場合、正常に処理されたオブジェクトは OBJINF 内の新しいサブディレクトリー (CMIMPSAV) に移動します。インポートに失敗したオブジェクトは元のディレクトリーに残り、次のインポート・サイクル時に再びインポートが試みられます。

必要な権限については、表 4 を参照してください。

権限の要件

表 4 に、OBJINF パラメーターの権限要件をリストします。

表 4. OBJINF パラメーターの権限要件

ファイル	オブジェクトの削除	ディレクトリーの権限	ファイルの権限	コメント
*NONE	*YES	オブジェクトの存在 *R		オブジェクトの処理後にディレクトリー内のオブジェクトを削除できるようにする必要があります。
*NONE	*NO	オブジェクトの存在 *RWX		CMIMPSAV サブディレクトリーを追加し、オブジェクトを CMIMPSAV サブディレクトリーにコピーした後でディレクトリー内のオブジェクトを削除できるようにする必要があります。

表 4. OBJINF パラメーターの権限要件 (続き)

ファイル	オブジェクトの削除	ディレクトリーの権限	ファイルの権限	コメント
指定	*YES	オブジェクトの存在 *R	*READ *UPDATE *DELETE	ディレクトリー内のオブジェクトの読み取りや削除を行ったり、データベース・ファイル内のレコードの読み取り、更新、削除を行ったりできるようにする必要がある。
指定	*NO	*R	*READ *UPDATE *DELETE	ディレクトリー内のオブジェクトの読み取りを行ったり、データベース・ファイル内のレコードの読み取り、更新、削除を行ったりできるようにする必要がある。

オブジェクトのインポート処理エラーの修正

インポート処理プログラムがオブジェクトのインポートの試行中にエラーを受け取った場合、そのエラー・レコードは IBM Content Manager for iSeries のエラー・ログ (EKD0080) に書き込まれます。エラー・レコードはインポート・ファイル内に保存され、インポート対象のオブジェクトはオブジェクト・ディレクトリー内に保持されます。エラーが修正され、インポート処理プログラムが処理を開始すると、オブジェクトはインポートされます。

対話式検索処理

この機能は、2 次 iSeries システムがある場合、または LAN 接続の光ディスクに文書を保管してある場合にだけ、実行されます。

対話式検索プロセスを使用すると、ユーザーは、2 次 iSeries システム、LAN 接続の光ディスク・システム、または 2 次 iSeries に直接接続されている 3995 光ディスク・システムに保管されている文書を即時に検索し、処理する要求を出すことができます。ユーザーがこれらのシステムに保管されている文書に対して特定の機能を実行すると、対話式検索プロセスはバッチ・ジョブを開始します。

対話式検索の終了

133 ページの図 111 に示されたパネルが表示されます。

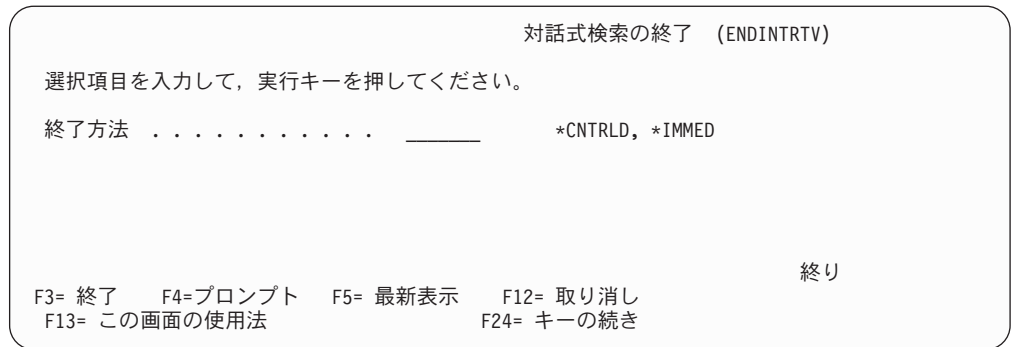


図 111. 「対話式検索の終了」パネル

「終了方法」フィールドに、以下のいずれかの値を指定します。

- 制御された方法で対話式検索プロセスを終了するには、***CNTRLD** を入力します。

既存の対話式検索要求をすべて処理してから対話式検索に関連するバックグラウンド・ジョブを停止したい場合は、この値を指定してください。

- 対話式検索プロセスをただちに終了するには、***IMMED** を入力します。

対話式検索時に問題が発生した場合は、この値を指定してください。たとえば、ユーザーが、バッチ・サブシステムで対話式検索ジョブを異常終了させた場合に、問題が起こるおそれがあります（「iSeries によるアクティブ・ジョブの処理 (AS/400 Work with active jobs)」パネルで対話式検索ジョブの前に 4=End (4=終了) を入力した場合など）。また、対話式検索データ・キューに損傷を与える可能性のある問題もあります。

この値を指定すると、既存の対話式検索要求はすべて削除され、それ以降のすべての対話式検索要求は正常に処理されます。

実行キーを押すと、対話式検索プロセスが停止されます。

ユーザーが対話式検索バッチ・ジョブを開始させるいずれかの機能を実行する場合は、対話式検索プロセスをもう一度停止しなければなりません。ユーザーによって新しい対話式検索要求が実行依頼されるのを防止したい場合は、光ディスク・システム・プロファイルの「対話式検索の活動化」フィールドを N に変更してください。詳細については 97 ページの『光ディスク・システムの定義』を参照してください。

対話式検索処理エラーの修正

ユーザーによって文書の表示または印刷が実行されようとしたときにエラーが発生した場合は、Content Manager for iSeries のエラー・ログ (EKD0080) をチェックしてください。その文書についてエラーがログされている場合は、EKD0080 中の 48 ~ 51 桁目に低位レベルのエラー・コードが入っています。詳しくは、iSeries の資料または iSeries Information Center (<http://publib.boulder.ibm.com/pubs/html/as400/infocenter.html>) を参照してください。

光ディスク記憶要求の配布

光ディスクに保管したい文書が記憶クラスや光ディスク・システム ID と関連付けられていない場合は、光ディスク記憶プロセスを開始する前にこの機能を実行しておく必要があります。光ディスク配布処理プログラムは、記憶クラスおよび光ディ

スク・システム ID に関連付けられていない光ディスク記憶要求を、使用可能な各記憶クラスに配布します。記憶クラス・プロファイルを使用して、配布のために使用できる記憶クラスを指定します。また、使用可能な各記憶クラスに配布できる文書の数も指定します。

たとえば、光ディスク・システム ID の G、H、J、および K を定義して、記憶クラス・プロファイルを次のようにセットアップするとします。

STORAGE CLASS	OPTICAL SYSTEM ID	ACTIVATE FOR DISTRIBUTION	NUMBER OF DOCUMENTS
CLAIMS001	G	Y	3
CLAIMS002	H	N	3
CLAIMS003	J	Y	0
CLAIMS004	K	Y	2

未配布保管要求が 6 件あるとすると、光ディスク配布プロセスを開始するとそれらは次のように配布されます。

STORAGE CLASS	OPTICAL SYSTEM ID	NUMBER OF DOCUMENTS RECEIVED
CLAIMS001	G	4
CLAIMS002	H	0
CLAIMS003	J	0
CLAIMS004	K	2

79 ページの『光ディスクの管理』で説明した手順を用いて記憶クラスと光ディスク・システム ID に文書を関連付けている場合は、文書は、該当する記憶クラスに自動的に配布されるので、この機能を実行する必要はありません。

図 112 に示すパネルを使用して、配布プロセス間の時間間隔を定義します。このプロセスは、光ディスク配布の停止を選択するまで、選択した時間間隔で実行されません。光ディスク配布プロセスは、明示的に開始されたときにしか実行されません。

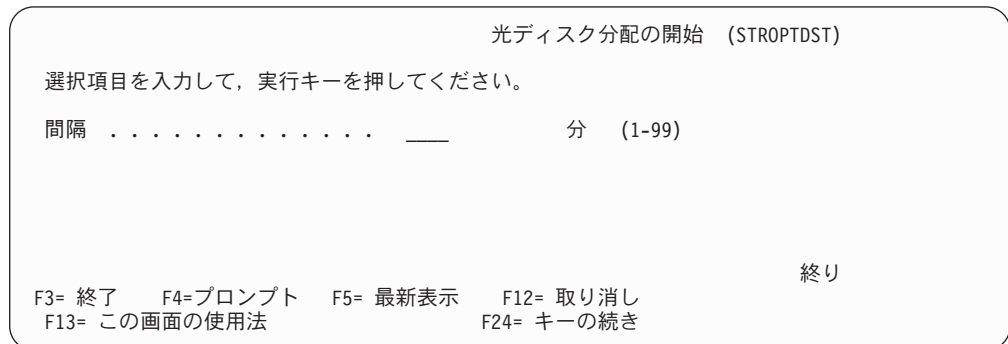


図 112. 「光ディスク分配の開始」パネル

パネルの定義

間隔 1 ~ 99 の数値を入力してください。この時間を変更したい場合、光ディスク配布プロセスが開始していれば、そのプロセスを停止しなければなりません。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

配布プロセスを開始します。

光ディスク配布処理のエラーの修正

「光ディスク分配の開始」オプションを選択した場合、Content Manager for iSeries は、文書正常配布失敗となるエラーをログに記録します。このようなエラーは、Content Manager for iSeries のエラー・ログ (EKD0080) に書き込まれます。このログを調べてエラーの原因を判別してください。エラーを解決したあとで、光ディスク配布プロセスをもう一度開始してください。

光ディスク検索処理

この機能は、DASD から削除された文書を 1 つまたは複数の光ディスク・ドライブから検索します。図 113 に示すように、処理の実行間の時間間隔を指定できるだけでなく、このプロセスの複数のコピーを同時に開始することもできます。光ディスク・バッチ検索処理は、「光ディスク・バッチ記憶検索の停止 (Stop optical batch retrieve)」オプションを選択するまで、選択された時間間隔で実行されます。

光ディスク検索の開始 (STROPTRTV)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

間隔	___	分	(1-99)
要求元の数	___	1-99	

終了

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 113. 「光ディスク検索の開始」パネル

パネルの定義

間隔 1 ~ 99 の数値を入力してください。光ディスク・バッチ検索プロセスがすでに開始されている場合、この時間を変更したいときはそのプロセスを停止しなければなりません。

要求元の数

希望する光ディスク・バッチ検索要求プログラムの数を入力します。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

光ディスク・バッチ検索プロセスを開始します。

光ディスク・バッチ検索処理のエラーの修正

「光ディスク・バッチ検索の開始 (Start optical batch retrieve)」オプションを選択した場合、Content Manager for iSeries は、文書の正常検索失敗となるエラーを記録します。

これらのエラーは、エラー・ログ・ファイル、EKD0080 に書き出されます。

「光ディスク・バッチ検索の停止 (Stop optical batch retrieve)」オプションを選択すると、「光ディスク検索エラー・レポート (Optical Retrieve Error Report)」が生成されます。光ディスク・バッチ検索プロセスが停止したあとで、「Work with iSeries spooled files (iSeries スプール・ファイルの処理)」を用いることによって、このレポートを印刷することができます。このレポートの様式を、図 114 に示します。

エラーを解決後に、光ディスク・バッチ検索プロセスをもう一度開始してください。

SYSTEM ID	DOCUMENT ID	FOLDER	SUBDIRECTORY	DATE	TIME	ERROR CODE
X	XXXXXXXX.XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX.XXX	mm/dd/yyyy	hh:mm:ss	EKD-xxxx xxxx
X	XXXXXXXX.XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX.XXX	mm/dd/yyyy	hh:mm:ss	EKD-xxxx xxxx
X	XXXXXXXX.XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX.XXX	mm/dd/yyyy	hh:mm:ss	EKD-xxxx xxxx
X	XXXXXXXX.XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX.XXX	mm/dd/yyyy	hh:mm:ss	EKD-xxxx xxxx
X	XXXXXXXX.XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX.XXX	mm/dd/yyyy	hh:mm:ss	EKD-xxxx xxxx
X	XXXXXXXX.XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX.XXX	mm/dd/yyyy	hh:mm:ss	EKD-xxxx xxxx
TOTAL ERRORS:		nnnnn				

図 114. 「光ディスク検索エラー・レポート (Optical Retrieve Error Report)」

フィールドの定義

System ID (システム ID)

文書が保管される iSeries システムの ID。

Document ID (文書 ID)

Content Manager for iSeries に入力するときに文書に割り当てられた ID。

Folder (フォルダー)

文書が保管される iSeries のディレクトリーまたは光ディスク・フォルダー。エラー・コードは、文書が保管されているフォルダーを示しています。

Subdirectory (サブディレクトリー)

文書が保管される iSeries または光ディスクのサブディレクトリー (パス)。エラー・コードは、文書が保管されているサブディレクトリーを示しています。

Date (日付)

エラーが発生した日付。

Time (時刻)

エラーが発生した時刻。

Error Code (エラー・コード)

Content Manager for iSeries のリターン・コード、および文書インターフェースまたは通信エラー・リターン・コードを示します。詳しくは、iSeries

の資料または iSeries Information Center
(<http://publib.boulder.ibm.com/pubs/html/as400/infocenter.html>) を参照してくだ
さい。

光ディスク記憶処理

光ディスク記憶処理は、1 つまたは複数の光ディスク・システムに文書を書き出します。

文書が入っている DASD システムから光ディスク記憶プロセスを開始する必要があります。光ディスク記憶プロセスを開始すると、光ディスク記憶要求が処理されます。ただし、この場合、記憶要求が割り当てられている光ディスク・システムの記憶クラス・プロファイルと光ディスク・システム ID プロファイルの両方の「光ディスク記憶の活動化」フィールドが Y に設定されていることが条件です。これらのプロファイルの詳細については、77 ページの『第 5 章 ストレージ管理』を参照してください。

161 ページの図 115 に示すように、このプロセスは一度にいくつも開始することができます。また、各処理間の時間間隔も指定することができます。光ディスク記憶処理は、「光ディスク記憶の停止 (Stop optical store)」オプションを選択するまで、選択された時間間隔で実行されます。光ディスク記憶プロセスは、明示的に開始されたときにしか実行されません。

光ディスク記憶の開始 (STROPTST)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

間隔 _____ 分 (1-99)
要求元の数 _____ 1-99

終り

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 115. 「光ディスク記憶の開始」パネル

パネルの定義

間隔 1 ~ 99 の数値を入力してください。この時間を変更したい場合、光ディスク記憶プロセスが開始されていれば、それを停止しなければなりません。

要求元の数

希望する保管要求プログラムの数を入力してください。

機能キーの定義

Enter (実行キー)

保管プロセスを開始します。

光ディスク記憶処理のエラーの修正

光ディスク記憶の開始を選択したとき、Content Manager for iSeries は、文書の正常保管失敗となるエラーを記録します。

光ディスク記憶の停止を選択したとき、「光ディスク記憶エラー・レポート (Optical Store Error Report)」が生成されます。光ディスク記憶プロセスが停止したあとで iSeries スプール・ファイルを処理することによって、このレポートを表示または印刷することができます。このレポートの様式を、162 ページの図 116 に示します。

```
EKDOLRPT      RUN DATE:   mm/dd/yyyy      OPTICAL STORE ERROR REPORT      PAGE 0001
              RUN TIME:   hh:mm:ss

SYSTEM ID
DOCUMENT ID   FOLDER      SUBDIRECTORY   DATE           TIME           ERROR CODE
-----
X            xxxxxxxx.xxx xxxxxxxx      xxxxxxxx.xxx  mm/dd/yyyy    hh:mm:ss      EKD-xxxx xxxx
X            xxxxxxxx.xxx xxxxxxxx      xxxxxxxx.xxx  mm/dd/yyyy    hh:mm:ss      EKD-xxxx xxxx
X            xxxxxxxx.xxx xxxxxxxx      xxxxxxxx.xxx  mm/dd/yyyy    hh:mm:ss      EKD-xxxx xxxx
X            xxxxxxxx.xxx xxxxxxxx      xxxxxxxx.xxx  mm/dd/yyyy    hh:mm:ss      EKD-xxxx xxxx
X            xxxxxxxx.xxx xxxxxxxx      xxxxxxxx.xxx  mm/dd/yyyy    hh:mm:ss      EKD-xxxx xxxx
X            xxxxxxxx.xxx xxxxxxxx      xxxxxxxx.xxx  mm/dd/yyyy    hh:mm:ss      EKD-xxxx xxxx

              TOTAL ERRORS:   nnnnn
```

図 116. 「光ディスク記憶エラー・レポート (Optical Store Error Report)」

フィールドの定義

System ID (システム ID)

文書が保管される iSeries システムの ID。

Document ID (文書 ID)

Content Manager for iSeries に入力するときに文書に割り当てられた ID。

Folder (フォルダー)

文書が保管される iSeries のディレクトリーまたは光ディスク・フォルダー。エラー・コードは、文書が保管されているフォルダーを示しています。

Subdirectory (サブディレクトリー)

文書が保管される iSeries または光ディスクのサブディレクトリー (パス)。エラー・コードは、文書が保管されているサブディレクトリーを示しています。

Date (日付)

エラーが発生した日付。

Time (時刻)

エラーが発生した時刻。

Error Code (エラー・コード)

Content Manager for iSeries のリターン・コード、および文書インターフェースまたは通信エラー・リターン・コードを示します。詳しくは、iSeries の資料または iSeries Information Center (<http://publib.boulder.ibm.com/pubs/html/as400/infocenter.html>) を参照してください。

第 6 章 データベース・ユーティリティー

Content Manager for iSeries のメインメニューから、図 117 に示された「データベース・ユーティリティー」メニューを表示するために、**3** を選択してください。このオプションを用いると、保留されている作業バスケットや、文書、作業バスケット、ワーク・マネージメント・プロファイルなどに対するロックを解除したり、ある光ディスク・システムから別の光ディスク・システムにプラッターを移動したりすることができます。

解除処理は 1 次プロセッサでだけ実行することができます。

CMDDBU データベース・ユーティリティー

次の 1 つを選択してください。

- 1. 項目ロックの解除
- 2. 作業パッケージ・ロックの解除
- 3. ワークフロー・プロファイル・ロックの解除
- 4. 保留中項目の解除
- 5. 光ディスクの移動

選択項目またはコマンド
====> _____

F3= 終了 F4= プロンプト F9=コマンドの複写 F12= 取り消し
F13= ユーザー・サポート F16= 初期メニューのセット

図 117. 「データベース・ユーティリティー」メニュー

項目のロックの解除

iSeries システムまたは個々のワークステーションが故障して、障害発生時にロックされた項目がある場合には、消去されなかった項目のロックを解除するために、**1** を選択してください。項目ロックの目的は、2 人のユーザーが同じ項目を同時に更新しないようにすることです。別のユーザーがその項目を使用していることを示すメッセージがユーザーに出されます。ロックされた項目は、「項目ロック解除」機能を実行するまで、使用することができません。

このオプションを選択すると、140 ページの図 118 にパネルが表示されます。すべてのユーザーの項目ロックを解除したい場合は、システム上にユーザーがないことを確認してください。

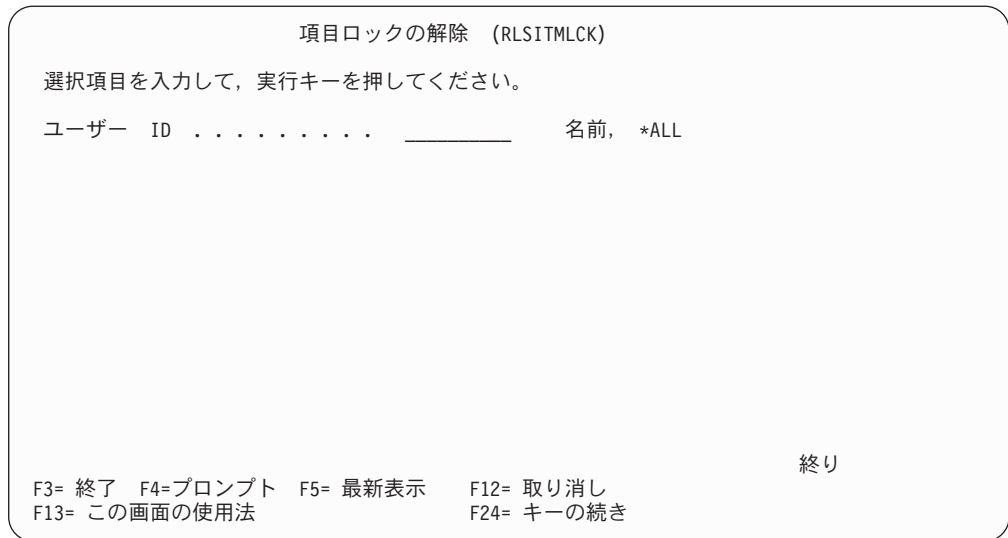


図 118. 「項目ロックの解除」パネル

パネルの定義

ユーザー ID

ユーザーによってロックされたすべての項目を解除するときは、1 ~ 10 文字の英数字のユーザー ID を指定します。システムによってロックされたすべての項目を解除するときは、***ALL** を指定します。

機能キーの定義

実行キー

要求が処理されます。

この機能が完了すると、メッセージが表示されます。

作業バスケット・ロックの解除

システムの故障または個々のワークステーションの故障中に実行されていた作業バスケットを回復させるときは、**2** を選択してください。これらの作業バスケットは中断されていると見なされ、このオプションが実行されるまでは使用することができません。

指定したユーザーがシステムからログオフしていない限り、このオプションは実行しないでください。「ユーザー ID」パラメーターにデフォルト値の ***ALL** を使用すると、すべてのユーザーがシステムからログオフされます。ユーザーが作業バスケットを処理しているときにシステム管理者がこのオプションを実行すると、ユーザーは、その作業バスケットを取り出した元のワーク・バスケットにそれを戻すことができなくなります。ユーザーは再割り当てを使用したり、作業バスケットから終了するアクションを継続したりすることができますが、このオプションを実行する場合は、「ユーザー ID」パラメーターに指定したユーザーがログオフしていることを必ず確認するようにしてください。

このオプションを選択したときに表示されるパネルはありません。

ワーク・マネージメント・プロファイルのロックの解除

iSeries システムまたは個々のワークステーションが故障して、障害発生時にプロファイルがロックされている場合には、消去されなかったすべてのワーク・バスケット・プロファイルのロックを解除するために、**3** を選択してください。プロファイル・ロックは、2 人のユーザーが同じプロファイルを同時に更新しないようにするものです。

このオプションを選択したときに表示されるパネルはありません。

保留状態の項目の保留解除

保留条件に該当するすべての項目の保留を解除するプロセスを開始したい場合には **4** を選択してください。この機能により、プロセスのコレクション・ポイントで待機している作業バスケットの保留が解除されます。保留状態の作業バスケットは、コレクション・ポイント定義に指定された最大待機日数が経過すると保留は解除され、コレクション・ポイント定義に指定された例外経路に送られます。

このオプションは、中断が実行されたことによって保留状態になった作業バスケットの有効期限付き保留条件がすべて満たされたときに保留を解除するオプションです。

このプロセスは定期的に行うようにしてください。

このオプションを選択したときに表示されるパネルはありません。

光ディスク・プラッタの移動

Content Manager for iSeries は、1 つの光ディスク・システムから別の光ディスク・システムにプラッターを移動させます。このためには、「データベース・ユーティリティ」メニューで **5** を選択してください。142 ページの図 119 に示されたパネルが表示されます。

独立型のドライブからプラッターを移動する場合は、プラッター移動機能を 2 回実行 (各面について 1 回ずつ) する必要があります。最初のボリュームに対してこの機能を実行した後、プラッターを取り出して、裏返しにしてドライブに入れ直し、この機能をもう一度実行してください。

消去可能な光ディスク・システムから WORM (1 度だけの書き込み/読み取り複数回) 光ディスク・システム (あるいはその逆) にプラッターを移動することはできません。

LAN 接続の 3995 から直接接続の 3995 に (またはその逆に)、ASCII または EBCDIC として初期設定されたボリューム ID を移動することができます。

3995 光ディスクでは、ボリューム ID を ASCII または EBCDIC として初期設定することができます。再書き込み可能なプラッターを直接接続の 3995 で使用するためには、LAN 接続の 3995 で WORM としてフォーマットしておく必要があります。

直接接続の 3995 光ディスク・ライブラリー内のプラッターの名前を変更し、そのプラッターを LAN 接続の 3995 光ディスク・ライブラリーに移動した場合、LAN 接続のライブラリーは、そのプラッターについては元の名前を使用します。LAN 接続の 3995 光ディスク・ライブラリー内のプラッターの名前を変更し、そのプラッターを直接接続の 3995 光ディスク・ライブラリーに移動した場合、直接接続のライブラリーでは、移動の前にそのプラッターに割り当てられた新しい名前を使用します。

光ディスク・プラッターを、直接接続された光ディスク・ライブラリーから同じ iSeries システムの別の直接接続された光ディスク・ライブラリーに移動したい場合は、この機能は必要ありません。これを行うには、光ディスク・ソフトウェアを使用して、光ディスク・ライブラリーからプラッターを取り出して、他のライブラリーに追加してください。

この機能を実行する前に、次のことを行ってください。

- プラッターがオンラインになっていることを確認する。
- 「**移動先光システム ID**」フィールドの値に関連する記憶クラス・プロファイルが、システム上で定義されていることを確認する。

プラッターが記憶クラス・プロファイルで現行ボリュームとして参照されている場合は、それを移動しないでください。プラッターがいっぱいになれば、移動することができます。

ある光ディスク・システムから別の光ディスク・システムへプラッターを移動するときは、図 119 に示す初期パネルを完成し、実行キーを押してフィールドの続きを表示します。

EKD31201	移動する光ディスクの指定
情報を入力して、実行キーを押してください。	
移動元光システム ID	_ リストは F4キー
移動先光システム ID	_ リストは F4キー
ボリューム ID	_____
反対側のボリューム ID	_____
完了時の論理ファイルの削除	N Y=YES, N=NO
9402/5353 パスワード	_____
F1= ヘルプ F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し	

図 119. 光ディスク・プラッターの移動

パネルの定義

移動元光システム ID

移動されるプラッターが現在置かれている光ディスク・システムの 1 文字の ID を入力するか、または F4 を押して光ディスク・システムの ID のリストを表示し、選択します。

移動先光システム ID

プラッターが移動される先の光ディスク・システムの 1 文字の ID を入力するか、または F4 を押して光ディスク・システムの ID のリストを表示し、選択します。

ボリューム ID

移動されるプラッターの 6 文字のボリューム ID を入力します。

反対側のボリューム ID

いま指定したボリュームの反対側にある 6 文字のボリューム ID を入力します。ボリュームが光ディスク・ライブラリーにある場合は、実行キーを押すと、システムによってこのフィールドに値が入られます。ボリュームが独立型のドライブにある場合は、このフィールドはブランクにしておきます。

完了時の論理ファイルの削除

プラッターをある光ディスク・システムから別の光ディスク・システムに移動すると、論理ファイルが作成されます。このファイルは、プラッターの移動操作時にだけ必要とされます。

光ディスク移動機能が正常に終了した場合は、**Y** と入力して、この論理ファイルを削除します。論理ファイルを削除すれば、プラッター移動機能を実行するたびに論理ファイルが再作成されます。**N** と入力すると、論理ファイルが保管されます。プラッター移動機能を頻繁に使用する場合は、**N** を指定すれば、この機能を使用するたびに、システムが論理ファイルを作成し直すのを待つ必要がなくなります。デフォルト値は **N** です。

9402/5353 パスワード

セキュリティ上の保護が行われている、LAN 接続の 9402/5353 光ディスク・システムからプラッターを移動する場合にだけ、4 文字の英数字のパスワードを入力します。それ以外の場合は、このフィールドをブランクのままにしておいてください。

機能キーの定義

実行キー

フィールドの続きが 図 120 に示すパネルに表示されます。

EKD31203	移動する光ディスクの指定
情報を入力して、実行キーを押してください。	
移動元記憶クラス	XXXXXXXXXX
移動元光システム ID	X
移動先記憶クラス	XXXXXXXXXX リストは F4キー
移動先光システム ID	Y
F1= ヘルプ F3= 終了 F4=プロンプト F12= 取り消し	

図 120. 「光ディスク・プラッターの移動」 - (続き) (EKD31203)

パネルの定義

移動元記憶クラス

初期パネルで入力したボリューム ID と関連する記憶クラス。

移動元光システム ID

初期パネルの「移動元光システム ID」フィールドに入力した値です。

移動先記憶クラス

移動する光ディスクに関連付けたい記憶クラスの 10 文字の英数字名を入力するか、または F4 を押して、前に「移動先光システム ID」フィールドでそのシステムに対して定義した記憶クラスのリストを表示し、そこから選択します。「移動元記憶クラス」フィールドが *NONE のときだけ、このフィールドに *NONE を入力することができます。

移動先光システム ID

初期パネルの「移動先光システム ID」フィールドに入力した値です。

機能キーの定義

実行キー

図 121 に示す「プラッター移動の確認」パネルが表示されます。

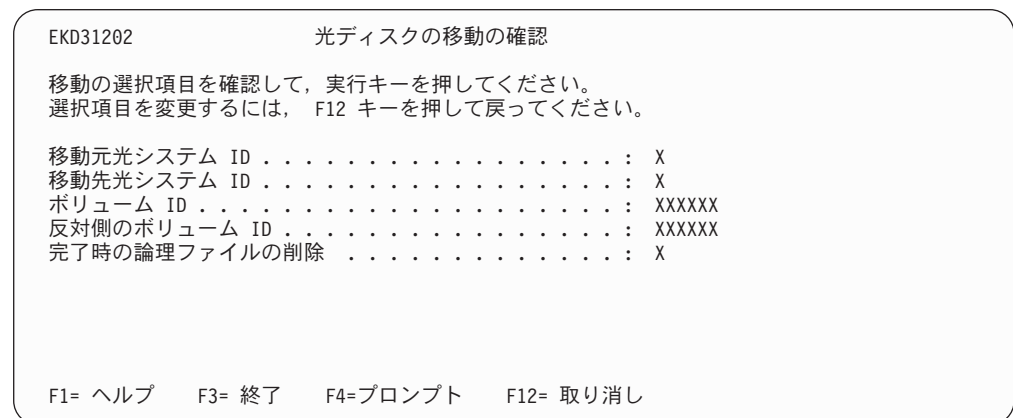


図 121. 「光ディスク・プラッターの移動の確認」(EKD31202)

パネルの定義

移動元光システム ID

初期パネルで入力した「移動元光システム ID」が表示されます。

移動先光システム ID

初期パネルで入力した「移動先光システム ID」が表示されます。

ボリューム ID

初期パネルで入力した「ボリューム ID」が表示されます。

反対側のボリューム ID

初期パネルで入力した「反対側のボリューム ID」が表示されます。

完了時の論理ファイルの削除

初期パネルで入力した値が表示されます。

機能キーの定義

実行キー

移動要求を処理し、移動が正常に行われたことを示すメッセージを付けて、「移動する光ディスクの指定」パネルが表示されます。

プラッター移動機能の実行が終了後、現行の光ディスク・システムからプラッターを取り出し、移動先の光ディスク・システムに挿入し、ユーザーがそのプラッターに保管されている文書を検索できるようにします。

付録 A. 言語固有のデフォルト値の変更

ご使用の Content Manager for iSeries のデータベースにインストールされた EKDNLSPRF には、iSeries システムで実行されるプロダクト機能での使用にあわせて、日付形式やデータ区切り符号など、言語固有の設定の変更が含まれています。インストール時に、ファイルには、iSeries システムの地域コードに基づいたデフォルト値が割り当てられます。

Content Manager for iSeries のシステム管理タスクに使用される、言語の設定変更フィールドがいくつかあります。たとえば、光ディスク記憶レポートで、日付形式や区切り符号が使用されます。

EKDNLSPRF にあるデフォルトを変更する必要があるときは、iSeries データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) を使用し、表 5 に示される概略にそって、Content Manager for iSeries システム管理者のレコードを更新します。

表 5. 言語の設定変更フィールド

フィールド	有効な値または例	目的
日付形式	1 = 日 2 = 月 3 = 年	日、月、および年を表示する順序 (たとえば、321)
年の桁	2 = 末尾の 2 桁のみ 4 = 4 桁すべて	年の桁数
日付の区切り符号	/ - .	日付区切り符号として使用する文字
時刻形式	0 = 12 時間時計 1 = 24 時間時計	12 時間または 24 時間時計の表示
時刻の区切り符号	: . ,	時刻の区切り符号として使用する文字
千単位区切り符号	(スペース) ,	数字を千単位に区切る符号

付録 B. 1 次および 2 次言語環境に関する Content Manager for iSeries ライブラリーの設定

1 次言語環境または 2 次言語環境の設定方法の詳細を以下に記載します。推奨される設定手順の概要は、次のとおりです。

1. 索引クラス、キー・フィールド属性、およびアクション・リストのプロファイルを、(ライブラリー・リストの 2 次言語ライブラリーではなく) 1 次言語に基づいて作成します。
2. ユーザー言語ライブラリー (QUSRVI29xx) を作成します。
3. ライブラリー・リストに、QSYS29xx を追加します。
4. 150 ページの表 7 に記載されている QSYS29xx 内のオブジェクト・ファイルの複製を、ユーザー言語ライブラリー (QUSRVI29xx) に作成します。
5. *ADD 関数を使用して、1 次ユーザー・ライブラリーのすべての新規レコードをユーザー言語ライブラリー (QUSRVI29xx) にコピーします。
6. QSYS29xx 内で、150 ページの表 6 と 150 ページの表 7 に記載されている EKD0xxx ファイルの名前を、それぞれ MRI0xxx に変更します。**注:** QSYS29xx には、Content Manager for iSeries のディスプレイ・ファイルも含まれています。それらのディスプレイ・ファイル名は変更しないでください。名前変更が必要なのは、すべての物理ファイルとそれらに関連する論理ファイルだけです。
7. 保守作業中、キー・フィールド属性、アクション・リスト、索引クラスを作成または変更するたびに、その変更内容をユーザー言語ライブラリー (QUSRVI29xx) のレコードに反映させる必要があります。
8. ライブラリー・リストを次のように設定し、2 次言語のユーザーが参照するためのジョブ記述 (QVIJOB29xx) を作成します。
 - QSYS29xx
 - QUSRVI29xx
 - QUSRVI
 - QVI
9. 前のステップで作成したジョブ記述を使用して、リスナー・ジョブ QVITCP29xx を所有するユーザー ID を作成します。
10. 作成した 2 次言語ユーザー ID (QVITCP29xx) を使用して、リスナー・ジョブを開始します。

1 次言語環境

Content Manager for iSeries のライブラリー構造は、次の 2 つの 1 次ライブラリーから成り立ちます。

- QUSRVI (または、作業データ・ライブラリー用に選択した任意の名前)
- QVI

これらのライブラリーをライブラリー・リストに指定する順序は非常に重要で、QUSRVI を最初に入力する必要があります。作業データ・ライブラリー (QUSRVI) を最初に記述することにより、このライブラリーに定義されているデータ・ファイルが確実に更新されます。QVI に定義されているファイルは、システムをアップグレードするたびに置換されるので、これらのファイルが製品データによって更新されることのないようにしなければなりません。また、複数の別個の環境が必要となった場合には、QVI のファイルを使用して、いつでもそれらの環境を作成できます。(たとえば、実動システムとは別にテスト・システムを構築することができます。)

2 次言語環境

2 次言語環境のインストールを選択した場合は、ライブラリー・リストに別のライブラリーを追加する必要があります。追加するライブラリー名は、QSYS29xx (xx は使用する言語のフィーチャー・コード) です。QSYS29xx ライブラリーには、Content Manager for iSeries 製品にとって言語固有と見なされる Content Manager for iSeries ファイルのサブセットが含まれます。これらのファイルの大半は、プロファイルの管理処理中に使用されるもので、変換可能なデータがエンド・ユーザーに表示されることは一切ありません。

表 6 と表 7 に、これらのファイルを示します。いずれのファイルも、ユーザーのライブラリー・リストの QSYS29xx を使用して Content Manager for iSeries の何らかの処理を実行する前に、名前変更を行う必要があります。管理機能については、すべて 1 次言語で処理することを推奨します。

表 6. 管理者のみが参照できる変換可能データを含むファイルのリスト

ファイル	ファイルの説明
EKDNLS	Content Manager for iSeries では使用されないファイル
EKDNLSLNG	Content Manager for iSeries では使用されないファイル
EKD0122	ファイル・システムのリスト
EKD0745	アクション・リストのリスト
EKD0860	特権セットのリスト
EKD0861	特権セットの詳細

表 7. エンド・ユーザーが参照できる可視データを含むファイルのリスト

ファイル	ファイルの説明
EKD0321	キー・フィールド属性とその説明のリスト
EKD0322	索引クラスとその説明のリスト
EKD0325	拡張検索用の演算子のリスト
EKD0746	アクション・リストと説明

キー・フィールド属性、索引クラス、アクション・リストは、(ライブラリー・リストの QSYS29xx ライブラリーではなく) 1 次言語によって作成および変更することを推奨します。これらのプロファイルまたは属性の定義が済み次第、各 2 次言語ごとに言語ライブラリーを作成できます。(たとえば、フィーチャー・コード 2924 用の 2 次言語ライブラリーとして、QUSRVI2924 を作成することができます。)

150 ページの表 7 に記載したファイルは、使用するデータ・ファイル・ライブラリー (QUSRVI) から QUSRVI29xx ライブラリーにコピーする必要があります。これらのファイルは、管理者が DFU 機能を使って変換し、各レコードを変更してください。2 次言語のファイルと 1 次言語との同期を維持しておくことは、管理者の責務となります (たとえば、あるフィールドが 1 次言語で変更された場合、そのファイルは各 2 次言語でも変更されなければなりません)。管理者は、初回のセットアップ時にはデフォルトのアクション・リスト、索引クラス、および属性を QSYS29xx 内のファイルからコピーして、変換作業が最小限で済むようにしておくことを推奨します。

ライブラリー・リストに QSYS29xx を追加する場合は、QUSRVI29xx も追加する必要があります。それにより、エンド・ユーザーがデータを参照すると、情報が適切な言語で表示されます。

付録 C. インポート・ファイル (EKD0990) のフォーマット

インポート・ファイル (EKD0990) には任意の名前を付けることができます。ただし、メンバーの名前は EKD0990 で、フィールドは正確にマップしなければなりません。新しいファイルを作成する場合は、クエリーより「複製オブジェクト作成」コマンド (CRTDUPOBJ) を使用して、付属の EKD0990 から選択した名前にコピーします。また、データベース・ライブラリー内の既存の EKD0990 ファイルを使用することもできます。QVI でファイルを処理しないでください。

複数のインポート・ジョブを開始するには、まず複数の EKD0990 ファイルを (固有の名前で) 作成し、OBJINF フィールドを使用して STROBJIMP コマンドで各ファイルを定義します。1 つのディレクトリーを複数のファイルで共用することは可能ですが、2 つのファイルで同じオブジェクトを定義したり、インポート・プロセッサ間で競合が発生したりしないようにしてください。

オブジェクト情報データベース・ファイルで使用するフィールド

表 8. オブジェクト情報データベース・ファイルで使用するフィールド

フィールド	必須	説明
DOCNAME	Y	オブジェクト (ファイル) 名。このレコード内の情報に使用するディレクトリー内のファイルの名前を指定します。ファイル拡張子を含め、最大 20 文字まで指定できます。
CONCLASS	Y	オブジェクトのコンテンツ・クラス。このフィールドは、EKD0318 のフィールド CCVAL に定義されている値と一致しなければなりません。
INXNAME	Y	索引クラス名。 大文字 で指定しなければなりません。
INXKEY1	N	指定された索引クラスのキー 1 に割り当てなければならない値。
INXKEY2	N	指定された索引クラスのキー 2 に割り当てなければならない値。
INXKEY3	N	指定された索引クラスのキー 3 に割り当てなければならない値。
INXKEY4	N	指定された索引クラスのキー 4 に割り当てなければならない値。
INXKEY5	N	指定された索引クラスのキー 5 に割り当てなければならない値。
INXDEY6	N	指定された索引クラスのキー 6 に割り当てなければならない値。
INXKEY7	N	指定された索引クラスのキー 7 に割り当てなければならない値。

表 8. オブジェクト情報データベース・ファイルで使用するフィールド (続き)

フィールド	必須	説明
INXKEY8	N	指定された索引クラスのキー 8 に割り当てなければならない値。
PROCNAME	N	プロセス名 (大文字小文字の区別があり、EKD0700 ファイルで定義されている値と正確に一致しなければなりません)。この項目を割り当てるプロセス名を指定します。プロセス名として *ADHOC を指定することもできます。指定しないと、項目はプロセスに挿入されません。
WBNAME	N	大文字のワーク・バスケット名。この項目を挿入するワーク・バスケットの名前を指定します。ワーク・バスケット名を指定する場合は、PROCNAME フィールドにプロセス名も指定しなければなりません。ワーク・バスケット名とプロセス名を指定しないと、項目はワーク・バスケットに挿入されません。
SETUPTIME	不可	作成日付/時刻。項目の作成日時および前回の更新日時として使用する日付および時刻を YYYYMMDDhhmmss 形式で指定します。 YYYY 4 桁の西暦。 MM 2 桁の月。 DD 2 桁の日付。 hh 2 桁の時間 (24 時間形式)。 mm 2 桁の分。 ss 2 桁の秒。 指定しない場合、または数字以外の文字が含まれている場合は、項目がインポートされた現在の日付/時刻が使用されます。
CRTUSERID	N	作成者のユーザー ID。オブジェクトの作成者と見なすユーザーのユーザー ID を指定します。指定しない場合は、インポート・バッチ・ジョブで使用しているユーザー ID (バッチ・インポート・ジョブを開始したユーザー) が使用されます。このフィールドの値は検証されません。

バッチ・インポート・ジョブは (CM メニューまたは STROBJIMP コマンドのいずれかを介して) バッチ・インポート・ジョブを開始したユーザー・プロファイル下で実行されます。ユーザー・プロファイルでは、環境のグループ・プロファイル (デフォルト環境 QUSRVI の場合は QVIGROUP) がグループ・プロファイルとして割り当てられ、インポートされたオブジェクトを環境内の他のユーザーも処理できるように OWNER が *GRPPRF に設定されている必要があります。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J74/G4
555 Bailey Avenue
P.O. Box 49023
San Jose, CA 95161-9023
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを

経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM	
APPN	Operating System/2 (OS/2)
Advanced Peer-to-Peer Networking (APPN)	Operating System/400
Application System/400	OS/2
AS/400	OS/400
CICS	Redbooks
iSeries	

Lotus および 1-2-3 は、IBM Corporation の商標です。

Pentium は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。(Intel の商標の完全なリストについては、www.intel.com/sites/jp/tradmarx.htm を参照してください。)

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

用語集

この用語集では、本書および製品文書ライブラリーで使用される用語および省略語を定義します。ここにない用語もしくは省略語については、「*IBM コンピューティング辞典*」(ZZ88-0118-09)を参照してください。

この用語集では、次のような参照用語を使用しています。

- **対比** 反対の意味または実質的に異なる意味を持つ用語を参照することを示す。
- **参照** この用語が含まれている複合語を参照することを示す。
- **も参照** 同義ではないが、関連した意味を持つ用語を参照することを示す。
- **と同義** その用語と同じ意味で、それよりも望ましい用語が本用語集の中にあることを示す。

[ア行]

アウトバウンド (outbound). アプリケーション・プログラムから装置への伝送に関する用語。インバウンド (*inbound*) と対比。

アクション・リスト (action list). ユーザーがワーク・バスケットの項目の処理時に実行できるアクションをまとめた承認リスト。このリストはスーパーバイザーが定義する。

アクセス・リスト (access list). 1 つまたは複数の個々のユーザー ID またはユーザー・グループ、および各自のユーザー ID またはユーザー・グループに関連する特権セット からなるリスト。アクセス・リストは、Content Manager for iSeries で項目へのユーザー・アクセスを制御するために使用される。アクセス・リストは、索引クラス、ワーク・バスケット、およびプロセスに関連付けることができる。

後入れ先出し法 (LIFO) (last in first out (LIFO)). キュー手法の 1 つ。最後にキューに入れられた項目が次に取り出される。

アプリケーション・プログラマー (application programmer). ユーザーのシステムのプログラミング・システムやその他のアプリケーションを設計するプログラマー。

アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) (Application Program Interface (API)). IBM システム制御プログラムまたはライセンス・プログラムとそのユーザーの間で正式に定義されたプログラミング言語インターフェース。

イメージ (image). (1) 1 ページの情報、つまり 1 枚の用紙をスキャンまたはデジタル化した結果。(2) ピクチャーから発したあるいは反射した光、音、電子放射、またはその他の放射を感知して生成したピクチャーの電子的表現。イメージは、既存のピクチャーを参照せずに、ソフトウェアで直接生成することもできる。ページ・イメージ (*page image*) も参照。

イメージ・オブジェクト・コンテンツ・アーキテクチャー (IOCA) (Image Object Content Architecture (IOCA)). イメージの交換と提供に使用される構成の構造化された 1 つの集合体。

イメージ・データ (image data). イメージを定義するラスタ情報の長方形配列。イメージ・データは、初めは処理をスキャンすることによって作成されることがある。

イメージ・ホスト (image host). スキャンされてインポートされた文書が永続的に保管されるシステム。光ディスク・ライブラリー・サブシステム (*optical library subsystem*) も参照。

イメージ・ワークステーション (image workstation). イメージ機能を実行できるプログラム式ワークステーション。

インスタンス (instance). プロセス内で作業パッケージが作成されること。プロセスが並列の経路から構成されているときは、1 つの作業パッケージについて複数インスタンスが存在する。

インバウンド (inbound). 外部情報源からアプリケーション・プログラムへの方向に流れる通信に関する用語。たとえば、端末からアプリケーション・プログラムへの伝送。アウトバウンド (*outbound*) と対比。

インポート (importing). ファイルを使用して文書が iSeries に入力される処理。ただし、スキャン処理は除く。インポートされた文書は、DASD および光ディスク上にある Content Manager for iSeries に記憶しておき、スキャンされた文書と同様に、表示、印刷することができる。

エクスポート (export). データを、システム・フォルダーにある文書からファイルに書き込むために使用されるプロセス。エクスポート・プロセスおよびインポート・プロセスは、システム間で文書を転送するために使用することができる。

オブジェクト (object). (1) 処置が実行される項目。

単一の名前で参照されるデータの集合。

システム内の最小単位。Content Manager for iSeries システムの場合、これは通常、単一のイメージ文書である。(2) オブジェクト・サーバーに保管される 2 進データのエンティティー。Content Manager for iSeries データ・モデルの場合には、オブジェクト は特に、文書の内容または部分を指す。

オブジェクト権限 (object authority). オブジェクトを使用または制御する権限。

オブジェクト・サーバー (object server). クライアント・アプリケーションが保管し、アクセスするオブジェクトまたは情報を物理的に保管する IBM Content Manager for iSeries のコンポーネント。

オブジェクト・ディレクトリー (object directory). イメージ文書保管に使用される iSeries オブジェクト・ディレクトリーを識別するために Content Manager for iSeries で用いられる制御ファイル。

オペレーター (operator). 日常的なシステム管理用タスクを処理する要員。

[力行]

カートリッジ (cartridge). (1) 磁気テープ、繰り出しリール、および巻き取りリールからなる記憶装置。保護カバーに入っている。(2) 光ディスク記憶の場合、光ディスクを収めて保護するプラスチック・ケース。光ディスク装置に挿入することができる。光ディスク (optical disk) およびカートリッジ保管スロット (cartridge storage slots) も参照。

カートリッジ保管スロット (cartridge storage slots). カートリッジが保管される光ディスク・ライブラリー内の域。

解像度 (resolution). コンピューター・グラフィックスにおいて、イメージの鮮明度の尺度。表示画面上の行および列の数、あるいは単位面積当たりのペルの数で表される。

回転 (rotate). 文書表示ウィンドウおよびスキャン文書表示ウィンドウの機能。方向付けは選択されたオプションに応じて決まる。

拡張対等通信ネットワーク機能 (APPN) (Advanced Peer-to-Peer Networking (APPN)). 直接は接続されていない複数の APPC システム間のネットワーク内でデータを経路指定するデータ通信サポート。

拡張プログラム間通信機能 (APPC) (Advanced Program-to-Program Communications (APPC)).

iSeries システム上のプログラムが互換性のある通信サポートをもつ他のシステムと通信できるようにするためのデータ通信サポート。この通信サポートは、SNA LU セッション・タイプ 6.2 プロトコルを使用する iSeries の通信手段である。

カスタマイズ (customization). データ処理インストール・システムまたはネットワークを特定のユーザーの要件に合わせて設計すること。

各国語サポート (NLS) (national language support (NLS)). 別の言語または別の地域の要件を満たすためになされる、米国英語プロダクトの修正または変換。ここでは、プロダクトの使用可能化または改良のほかに、プロダクトのノーメンクレチャー、MRI、またはプロダクト関係文書の翻訳が含まれている。

管理者 (administrator). システム管理、制御、セキュリティ、さらにケースの統計、などの責務にある担当者。システム管理者と同義。

キーワード (keyword). パラメーターを識別する名前または記号。

キー・フィールド (key field). その項目に関する情報のタイプを表す項目の属性。たとえば、顧客データ項目では、顧客の名前や社会保障番号をキー・フィールドにすることができる。

記憶クラス (storage class). 記憶クラスは光ディスク・システム ID と組み合わせて、文書を保管できる光ディスク・ボリュームのセットを定義する。同じ記憶クラスと光ディスク・システム ID を持つ文書は、同じ光ディスク・ボリュームに保管される。

グループ III (Group III). 国際電信電話諮問委員会 (CCITT) によって公表された規格に準拠した圧縮アルゴリズム。

経路 (route). ワーク・バスケット、コレクション・ポイント、および決定ポイントの間で作業バスケットを移動する一連のステップ。

決定ポイント (decision point). (1) 各作業パッケージにある特定の情報に応じて、作業パッケージの現行経路を続行するか、代替経路に切り替えるかを決定するポイント。決定ポイントは、変数名、値、および経路で構成されたテーブルである。(2) 決定ポイントは作業プロセ

スの一部である。たとえば、『新しい口座の開設』作業プロセスの一部である作業バスケットが、信用情報にもとづいて、承認を受けるか否かの地点は、決定ポイントの一例である。

コレクション・ポイント (*collection point*) も参照。

現行の文書 (current document). 処理中の文書。

言語プロファイル (language profile). 時刻形式や日付形式など、地域に固有のパラメーターを定義するために Content Manager for iSeries で使用される制御ファイル。

検索基準 (search criteria). Content Manager for iSeries の場合、ライブラリー・サーバーで実行される論理検索を表すために使用されるテキスト・ストリング。

項目 (item). (1) 保険請求書やフォルダーなど、物理的な文書を表すために合わせて指定する属性およびオブジェクト (イメージ・データ、注釈、ノート、その他の内容が含まれている 1 つまたは複数のファイル) のセット。

文書 (*document*) も参照。 (2) ライブラリー・サーバーが管理する情報の最小の単位。項目には、フォルダー、文書、ワーク・バスケット、またはプロセスがある。ライブラリー・サーバー機能の外では、オブジェクト (*object*) とも呼ばれる。

コレクション (collection). 通常、類似したパフォーマンス、使用可能性、バックアップ、および保存期間の特性をもつオブジェクトのグループに関連付けられるストレージ管理制御を定義したもの。

コレクション・ポイント (collection point). (1) 処理を続行する前に、特定のイベントが発生、または同期化されるのを作業パッケージが待つポイント。 (2) コレクション・ポイントは作業プロセスの一部分である。たとえば、『新しい口座の開設』作業プロセスの一部である作業パッケージが、信用情報が検査されるまで待つ必要がある地点は、コレクション・ポイントの一例である。決定ポイント (*decision point*) も参照。

混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー (MO:DCA) (Mixed Object: Document Content Architecture (MO:DCA)). 交換環境内および環境間において、アプリケーション同士の間でオブジェクト・データを交換できるようにするために開発された IBM のアーキテクチャー。

混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション (MO:DCA-P) (Mixed Object: Document Content Architecture-Presentation

(MO:DCA-P)). MO:DCA のサブセットとなるアーキテクチャー。Content Manager for iSeries ワークステーションに表示または印刷のために送る文書を入れるエンベロープとして利用される。

コンテンツ・クラス (content class). オブジェクトのデータ形式 (MO:DCA、TIFF、または ASCII など) を示す数字。

コンビニエンス・ワークステーション (convenience workstation). プリンターおよびスキャナーを備えている表示ワークステーション。

[サ行]

サーバー (server). ローカル・エリア・ネットワークにおいて、他のデータ・ステーションに機能を提供するデータ・ステーション。たとえば、ファイル・サーバー、プリント・サーバー、メール・サーバー、など。

先入れ先出し法 (FIFO) (first in first out (FIFO)). キュー手法の 1 つ。キューに入っていた時間が最も長い項目が次に取り出される。

作業順序 (work order). ワーク・バスケットのなかの作業パッケージの順序。

作業パッケージ (work package). 1 つの場所から別の場所に送られる作業。作業パッケージへのアクセスおよび処理はワーク・バスケットを介して行う。

作業プロセス (work process). ワーク・マネージメントにおいて、作業パッケージが流れる一連のステップ、イベント、および規則。つまり、作業パッケージの作業を進めるときに従う経路、コレクション・ポイント、および決定ポイントを組み合わせたものである。

索引クラス (index class). オブジェクトを保管したり、検索したりするためのカテゴリであり、キー・フィールドと呼ばれる属性の名前付きのセットで構成されている。Content Manager for iSeries で項目を作成するときは、アプリケーション・プログラムで、索引クラスを割り当て、そのクラスで必要とされるキー・フィールドを与える必要がある。索引クラスは、オブジェクトに関する、自動処理の必要条件とストレージ要件を識別する。

索引付け (index). 文書またはフォルダーを索引クラスに関連付けて、その索引クラスの必須キー・フィールドの値を指定すること。

サスペンド (suspend). 指定された条件が満たされるまで、作業パッケージをワーク・バスケットに保持しておくこと。作業パッケージを中断する条件は複数設定で

きるので、1つの作業バスケットについて複数の中断要求が存在することもある。文書の作業パッケージは、特定の日付により中断することができる。フォルダーの作業パッケージは、特定の日付または索引クラスにより中断することができる。

サブシステム (subsystem). 2次システムまたは従属システム、あるいはシステムのプログラミング・サポート部分であって、通常、制御するシステムと独立の操作または制御するシステムと同期した操作が可能なもの。

磁気記憶装置 (magnetic storage). 所定の素材の磁気特性を使用する記憶装置。

磁気テープ (magnetic tape). データを保管できる磁気層をもつテープ。

磁気テープ装置 (magnetic tape device). 磁気テープ上にデータを書き込んだり、磁気テープからデータを読み取る装置。

システム管理者 (system administrator). 光ディスク・ライブラリー・サブシステムおよび部門プロセッサを管理する担当者。システム管理者は、問題判別および解決を援助する。管理者 (*administrator*) と対比。

システム管理ストレージ (SMS) (system-managed storage (SMS)). ストレージ管理に対する Content Manager for iSeries のアプローチ。システムはオブジェクトの場所を決定し、オブジェクトのバックアップ、移動、空間、セキュリティなどを自動的に管理する。

システム・サポート・プログラム (SSP) (System Support Program (SSP)). 他のプログラムの実行およびディスプレイ装置およびプリンターなどの関連装置の操作を管理する IBM ライセンス・プログラムのグループ。SSP は、ディスクからディスクへの情報のコピーなどの、共通タスクを実行するユーティリティー・プログラムも含む。

指定変更 (override). 以前のパラメーターまたは値を置き換える 1つのパラメーターまたは値。

随時経路 (ad hoc route). 定義済みのプロセスに属していない経路。随時経路は、ユーザーが項目をワーク・バスケットに直接割り当てると開始する。ユーザーはその項目を再割り当てすることによって、あるワーク・バスケットから別のワーク・バスケットへの経路を手動で定めることができる。

スキャナー (scanner). 空間パターンを一部分ずつ調べ、そのパターンに対応するアナログまたはデジタルの信号を生成する装置。

スキャナー・ワークステーション (scanner workstation). スキャナーを装備した表示ワークステーション。

スキャン (scanning). 文書を Content Manager for iSeries ワークステーションに入れるための物理的プロセス。文書がスキャンされると、それは永続的に記憶される。

ステージング (staging). 保管されたオブジェクトを、オフラインまたは優先順位の低い装置から、オンラインまたは優先順位の高い装置に移動するプロセス。通常、システムからのオンデマンドまたはユーザーの要求によって行われる。ユーザーが永続ストレージに保管されているオブジェクトを要求すると、作業コピーがステージング域 (*staging area*) に書き込まれる。

ストレージ (storage). 記憶装置にデータを入れる操作。

ストレージ方式 (storage method). 光ディスクに一緒に保管するために文書をグループ化する手法。

ストレージ・システム (storage system). Content Manager for iSeries での、ストレージに関する総称の用語。

スプール・ファイル (spool file). 印刷を待機している出力データ、またはプログラムによる処理を待機している入力データを保持するファイル。

スロット (slot). (1) 取り外し可能な記憶メディアとして使用される装置内の位置。(2) 光ディスク・カートリッジが保管されている光ディスク・ライブラリー内のスペース。光ディスク・カートリッジ (*optical cartridge*) を参照。

制御ファイル (control files). オペレーターが実行する作業のカテゴリーとシステムが認識する文書のタイプを管理するファイル。

属性 (attribute). Content Manager for iSeries の API で使用され、項目 (文書またはフォルダー) と関連付けられる単一の値。各索引クラスについて、8個までの属性をもつことができる。

[夕行]

注釈 (annotation). 追加の記述的なコメントまたは説明のための注。

直接アクセス記憶装置 (DASD) (direct access storage device (DASD)). アクセス時間がデータの保管場所に左右されない装置。

テープ (tape). 磁気テープ (*magnetic tape*) を参照。

テープ・カートリッジ (tape cartridge). カートリッジ (*cartridge*) を参照。

独立型 (stand-alone). 他のすべての装置、プログラム、またはシステムから独立している操作に関する用語。

特権 (privilege). Content Manager for iSeries に保管されているオブジェクトに関する特定のタスクをアクセスまたは実行するためのユーザーの権限認可。システム管理者が特権を割り当てる。

特権セット (privilege set). Content Manager for iSeries の場合、システムのコンポーネントや機能を処理するための特権のコレクション。システム管理者が、ユーザー (ユーザー ID) およびユーザー・グループに特権セットを割り当てる。

[ナ行]

ネットワーク (network). 情報の送受信のために接続されるプログラムおよび装置の編成。

ネットワーク・テーブル・ファイル (network table file). 各 Content Manager for iSeries サーバーのそれぞれのノードに関する、システム固有の構成情報が入っているテキスト・ファイルであり、インストール時に作成される。サーバーはそれぞれ、それを識別するネットワーク・テーブル・ファイルをもっている必要がある。ネットワーク・テーブルの名前は常に、FRNOLNT.TBL である。

[ハ行]

バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB) (binary large object) (BLOB). 単一オブジェクトとして処理される 2 進データの大きなストリーム。

パン (pan). 表示イメージ全体を漸次変換して、イメージの側面移動の視覚的印象を提示すること。

光ディスク (optical disk). 光学技術で読み取り可能なデジタル・データを入れるディスク。デジタル光ディスク (*digital optical disk*) と同義。

光ディスク (optical). 光ディスク記憶に関する用語。

光ディスク記憶サポート (Optical Storage Support). 独立型の光ディスク・ドライブ、光ディスク・ライブラリー、および Content Manager for iSeries の間の通信を

サポートするソフトウェア。このソフトウェアは、光ディスク・コントローラーとして機能するシステム/36™ 5363 装置で実行される。

光ディスク・カートリッジ (optical cartridge). 保護カバーに入った光ディスクからなる記憶装置。カートリッジ (*cartridge*) も参照。

光ディスク・システム (optical systems). 光ディスク・プラットフォームにイメージ・データを記憶するために使用するハードウェア。光ディスク・ライブラリーを収納できるのは、直接接続の光ディスク・システムだけである。

光ディスク・システム・プロファイル (optical system profile). 文書の光ディスク記憶に使用する光ディスク制御機構を定義するために使用されるファイル。

光ディスク・ドライブ (optical drive). 光ディスク上のデータのシーク、読み取り、または書き込みをするために使用されるメカニズム。光ディスク・ドライブは、光ディスク・ライブラリーの中、または独立型の装置として常駐することができる。

光ディスク・ボリューム (optical volume). 光学的に記憶されたデータが収納されている両面の光ディスクの片面。

光ディスク・ライブラリー (optical libraries). 光ディスクにイメージ・データを保管するために使用するソフトウェア。光ディスク・ライブラリーは、直接接続光ディスク・システムでのみ使用できる。

光ディスク・ライブラリー・サブシステム (optical library subsystem). イメージ・データを長期間保管できるようにするハードウェアおよびソフトウェア。イメージ・ホスト (*image host*) も参照。

表示テキスト・オブジェクト・コンテンツ体系 (PTOCA) (Presentation Text Object Content Architecture (PTOCA)). 表示テキスト・データの交換を可能にするために開発されたアーキテクチャー。

表示ワークステーション (display workstation). iSeries サーバーに事前にスキャンまたはインポートされている文書を表示するために主に使用されるイメージ処理ワークステーション。

フォルダー (folder). Content Manager for iSeries の場合、他のフォルダーまたは文書を収容できるオブジェクト。

フォルダー・バランス (folder balancing). iSeries において、文書をシステム内の使用可能なフォルダーに均等に分散する処理。

フォルダー・マネージャー (folder manager). Content Manager for iSeries 以外の IBM Content Manager for iSeries システムの場合、データ・モデルおよび API のサブセットを記述するために使用される用語。Content Manager for iSeries の場合、Content Manager for iSeries API のセット全体を指す用語。

プラッター (platter). 光ディスク (optical disk) を参照。

プリンター・ワークステーション (printer workstation). プリンターを装備した表示ワークステーション。

プログラム一時修正 (PTF) (Program Temporary Fix (PTF)). 現在の未修正のプログラムのリリースにある欠陥のために起こったものとして IBM が診断した問題の一時的な解決またはバイパス。

プロセス (process). 作業パッケージの作業を進めるときに従う一連のステップ、イベント、および規則。つまり、事前に定義されたタイプの作業パッケージの作業を進めるときに従う経路、コレクション・ポイント、および決定ポイントを組み合わせたものである。

たとえば、「新しいアカウントの開設」というプロセスの内容は以下になる。

- 新しいアカウントの開設に関連する作業パッケージの作業を進めるときに従うステップ
- 新しいアカウントに関連する作業パッケージをシステム上の別の地点に転送するときの条件となるイベント (信用情報の検査など)
- 新しいアカウントに関する情報をもとにそのアカウントを開設するかどうかを決めるときの判断基準となる情報 (承認 / 却下の判断基準となる信用格付けなど)

プロセス項目 (process item). 作業プロセスの中で構築ブロックとして使用される項目。

プロファイル (profile). システムによって実行される処理のカテゴリーとシステムによって認識されるユーザーのタイプに関するファイル。

分散データ管理 (DDM) (distributed data management (DDM)). リモート・システムに存在しているファイルで、アプリケーション・プログラムを働かせるシステム・サポート・プログラムの機能。

文書 (document). (1) 1 つ以上の基本部分が含まれる項目。(2) システムとユーザーの間で独立の単位として保管、検索、および交換することができるテキストの名前付きの構成単位。オブジェクト (object) とも呼ばれる。単一の文書に、さまざまなタイプの基本部分 (スプ

レッドシート・ファイルなどのテキスト、イメージ、オブジェクトを含む) を含めることができる。

文書コンテンツ・アーキテクチャー (DCA) (document content architecture (DCA)). オフィス・システムのネットワーク内でやりとりされる文書に対して情報の整合性を保証するアーキテクチャー。DCA は、文書の形式と意味を指定するときの規則を提供する。また、変更可能テキスト (変更が可能) と最終形式テキスト (変更が不可) を定義している。

ページ (page). 単一の物理メディア。例えば、8.5 x 11 インチの用紙。

ページ・イメージ (page image). 1 枚の物理ページを電子的に表現したもの。ページ・イメージの境界は、スキャナーの電気機械特性とその受信側のデータ処理システムで実行されているイメージ収集アプリケーションの仕様によって異なる。

ページ・スキャン (page scan). 物理ページ (紙) をスキャンしてページのビット・イメージを作成する電気機械的な処理。

保存 (archiving). バックアップ・ファイルおよび任意の関連したジャーナルを、通常、ある一定期間の間保存しておくこと。

ボリューム (volume). 便宜的に 1 つの単位として処理できる、データの特定の部分。(データ・キャリアも併せて)。

[マ行]

マシン生成データ構造 (MGDS) (Machine-Generated Data Structure (MGDS)). イメージから抽出されて、汎用データ・ストリーム (GDS) 形式にされたデータ。

[ヤ行]

ユーザー ID プロファイル (user ID profile). 各ユーザーごとに 1 つの項目が入っているファイル。項目には処理の適格性などの情報が入れられる。

ユーザー (user). Content Manager for iSeries のサービスを要求している人。この用語は、一般に、Content Manager for iSeries API を使用するアプリケーション開発者ではなく、クライアント・アプリケーションの使用者を指している。

ユーザー出口 (user exit). (1) IBM 提供プログラムにおいて、ユーザー出口ルーチンに制御を移すことのできる 1 つの点。(2) IBM ソフトウェア・プロダクトから提供されるプログラミング・サービスであり、あとでア

アプリケーション・プログラムの実行中にユーザー指定のイベントが起こったときに、そのアプリケーション・プログラムに制御を戻すサービスを要求できるもののこと。

ユーザー出口ルーチン (user exit routine). IBM 提供のプログラム中のユーザー出口で制御権を受け取るために、ユーザーが作成したルーチン。

優先順位 (priority). (1) タスクに割り当てられたランク度である、システム・リソースを受け取る際の優先度を決めるもの。(2) Content Manager for iSeries のワークフローにおいては、作業を行う際の優先順位を指す。優先順位によって、作業パッケージの作業順序が決まる。番号の大きい方が優先順位が高い。

横並び (side by side). 文書表示ウィンドウの機能であり、複数ページ文書の中から隣り合わせた 2 ページを表示する。

[ラ行]

ライブラリー・サーバー (library server). 1 つまたは複数のオブジェクト・サーバーに保管されている項目に関する索引情報が入っている Content Manager for iSeries のコンポーネント。

リリース (release). 作業パッケージの中断条件を取り除き、作業バスケットを処理できるようにすること。保留状態の作業パッケージが保留を解除されるのは、特定の条件を満たしたとき、または権限のあるユーザーが条件を変更して、中断要求の設定を手操作により解除したときである。

レンダリングする (render). 通常であればイメージとは無関係なデータを、イメージとして捕らえて表示すること。Content Manager for iSeries の場合は、表示の目的でイメージとしてワード処理文書を提示することができる。

ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) (local area network (LAN)). 限定された地域内でユーザーの構内にあるコンピューター・ネットワーク。

[ワ行]

ワークステーション (workstation). ユーザーが入力、索引付け、および印刷をするときに使用するコンピューター処理装置、イメージ表示装置、スキャナー、およびプリンター。

ワークフロー (workflow). 企業において作業プロセスおよび作業環境を定義して、作業の流れを自動化しビジネス・プロセスを制御するためのシステム。

ワーク・バスケット (workbasket). 作業パッケージを収納するもの。ワーク・バスケットは、プロセス定義または随時経路の一部として使用することができる。Content Manager for iSeries では、その後の処理を待つために作業パッケージを割り当てできる Content Manager for iSeries システム内の論理位置。

ワーク・バスケットの定義には、その内容の表示、状況、およびセキュリティーを制御する規則が含まれません。

[数字]

1 次プロセッサ (primary processor). 処理装置のグループの中で、他のすべての装置が連絡するのに介在するメインの処理装置とその内部記憶装置。

1 バイト文字セット (SBCS) (Single-Byte Character Set (SBCS)). それぞれの文字が 1 バイトを占める文字のセット。

2 次プロセッサ (secondary processor). 処理装置のグループの中で、1 次装置以外の処理装置。

2 バイト文字セット (DBCS) (Double-Byte Character set (DBCS)). それぞれの文字が 2 バイトを占める文字のセット。記号が多いため 256 個のコード点では表現できない言語 (日本語、中国語、韓国語など) では、2 バイト文字セットが必要となる。DBCS 文字の入力、表示、および印刷には、特別なハードウェアおよびソフトウェア・サポートが必要とされる。

A

APAR. プログラム診断依頼書 (Authorized Program Analysis Report)。

API. アプリケーション・プログラミング・インターフェース (application program interface)。

APPC. 拡張プログラム間通信機能 (Advanced program-to-program communications)。

APPN[®]. 拡張対等通信ネットワーク機能 (APPN[®])。

AS/400[®]. Application System/400。

D

DASD. 直接アクセス記憶装置 (Direct access storage device)。

DBCS. 2 バイト文字セット (Double-byte character set)。

DDM. 分散データ管理 (Distributed data management)。

H

HTML. ハイパーテキスト・マークアップ言語 (Hypertext markup language)。

I

iSeries オブジェクト・ディレクトリー・プロファイル (iSeries object directory profile). イメージ文書保管に使用される iSeries オブジェクト・ディレクトリーを識別するために Content Manager for iSeries で用いられる制御ファイル。

L

LAN. ローカル・エリア・ネットワーク (Local area network)。

LIFO (後入れ先出し法) (LIFO (last in, first out)). キュー手法の 1 つ。最後にキューに入れられた項目が次に取り出される。

LU 6.2. システム・ネットワーク体系 (SNA) において、配布処理環境の 2 つのアプリケーション・プログラムの間のセッションのタイプ。SNA 文字ストリングまたは構造化フィールドのデータ・ストリームを使用する。たとえば、iSeries アプリケーションとの間で CICS® 通信を使用するアプリケーション・プログラム。

M

MGDS. マシン生成データ構造 (Machine-Generated Data Structure)。

MO:DCA. 混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー (Mixed Object: Document Content Architecture)。

MO:DCA-P. 混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション (Mixed Object: Document Content Architecture-Presentation)。

MRI. 機械可読情報 (Machine-readable information)。

N

NLS. 各国語サポート (National language support)

O

OS/2®. Operating System/2®

OS/400. Operating System/400®

P

PDF. ポータブル文書形式 (Portable document format)。

PTF. プログラム一時修正 (Program temporary fix)。

PTOCA. 表示テキスト・オブジェクト・コンテンツ体系 (Presentation Text Object Content Architecture)。

S

SBCS. 1 バイト文字セット (Single-byte character set)。

SMS. システム管理ストレージ (System-managed storage)。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス・リスト項目 67
アクセス・リスト項目のコピー 70
アクセス・リスト項目の処理 67
アクセス・リスト項目の追加 68
アクセス・リスト項目の表示 71
アクセス・リスト項目の変更 69
アクセス・リストのコピー 65
アクセス・リストの削除 65
アクセス・リストの作成 63
アクセス・リストの処理 62
アクセス・リストの表示 66
アクセス・リストの変更 64
「移動する光ディスクの指定」 142
「移動する光ディスクの指定」
(EKD31203) 143
インポート、イメージの
iSeries から 129
インポート処理 129
エラー・ログ・ファイル 136
「オブジェクト削除の開始」パネル 128
「オブジェクト・インポート開始」パネル
129
オブジェクト・ディレクトリー 92
「オブジェクト・ディレクトリーのコピー」
パネル 96
「オブジェクト・ディレクトリーの削除の
確認」パネル 97
「オブジェクト・ディレクトリーの作成」
パネル 94
「オブジェクト・ディレクトリーの処理」
パネル 92
「オブジェクト・ディレクトリーの表示」
パネル 97
オブジェクト・ディレクトリーのプロファイ
ル 94
「オブジェクト・ディレクトリーの変更」
パネル 96

[カ行]

解除
作業バスケット・ロック 139, 145
文書ロック 139, 145

解除 (続き)
ワーク・マネージメント・プロファイ
ルのロック 139, 145
管理、プロファイル定義の 32
管理処理
光ディスク・ストレージへの新しい入
力文書の書き込み 135
「キー・フィールドのコピー」プロファイ
ル・メニュー 13
「キー・フィールドの削除の確認」メニュ
ー 14
「キー・フィールドの作成」パネル 11
「キー・フィールドの処理」パネル 10
「キー・フィールドの表示」パネル 14
「キー・フィールドの変更」プロファイ
ル・メニュー 13
「記憶クラスのコピー」パネル 118
「記憶クラスの削除の確認」パネル 119
「記憶クラスの作成」パネル 114, 115
「記憶クラスの処理」パネル 112
「記憶クラスの表示」パネル 119, 120
「記憶クラスの変更」パネル 117
記憶クラス・プロファイル 110
グループ項目の除去の確認 61
グループ項目の処理 59
グループ項目の追加 60
グループのコピー 57
グループの削除 57
グループの作成 55
「グループの処理」パネル 54
グループの表示 58
グループの変更 56
グループ・エントリーの削除 71
更新
オブジェクト・ディレクトリーのプロ
ファイル 94
記憶クラス・プロファイル 113
「項目ロックの解除」パネル 140
コピー
光ディスク・システム ID プロファイ
ル 108
「コレクションのコピー」パネル 125
「コレクションの削除の確認」パネル
125
「コレクションの作成」パネル 122
「コレクションの処理」パネル 121
「コレクションの表示」パネル 126
「コレクションの変更」パネル 124

[サ行]

「サーバー項目のコピー」パネル 89
「サーバー項目の作成」パネル (1 次プロ
セッサ) 87
「サーバー項目の作成」パネル (2 次プロ
セッサ) 88
「サーバー項目の表示」パネル (1 次プロ
セッサ) 91
「サーバー項目の表示」パネル (2 次プロ
セッサ) 91
「サーバー項目の変更」パネル (1 次プロ
セッサ) 89
「サーバー項目の変更」パネル (2 次プロ
セッサ) 89
「サーバーの削除の確認」パネル 90
「サーバーの処理」パネル 86
「索引クラスのコピー」パネル 28
「索引クラスの削除の確認」パネル 28
「索引クラスの作成」パネル 17
「索引クラスの処理」パネル 16
「索引クラスの表示」パネル 29
「索引クラスの変更」パネル 27
削除
記憶クラス・プロファイル 118
光ディスク・システム ID プロファイ
ル 109
ワーク・バスケット・プロファイル
39
削除、イメージの
iSeries から 128
削除処理 128
作成 100
オブジェクト・ディレクトリーのプロ
ファイル 94
記憶クラス・プロファイル 113
ワーク・バスケット・プロファイル
33
指定
処理の実行の間の時間間隔 128, 134
光ディスク・システム間を移動するブ
ラッター 141
修正
オブジェクトのインポート処理エラー
132
対話式検索処理エラー 133
光ディスク記憶処理エラー 138
光ディスク配布処理エラー 135
光ディスク・バッチ検索処理エラー
135

「使用済みボリュームの表示」パネル
120
「ジョブの処理」メニュー 127
処理
オブジェクト・ディレクトリー 92
記憶クラス 112
サーバー 86
ストレージ方式 80
セットアップ
コレクションによる光ディスク記憶
81
システム割り当てによる光ディスク記
憶 82

[タ行]

「対話式検索の終了」パネル 133
追加
オブジェクト・ディレクトリーのプロ
ファイル 94
記憶クラス・プロファイル 113
「データベース・ユーティリティー」メ
ニュー 4, 139
定義
記憶クラス 110
光ディスク・システム 97
iSeries サブディレクトリーにある文書
の数 94
特記事項 155
「特権セットのコピー」パネル 52
「特権セットの削除の確認」パネル 53
「特権セットの作成」パネル 45, 48, 50,
51
「特権セットの処理」パネル 44
「特権セットの表示」パネル 53
「特権セットの変更」パネル 52

[ハ行]

光ディスクからの文書の検索 83, 135
光ディスク記憶エラー・レポート 138
光ディスク記憶時間の指定 137
光ディスク記憶処理 137
光ディスク記憶装置 79
「光ディスク記憶の開始」パネル 137
光ディスク記憶方式
コレクション 80
システム割り当て 80
光ディスク記憶方式の実施 81
光ディスク記憶要求の配布 133
光ディスク検索エラー・レポート 135,
136
光ディスク検索処理 135
「光ディスク検索の開始」パネル 135

「光ディスクの移動の確認」
(EKD31202) 144
光ディスクの管理 79
光ディスクの配布 134
光ディスク配布時間の指定 134
「光ディスク分配の開始」パネル 134
「光ディスク・システムのコピー」パネル
108
「光ディスク・システムの削除の確認」パ
ネル 109
「光ディスク・システムの作成」パネル
100, 101, 103
「光ディスク・システムの処理」パネル
99
「光ディスク・システムの表示」パネル
109, 110
「光ディスク・システムの変更」パネル
107, 108
光ディスク・システム・プロファイル 97
光ディスク・ストレージへの新しい入力文
書の書き込み 137
光ディスク・ストレージ方式の設計 80
光ディスク・ストレージ・システム 79
光ディスク・パス 113
光ディスク・プラッターの移動 141
表示
オブジェクト・ディレクトリーのプロ
ファイル 94
記憶クラス・プロファイル 113
光ディスク・システム ID プロファイ
ル 109
文書を光ディスクから直接 84
プラッター、光ディスク・システム間を移
動する 141
プラッター装着メッセージ 105
プラッター装着メッセージに対する応答
105
プロファイル
オブジェクト・ディレクトリー 92
記憶クラス 110
光ディスク・システム 97
プロファイル定義
管理 32
「プロファイル保守」メニュー 3
文書の保管
コレクションによる 80
システム割り当て方式の使用 80
光ディスクへの 80
変更
オブジェクト・ディレクトリーのプロ
ファイル 94
記憶クラス・プロファイル 113, 117
光ディスク・システム ID プロファイ
ル 107

[ヤ行]

「ユーザー・プロファイルのコピー」パネ
ル 75
「ユーザー・プロファイルの削除の確認」
パネル 76
「ユーザー・プロファイルの作成」パネル
73
「ユーザー・プロファイルの処理」パネ
ル 72
「ユーザー・プロファイルの表示」パネ
ル 76
「ユーザー・プロファイルの変更」パネ
ル 75

[ラ行]

レポート
光ディスク記憶エラー 138
光ディスク検索エラー 135
ロック解除するワークステーションの指定
139

[ワ行]

「ワークバスケットのコピー」パネル 38
「ワークバスケットの削除の確認」パネ
ル 39
「ワークバスケットの作成」パネル 34,
36
「ワークバスケットの処理」パネル 32
「ワークバスケットの表示」パネル 40
「ワークバスケットの変更」パネル 38
ワークフローでの処理 31
ワーク・バスケットのコピー 38
ワーク・バスケットの削除の確認 39

C

「Content Manager for iSeries」のメイ
ンメニュー 2

D

DASD への文書のコピー
欠点 85
利点 85

E

EKD31201 (「移動する光ディスクの指
定」) 142
EKD31202 (「光ディスクの移動の確
認」) 144

EKD31203 (「移動する光ディスクの指
定」) 143



プログラム番号: 5722-V11

Printed in Japan

SC88-4004-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12